

始





319-380

陸軍大學校校長陸軍中將  
陸軍大學校幹事陸軍步兵大佐  
陸軍大學校兵學教官陸軍步兵中佐  
陸軍大學校兵學教官陸軍步兵少佐

河合顯作校序  
吉岡金造校閱  
渡邊二郎校正  
多門二助  
佐藤子之繁  
井上繁講述

# 初級戰術講授錄



第參卷

大正

6. 8. 30

內交

陸軍大學校將校集會所



# 初級戰術講授錄 第三卷

## 研究項目

行軍舍營及行軍前哨ノ研究	一
想定	一
第一問題(師團長ノ決心)	五
答解上ノ著眼	六
原案	九
宿營地及宿營法選定ニ關スル原則的説明	九
第二問題(師團前衛命令)	二四
答解上ノ著眼	二四
第三問題(前哨命令)	三九
答解上ノ著眼	四〇

研究項目



答解ニ對スル總評	四六
第四問題(舍營計畫要圖)	六四
答解上ノ著眼及總評	六四
局地戰之研究	八五
局地戰一般ノ要領ニ關スル原則的說明	八五
高地戰ニ關スル原則的說明	八八
谷地戰ニ關スル原則的說明	九三
隘路戰ニ關スル原則的說明	九七
掩蔽物利用ノ戰鬪ニ關スル原則的說明	一〇七
延長物ニ於ケル戰鬪ニ關スル原則的說明	一一四
山地戰	一一八
想定	一一八
第一問題(支隊任務達成ノ爲龜山附近地形觀察)	一二〇
第二問題(支隊長ノ決心)	一二〇

第一、二問題答解上ノ著眼	一二一
原案	一二四
第三問題(支隊長ノ敵情判斷)	一二八
答解上ノ著眼	一二八
原案	一三〇
第四問題(支隊長ノ決心)	一三二
原案	一三二
第五問題(支隊ノ攻撃配備要圖)	一三七
答解上ノ著眼	一四〇
第六問題(支隊長ノ決心)	一四六
答解ニ對スル總評	一四六
答解上ノ著眼	一四九
原案	一五六
第七問題(敵陣地攻撃ノ爲ノ地形判斷)	一六二



四

答解上ノ著眼及原案……………一六二

山地戰ニ關スル原則的説明……………一六九

森林及住民地戰……………一九三

想定……………一九三

第一問題(支隊長ノ決心)……………一九六

答解上ノ著眼……………一九六

原案……………一九九

第二問題(先遣支隊防禦配備要圖)……………二〇〇

答解ニ對スル總評……………二〇〇

答解上ノ著眼……………二〇四

森林及住民地(圍壁ヲ有ス)ノ利用ニ關スル原則的説明……………二〇八

河川戰鬪……………二一七

想定……………二一七

第一問題(支隊長ノ決心)……………二二〇

答解ニ對スル總評……………二二一

答解上ノ著眼……………二二六

原案……………二三一

第二問題(支隊長ノ決心)……………二三五

原案……………二三五

第三問題(支隊ノ渡河計畫)……………二三五

答解上ノ著眼……………二三五

河川戰鬪ニ關スル原則的説明……………二四五

迂回ニ關スル原則的説明……………三〇二

持久戰ニ關スル原則的説明……………三〇九

初級戰術講授錄 第三卷研究項目終



# 初級戰術講授錄 第三卷

## 行軍舍營及行軍前哨ノ研究

想定

所要地圖

二十萬分一  
二萬分一

名古屋、山田、京都及大阪、和歌山、  
四日市、鹽濱、若松、櫻、神戸、白子、

一 藍軍ハ主力ヲ以テ愛知川村(彦根南方約三里)附近、一部ヲ以テ名古屋附近ニ赤軍ハ主力ヲ以テ大阪附近、一部ヲ以テ山田附近ニ集中ナリ

二 戰列部隊ヲ以テ名古屋西方地區、輜重ヲ以テ同地東方地區ニ集合ヲ終リタル藍軍第一師團ハ伊勢平地ノ敵ヲ擊攘スヘキ任務ヲ受ケ四月十四日早朝津島(名古屋西方約三里)附近出發桑名(同地附近木曾川及揖斐川ニハ永久橋アリ)ヲ經テ前進



シ同日午後二時其前衛歩兵ノ先頭ヲ以テ松寺(桑名西方約一里)北端附近ニ達ス

此時迄ニ第一師團長ノ知り得タル狀況概ネ左ノ如シ

(1) 先キニ伊勢平地方面ノ搜索ニ從事シツツアリシ軍騎兵ノ一部タル騎兵第一聯隊ハ今朝來約倍數ノ敵騎ニ壓迫セラレ主力ヲ以テ北方ニ一部ニ小隊ヲ以テ西北方ニ退却シ正午以來主力ハ稻生附近一部ハ關附近ヲ占領シ秋永及楠原附近ニ在ル敵騎ト相對ス

(2) 第一師團前衛騎兵タル師團騎兵中隊ノ主力ハ騎兵第一聯隊ノ主力ト協力シ白子附近ヲ占領シ秋永附近ニ在ル敵騎ト相對ス

(3) 秋永附近ノ敵騎ハ約三中隊楠原附近ノ敵騎ハ約一中

隊ナルカ如シ

(4) 騎兵第一聯隊ハ第一師團ノ進出ト共ニ主力ヲ以テ關方面ニ轉進シ軍主力ノ側面ヲ掩護スル筈ナリ

(5) 軍飛行機ノ投下セル通報ニヨレハ少クモ一師團ノ敵ハ今朝山田方向ヨリ稻木川東方地區ニ集合ノ後參宮街道ヲ北進シ午前九時三十分頃其歩兵先頭ヲシキモノ櫛田川ノ線ヲ通過セリト

(6) 軍主力ノ前進開始ハ明後十六日頃ノ豫定ナリ  
四月十四日ニ於ケル第一師團ノ軍隊區分左ノ如シ  
前衛

司令官 少將某

歩兵第一旅團(第二聯隊欠)



師團騎兵中隊(半小隊欠)

野砲兵第一聯隊第一大隊

工兵第一大隊(一小隊欠)

衛生隊半部

本隊(同行軍序列)

騎兵半小隊

師團司令部

步兵第二聯隊

野砲兵第一聯隊(第一大隊欠)

步兵第二旅團(第三第四聯隊)

工兵第二中隊ノ一小隊

野砲兵聯隊段列

衛生隊半部

師團電話隊ハ前衛及本隊ノ中間ニ行進中ナリ

(輜重省略)

軍ヨリ配屬セラレタル第一師團架橋縱列ハ輜重第一梯隊ト共ニ行進中ナリ

(注意) 平時衛戍地海面及鐵道輸送ハ顧慮ヲ要セス

二十萬分一、二條實線路、實線路及二萬分一片點線路ハ野砲兵ノ通過ヲ許ス水田ハ概シテ諸兵種ノ通過ニ支障ナシ

### 第一問題

二十二日午後二時ニ於ケル第一師團長ノ決心理由、處置ヲ要セ



ス)

### 第一問題答解上ノ著眼

本問題ノ著眼ハ第一師團長カ全般ノ狀況ニ鑑ミ部下ニ戰術上ニ關シ幾何程度ノ要求ヲナシ休養上ニ就テ如何ナル點迄許シ得ヘキヤヲ決定スルニ在リ之カ爲ニ左ノ事項ヲ研究スルヲ要ス

#### (一) 軍主力方面ノ狀況

軍主力前面ノ敵情ニ關シテハ未タ知ルヲ得サルモ軍ヨリ何等ノ通報ナキト軍ノ前進開始ヲ明後十六日ト豫定シアル等ヨリ察スレハ軍主力方面ノ狀況ハ未タ切迫シアラサルカ如シ換言スレハ軍主力方面ノ狀況ハ第一師團ニ對シ特ニ火急ノ要求ヲ爲シ居ラサルモノト判斷スルヲ得ヘシ

#### (二) 師團當面ノ敵情判斷

山田方面ヨリ北進セシ敵ノ兵力ハ一師團ヲ下ラサルモノニシテ午前九時三十分榑田川ノ線ヲ通過セシカ故ニ續テ前進セハ午後二時ニハ小野江附近雲出川

ノ線ニ達シアルヘク行程ノ關係上本夕ハ恐ラクハ津及其以南ニ宿營スルナラント判斷セララル

#### (三) 師團ノ任務

師團本來ノ任務ハ敵ヲ擊攘スルニ在リト雖距離ト時刻トノ關係上本日敵主力ト交戦スルハ不可能ナルノミナラス其必要ヲ認メス然リト雖山田方面ノ敵兵既ニ津附近ニ進出スヘシト判斷スル以上ハ縱令將來我騎兵第一聯隊ノ關方面ニ轉進ストスルモ師團モ亦軍主力ノ側面ヲ安全ナラシムル爲津附近ノ敵兵西北方我軍主力ノ側面ニ對スル企圖ヲ制シ得ル地點迄ハ少ナクモ本日進出シアルヲ要ス之カ爲ニハ四日市若ハ其附近マテ前進シアルヲ要ス

#### (四) 師團ノ行軍狀態

師團ニシテ本日四日市若ハ其附近迄前進スルモノトセハ先頭ノ同地ニ達スルハ午後四時乃至五時ナルヘシ而シテ本日ニ於ケル行軍行程ハ六里乃至七里ニシテ師團一日ノ行程トシテ普通ノ行進ヲナシタリ且全般ノ狀況特ニ急行軍又



ハ強行軍ヲ要セサルト師團ハ本日發進第一日ナル等ノ關係ヨリ本日ハ該地及其以北ニ宿營スルヲ適當トセン

(五) 師團長爾後ニ於ケル狀況ノ洞察

今ヨリ師團長ノ希望スル地點附近ニ達センニハ尙二乃至三時間ヲ要ス果シテ然ラハ爾後ニ於ケル狀況ハ如何ニ變化スルヤモ計リ難シ之師團長カ爾後夕刻ニ至ル迄ノ狀況ニ關シテ洞察スルヲ必要トスル所以ナリ

師團當面ノ敵ハ津附近ニ宿營スルナラント判斷セラルルカ故ニ騎兵第一聯隊ノ關方面ニ轉進スルニ伴ヒ秋永附近ノ敵騎ノ我師團騎兵中隊ヲ壓迫シテ北進スルコトアルヘシト雖敵主力ト戰鬥ヲ交フル等ノコトハナカルヘキハ判斷スルニ難カラス換言スレハ師團長ハ爾後ノ狀況大ナル變化ヲ呈セサルコトヲ洞察シ得ルナラン果シテ然ラハ師團長ハ今ニシテ本日宿營ノ爲ノ決心ヲナスヲ適當トス宿營設備ニハ尠カラサル時間ヲ要スルモノナルニ於テ殊ニ然リトス

(六) 師團宿營地ノ概定

師團ノ宿營地ハ其先頭部隊四日市附近迄進出スルヲ要スルハ先ニ述ヘタルカ

如シ而シテ師團ハ明日更ニ行軍スルヲ要スルト今夜ニ於ケル特別ノ顧慮少キヲ以テ諸勤務ニ支障ナキ限リニ於テ投宿及明日ノ出發並休養上ノ便トヲ顧慮シテ決定スレハ足レリ  
故ニ師團本隊今夜ノ宿營地ハ四日市、松寺若ハ柿間ニ選定スルヲ至當トス同地附近ニ宿營セハ爾後ニ於ケル師團長ノ企圖ノ遂行ニ便ナルノミナラス投宿及明日ノ出發ノ爲ニモ亦便ニシテ且相當ノ休養上ノ便宜ヲ受ケ得ルノ見込アレハナリ

第一問題原案

師團ハ本夜四日市、柿間ニ宿營セントス

宿營地及宿營法選定ニ關スル原則的説明

陣中要務令第二百四十八ニ「宿營ノ種類、宿營地ノ位置及廣狹ハ主トシテ戰術上及休養上ノ顧慮ニ基キ之ヲ定ムルモノトス」トアリ之宿營法及宿營地選定ノ原則ナ



リ今左ニ之カ解説ヲナサントス

(一) 宿營地(即チ位置、廣袤、形狀)ノ選定

宿營地選定ニ關シテハ、左ノ件ヲ顧慮スルヲ要ス

- (1) 敵情 宿營ニ際シ如何ニ休養上ニ關シ便益アルモ若敵情ニシテ之ヲ許ササレハ其實行ハ不可能ニシテ特ニ敵情ニ顧慮スルノ緊要ナルハ茲ニ贅言ヲ要セサルヘシ
- (2) 爾後ノ企圖 爾後ノ企圖ハ之ヲ下記三種ニ區別スルヲ得ヘシ即チ(第一)宿營直後ニ於ケル企圖(例ヘハ夜襲、夜行軍ノ實施等)(第二)豫察スル敵ノ企圖ニ對スル對抗手段(第三)翌拂曉ニ於ケル企圖等之ナリ而シテ宿營地ハ之等ノ企圖ヲ遂行ニ便ナルカ如ク選定スルコト絶體ニ緊要ナリ  
換言スレハ宿營ハ休養ノ目的ノミナラス兼テ爾後ニ於ケル作戰ノ準備姿勢ナリ故ニ宿營地ハ當ニ其位置ノ選定ニ注意スルノミナラス廣袤、形狀等ニ至ル迄叙上細微ノ點ニ注意シ決定スルヲ要ス例ヘハ夜間敵襲ノ顧慮アルニ際シテハ第一線部隊カ敵ノ近接ヲ察知シテ之ヲ本隊指揮官ニ報告

シ諸隊ヲ所望ノ地ニ集合セシメ得ル程度ニ(前哨ノ抵抗時間ヲモ豫算ス)其廣袤ヲ決定シ又ハ戰鬪展開ノ便ヲ顧慮シテ橫廣ノ形狀ニ或ハ行軍ノ便ヲ顧慮シテ縱長ノ形狀ニ或ハ此兩者ヲ折衷シテ圓形、方形等ニ宿營地ヲ決定スル等ノ如シ

- (3) 友軍トノ關係 作戰上ノ顧慮ニ基キ決定スル宿營地ハ友軍トノ協同動作上彼此適當ナル關係位置ニアルコト緊要ナリ殊ニ近ク隣接部隊アル時ニ於テ然リトス
- (4) 交通、通信ノ難易 交通、通信ノ便否ハ爾後ノ作戰準備、宿營地内ノ設備、諸勤務等ニ大ナル關係ヲ有ス
- (5) 居民ノ狀態 居民ノ舉動モ亦宿營地ノ選定及其形狀ニ關係ヲ有ス殊ニ小部隊又ハ夜間行動ニ不便ナル兵種等ニ於テ然リトス
- (6) 休養ノ便否 宿營ハ自他ノ關係ヲ除外スレハ人類ニ必須ナル夜間ノ休息ヲ容易ニ且十分ナラシムルヲ目的トナスモノナリ從テ休養ノ便否ハ特ニ顧慮スルヲ要ス而シテ休養ニ大ナル影響ヲ與フルモノハ主トシテ宿營



地ノ廣袤ナリトス

休養上ヨリ見タル宿營地ノ廣袤ハ住民ノ狀態ニ關スルカ故ニ學理上ヨリ一定ノ標準ヲ計算スルコト能ハス

(附言) 休養上ヨリスル舍營地ノ廣袤決定ニ關シ實驗ノ結果ナリトシテ傳

說セラルルモノ若干ヲ掲ケ參考ニ資セントス

一 一師團ノ爲ノ宿營地ノ面積幅一里半、縱深三里(四、五平方里)ナルトキハ人口稠密ナラサル地方ニ於テモ猶廣キ宿舍ヲ給スルコトヲ得

二 住民地ノ人口ハ宿營力決定ノ標準トナリ日本内地ニ於テ富力中等ノ地ニ於テハ概ネ人口ト同數ノ兵員ヲ宿營セシムルコトヲ得

三 住民地ノ戸數ヲ知ラント欲セハ該住民地ト概ネ同面積ノ方形ノ住民地ヲ假想シ其十米單位ノ兩邊例ヘハA及Bヲ求ムレハ左式ニヨリテ其概數ヲ得ヘシ

$$戸數 = A \times \frac{1}{2} B$$

四 本邦ニ於テハ一戸ノ家族平均五人トシテ人口ヲ概算スルヲ得

(7) 衛生上ノ顧慮 宿營地ノ決定ニ衛生上ノ注意ヲ要スルハ茲ニ贅スルヲ要セス長時日ニ亘ル宿營ニ於テ殊ニ然リトス

(二) 宿營法ノ決定

宿營法ノ選定ハ敵情、我軍ノ目的、地形、兵種、地方、季節及衛生上ノ狀況等ヲ顧慮シ猶左ノ如キ件ニ注意シテ決定スルヲ要ス

- (1) 夜間ノ集結ニ便ニシテ不時ノ事變ニ應シ易キコト
- (2) 諸勤務、命令傳達容易ナルコト
- (3) 諸隊ノ混淆ヲ避ケ得ルコト
- (4) 諸隊ニ概シテ同一程度ノ便利ヲ與フルヲ得ルコト

狀況

師團長ハ本夜舍營ヲナスニ決シ諸部隊ノ宿營地及前衛ニ關スル件ヲ研究シ要務令第二百五十六同第四百四十六第一項ノ原則ヲ實行センカ爲ニA參謀ヲ前衛司令官ノ許ニ派遣シ左ノ指示



ヲ與フ

師團長ノ前衛司令官ニ與フル指示

- 一 師團ハ本夜四日市、柿村間ニ宿營セントス
- 二 前衛ハ日永、赤堀、濱田附近ニ宿營シ津方面ニ對シ警戒スヘシ  
特ニ騎兵第一聯隊ノ主力ト連絡スヘシ
- 三 命令受領者ヲ朝明橋附近ニ殘置スヘシ

(解説) 此際指示スヘキ事項前掲ノ如シト雖前衛司令官ノ未タ知ラサル敵情アリテ之ヲ告知スルヲ要スル場合ニ在リテハ固ヨリ敵情ヲ示スヲ要スヘク又前衛司令官ニ前衛ノ宿營地ノ外宿營法ヲモ示スヘキヤ否ヤハ專ラ前衛司令官ノ伎倆ニ關ス警戒ニ關スル指示モ亦然リ例ヘハ前衛全部ヲ前哨トナシ而モ本隊ヨリ他ノ前哨ヲ出ス如キ場合ニ於テ隣接兵團トノ關係ヲ顧慮スルヲ要スルトキハ警戒線ヲ示シ或ハ師團長爾後ノ企圖上特ニ前衛ニ對スル要求アルトキハ之ヲ示スヘキモノナリ又稀有ノ場合ナリト雖師團長直轄ノ騎兵前方ニ在リテ其ノ行動主力又ハ一部ヲ以テ前哨線ノ前方ニ行動スルヤ否ヤ

等本夜ノ警戒ニ關係スルトキハ之ヲ指示スヘキモノトス

次ニ師團長ハ本隊各舍營區ノ高級古參者及師團長ト同舍營地ノ舍營司令官ニ所要ノ指示ヲナササルヘカラス之カ爲先ツ師團本隊ノ舍營區ヲ如何ニスヘキヤヲ概定スルヲ要ス

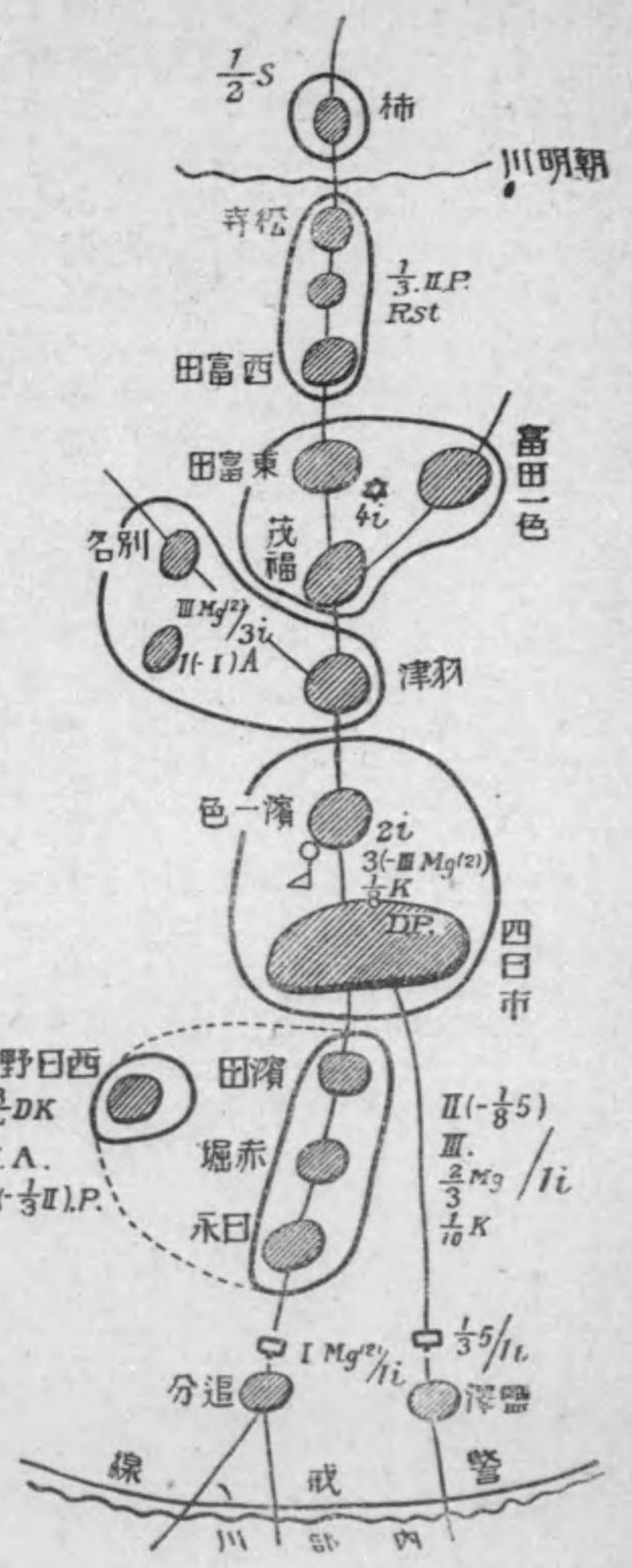
(問)

師團本隊ノ舍營區ヲ如何ニ決定スルヲ適當トスルヤ

(答)

左圖ノ如シ





(解説)

舍營區及舍營地ノ配備ヲ定ムルニハ要務令第二百五十七第一、第二項ノ原則ヲ翫味スルヲ要ス詳言スレハ本狀況ニ於テハ敵ト觸接スヘキ虞ナク又行軍舍營ナルヲ以テ行軍長徑及集合ニ要スル時間ヲ顧慮シ休養及軍需品供給ノ便ヲ顧慮スルヲ要ス尙更ニ研究ヲ要スルハ師團翌日ノ行軍ノ爲ニスル軍隊區分ヲ顧慮シ

テ之ヲ定ムルノ必要ナキヤ否ヤ之ナリ之カ爲ニハ師團長翌日ニ關スル企圖ノ腹案ヲ熟慮スルヲ要ス換言スレハ師團長ハ狀況ノ概要ヲ洞察シテ大體ノ方針ヲ立テ得ルヤ否ヤ若之ヲ爲シ得サルトセハ果シテ如何ニスルヲ要スヘキヤ之ナリ

本狀況ニ於テハ敵ハ本夜津附近ニ停止シタルナルヘク又明日ハ北進ヲナスナラント判斷シ得ヘキカ故ニ師團ハ明十五日ハ神戸又ハ其附近ニテ遭遇戰ヲ交フルモノト判斷シ得ヘシ果シテ然ラハ明日本道(四日市——神戸——上野道)ノ外恐ラクハ海岸道(四日市——北長太——白子道)方面ニ少ナクモ一縱隊ヲ分割スルノ要アルヘシ茲ニ於テ豫メ之カ準備ヲナシ置クヲ要スヘシ之本夜歩兵第三聯隊ノ主力ヲ四日市東部ニ宿營セシムル所以ナリ

舍營區ノ概要ヲ決定セハ師團長ハ先ニ述ヘタル諸官ニ所要ノ指示ヲ與ヘ設備ヲ爲サシムルヲ要ス(要務令第二百六十四)

(問)

行軍舍營及行軍前哨ノ研究



諸隊長ニ師團長ノ與フル指示如何

一八

(答)

B 參謀ヲシテ左ノ如ク指示セシム此參謀ハ行々各隊長ニ舍營區ノ概要及該舍營區ノ高級古參者ヲ通知ス且命令受領者ヲ朝明橋附近ニ出サシム

(A) 四日市舍營司令官タル步兵第二聯隊長ニ與フル指示

一 前衛ハ日永濱田間ニ宿營シ津方向ニ對シテ警戒ス

二 左ノ部隊ハ四日市濱一色ヲ含ムニ舍營セントス

師團司令部、步兵第二聯隊、步兵第三聯隊(第三大隊、機關銃一小隊、騎兵半小隊、師團電話隊)

三 步兵大佐某ハ四日市舍營司令官トス

左ノ件ヲ顧慮シ舍營ノ準備ヲナスヘシ

師團司令部

步兵第二聯隊

- 騎兵半小隊 參宮街道ニ沿フ地區  
師團電話隊  
師團司令部ハ郡役所附近  
步兵第三聯隊ノ主力 東部四日市附近  
舍營地南方境界ハ濱田北端ヲ通スル無名小流ノ線、北方境界ハ海藏川ノ線トス  
警急大集合場ハ四日市西南側乾田附近、下士以下ノ外出散步ハ之ヲ禁ス
- (B) 野砲兵第一聯隊長へ
- 一 砲兵大佐某ハ左記部隊ノ爲海藏村、羽津村ニ於ケル舍營ヲ區處スヘシ
- 步兵第三聯隊第三大隊  
同聯隊機關銃一小隊  
野砲兵第一聯隊(第一大隊欠)
- 舍營地南方境界ハ海藏川ノ線、北方境界ハ八幡北端ヲ通スル無名小流ノ線トス



(C) 歩兵第二旅團長へ

一 歩兵第二旅團(第三聯隊欠)ハ茂福、東富田、富田一色ニ舍營スヘシ  
舍營地南方ノ境界ハ八幡北端ヲ通スル無名小流、北方境界ハ松原北端、西富田南端ヲ連ヌル線トス

(D) 歩兵第三聯隊長へ

一 歩兵第三聯隊ハ左ノ如ク舍營スヘシ  
歩兵第三聯隊第三大隊及機關銃一小隊欠ハ歩兵第二聯隊長ノ區處ニ基キ四日市町東部ニ  
歩兵第三聯隊第三大隊及同機關銃一小隊ハ野砲兵聯隊長ノ區處ヲ以テ羽津村附近ニ

(E) 野砲兵聯隊段列長へ

一 砲兵大尉某ハ部下段列及工兵小隊ノ爲西富田及松寺ニ於ケル舍營ヲ區處スヘシ  
舍營地南方境界ハ松原北端、西富田南端ヲ連ヌル線、北方境界ハ朝明川ノ線

トス

(F) 衛生隊第二半部(半部)へ

一 衛生隊第二半部ハ柿村ニ舍營スヘシ

(解説)

以上ハ本狀況ニ應スル一例ニ過キサレモ狀況ニヨリ警備及設備上ニ關シ各舍營區ノ高級者及舍營司令官ニ一般ノ準繩ヲ與ヘ實施上ニ遺算ナカラシメント欲セハ左記事項ニ關シ意圖ヲ示スコトアルハ勿論ナリトス

緊急舍營ヲナサシムヘキ兵數(要スレハ位置)

土民ニ關スル處置

舍營地内外交通ニ關スル事項

行李ニ對スル處置

舍營地防禦ニ關スル事項

C 參謀ヲシテ大行李ニ關スル事項ヲ處置セシム

一 師團ハ本夜日永、四日市、柿村間ニ宿營セントス

行軍舍營及行軍前哨ノ研究



諸隊ノ宿營區左ノ如シ

前衛

師團司令部

歩兵第二聯隊

歩兵第三聯隊(第三大隊及機關銃一小隊欠)四日市、濱一色

騎兵半小隊

師團電話隊

歩兵第三聯隊第三大隊、機關銃一小隊

野砲兵第一聯隊(第一大隊欠)

歩兵第二旅團司令部

歩兵第四聯隊

野砲兵第一聯隊聯隊段列

工兵一小隊

衛生隊半部

日永、濱田間

三三

柿村

西富田、松寺間

茂福、富田一色、東富田

海藏村、羽津村

二 大行李ハ其先頭町屋川ノ線ニ達セハ各宿營地ニ分進スヘシ  
 次ニ師團輜重ニ宿營地ヲ指示ス  
 一 師團ハ本夜日永、柿村間ニ宿營セントス  
 二 輜重ハ其先頭五明附近ニ達セハ宿營スヘシ  
 (解説) 輜重ニ宿營命令ヲ與フル際已ニ大行李糧秣ノ補充ニ關シ糧食縦列ヲ  
 招致スルノ必要アルトキハ幾何ヲ何レノ地點ニ前進セシムヘキヤヲ  
 命スヘキモノトス  
 以上ノ處置ヲナシ師團長ハ主任參謀(C參謀)ニ命シ宿營命令ノ起案ヲナサシメ朝  
 明橋附近ニ至リ已ニ集合シアル各隊命令受領者ニ完全ナル宿營ニ關スル師團命  
 令ヲ與フ此命令ハ命令受領者ノ招致及其到着及命令起案等ノ時間ヲ顧慮スルト  
 キハ午後三時三十分乃至午後四時ニ於テ發スルコトヲ得ヘシ

### 狀況

午後三時前衛司令官ハ前衛本隊ノ先頭ニ在リテ西富田南端附



近ヲ行進中A師團參謀ノ追及ヲ受ケ前記師團長ノ指示ヲ受ク  
茲ニ於テ前衛司令官ハ中尉副官ニ命シ命令受領ノ爲朝明橋附  
近ニ於テ師團長ノ來著ヲ待タシメ自ラ地圖ヲ案シ前衛命令ヲ  
與フ(要務令第四百十六)

### 第二問題

#### 第一師團前衛命令

#### 第二問題答解上ノ著眼

本命令起案ノ爲ノ著眼ハ本夜ニ於ケル前衛ノ行動ヲ如何ニ規定スヘキヤ、如何ナル  
順序方法ヲ以テ分擔任務ヲ與ヘ之ヲ實施セシムヘキヤニアリ

#### 其一 前衛ノ行動

宿營ニ於ケル前衛ノ動作ノ主ナルモノヲ舉クレハ左ノ三アリ(要務令第四百十七)

(I) 警戒勤務(前哨)

(II) 前哨ニ用ヒサル軍隊ノ動作(宿營)

(III) 廣大ナル地域ニ亘ル搜索及連絡

前哨

(I) 前哨ニ於テ前衛司令官ノ研究スヘキモノハ兵力編組及前哨ニ與フル任務ナリ  
トス而シテ之カ爲ノ原則ハ要務令第三百三十五ニ示シアリ同條ニヨレハ之カ決

定ノ爲ニハ(a)危險ノ大小(b)我軍ノ兵力(c)地形(d)翌日ニ關スル指揮官ノ決心(e)  
警戒時間ノ長短ヲ顧慮スルヲ要ス

(a) 危險ノ大小

危險ノ大小ハ一ニ敵ノ遠近今夜ニ於ケル豫想スル敵ノ行動ニ關ス詳言スレ  
ハ要務令第三百三十九條ノ主旨ノ如ク單ニ敵騎ニ對スル顧慮ノミナルヤ或ハ  
同第四百十條ノ主旨ノ如ク不意ノ敵襲ノ顧慮アルヤ等ニヨリテ定マルヘキ  
モノナリ

本狀況ニ於テハ騎兵第一聯隊ノ主力ハ師團ノ進出ト共ニ他方面ニ轉進スル



ヲ以テ前衛騎兵ハ約三倍ノ敵騎ニ對セサルヘカラスアルニ至ル即チ敵騎ニ對スル願慮ハ比較的大ナルモノナリ

先ニ敵情判斷ニ於テ述ヘタル如ク敵ノ主力ハ津若ハ其附近ニ其前哨ハ上野附近迄進出スルニ至ルヘシト判斷セラル果シテ然ラハ彼我ノ警戒線ハ約三里半ヲ隔ツルニ至ルカ故ニ今夜ハ敵ノ大規模ノ夜襲等ハナカルヘキモ敵ノ一部ノ夜間行動ハ豫期セサルヘカラス蓋シ現行要務令ノ主旨ニヨリテ見レハ警戒ハ寛ナランヨリハ嚴ナルヲ可トスルモノアレハナリ

之ヲ要スルニ本夜ハ或ハ敵一部ノ襲撃ヲ受クルコトアルヘキヲ覺悟セサルヘカラス換言スレハ前述要務令第三百三十九條ト第四百十條ノ中位ニ在ル狀況ト見ルヲ得ヘシ從テ相當ノ警戒ヲ要ス

## (b) 我軍ノ兵力

一師團ナルヲ以テ少ナクモ前兵大隊ハ之ヲ前哨トナスヲ適當トス

## (c) 地形

敵方ニ通スル主要ナル二道即チ參宮道及海岸道ハ警戒スルヲ要スルト同時

ニ内部川ノ諸橋梁ヲモ監視セシメサルヘカラス從テ其警戒正面ハ約四吉米トナルヘシ之カ爲約一大隊ノ兵力ヲ要スヘシ

(附言) 尋常ノ形勢ニ於テ各部ノ警戒面ハ次ノ如クナルヘシ

歩兵小哨 五〇〇乃至六〇〇米  
 騎兵小哨 一〇〇〇乃至一二〇〇米  
 前哨中隊 一二〇〇乃至一五〇〇米  
 歩兵一大隊 約三〇〇〇米(前哨中隊二個)

## (d) 翌日ニ關スル指揮官ノ決心

師團ハ明日前進ヲ企圖スルカ故ニ前述ノ二道及内部川ノ橋梁ハ嚴ニ占領シ置クヲ可トス

## (e) 警戒時間

警戒時間ハ一夜ナリ此點ヨリ觀察セハ本夜ノ前哨ハ簡單ナル配置ニテ可ナリ

叙上ノ諸件ヲ綜合スレハ本夜ニ於ケル前哨ハ敵ノ一部隊ノ襲撃ヲ豫期シ歩兵



一大隊位ノ兵力ヲ要スヘク其警戒線ハ内部川ノ線トナシ警戒面ハ少ナクモ參宮道及海岸道ニ亘ルヲ要スルコトナルヘシ

次ニ前述ノ警戒面ヲ警戒センカ爲幾何ノ前哨區ヲ要スヘキヤヲ研究セサルヘカラス前哨本隊ヲ追分附近ニ位置セシムルモノトスレハ鹽濱附近ハ横方向ニ隔離シ夜間ノ指揮困難ナルヘシ故ニ寧ろ海岸道方向ニハ他ノ警戒隊ヲ出スヲ可トス而シテ之ヲ二前哨トナスカ否ラサレハ前衛本隊ヨリ別ニ一部ノ警戒隊ヲ出ササルヘカラス而シテ予ハ警戒ノ必要ヨリモ地形其他ノ願慮上警戒面ノ補足ヲ要スル主旨ニ於テ寧ろ前衛本隊ヨリ一部隊(一小隊)ヲ出スヲ適當ト認ム此種前哨配置ヲ二前哨ト認ムヘキヤ又後方部隊ヨリ出セル警戒隊ト認ムヘキヤハ其前哨ノ任務ト實力トニ關係ス予ハ一中隊以上ナレハ二前哨區トシ小隊ナレハ後者ト認ムヘキモノナリト解ス

萬一敵襲アリテ前哨ノ支ヘ難キ場合ニハ前衛ハ如何ニ動作スヘキヤヲ研究セシニ此際ハ前衛ハ前哨ニ赴援スルヲ可トス蓋シ夜間ハ前哨本隊ノ退却困難ナルノミナラス我軍ハ元來前進ノ企圖ヲ有スル關係ヨリ前哨ヲ後退セシムル如

キハ適當ナラス換言スレハ其位置(前哨陣地)ヲ固守セシムルヲ適當トスレハナリ而シテ其位置ハ追分附近ヲ適當トス

(II) 宿營

前哨ハ前述ノ如ク嚴ナル警戒ヲナシツツアリ從テ前衛中前哨ニ充テサル部隊ハ比較的寬ナル宿營ヲナサシムルヲ適當トス故ニ本狀況ニ於テハ寧ろ步兵一大隊ヲ露營セシメ其他ハ舍營セシムルヲ可トス

配宿法ハ軍隊區分ト敵襲ニ關スル願慮トヲ參酌シ步兵ヲ敵方ニ近ク其他ヲ安全ナル村落ニ配當スヘキナリ(要務令第二百五十七ノ第三項)

(III) 搜索並連絡

本狀況ニ於テ前衛司令官ノ勉ムヘキハ津方向ニ對スル搜索(津方面ニハ既ニ將校斥候ヲ派遣シアルヘシ)ト關方面ノ騎兵第一聯隊ト連絡スルニ在リ

其二 任務下達ノ順序方法並其內容

任務下達ノ順序方法並其內容ヲ定メンカ爲ニハ要務令第二百四十六條ノ第二項ノ要旨ニ基キ同第四百十七條ニ指示シアル事項ヲ取捨シ狀況ニ適應セシメサル



ヘカラス左ニ之ヲ概説セン

前衛司令官圖上ニ於テ腹案ヲ立ツルヤ(午後三時十分)副官ヲ派遣シ前兵長ニ左記前衛命令ヲ傳達セシム該副官ハ午後三時二十分頃羽津南端附近ニ於テ前兵大隊長ニ傳達シ得ルナラン  
前兵大隊長ヘ

前衛命令 四月十四日午後三時二十分  
於羽津南端

- 一 師團ハ本夜四日市、柿村間ニ宿營ス
- 二 前衛ハ本夜日永、濱田間ニ宿營シ津方向ニ對シ警戒セントス
- 三 前兵ハ前哨トナリ泊附近ニ位置シ鹽濱村南方内部川ノ橋梁之ヲ含マス以  
西ノ地區ヲ津方向ニ對シ警戒スヘシ  
鹽濱村ニハ第五中隊ノ一小隊ヲ出シ同地南方内部川ノ橋梁之ヲ含ム以東ノ  
地區ヲ警戒セシム  
敵襲ニ際シテハ追分附近ヲ固守スヘシ  
工兵大隊ヲ濱田附近ニ殘置シ前衛本隊ニ復歸セシムヘシ、師團騎兵中隊ノ主

力ヲ屬ス

- 四 後刻歩兵第一聯隊電話班ヲシテ電話通信網ヲ建設セシム
- 五 給養ハ携帶糧秣ヲ用フヘシ
- 六 予ハ濱田村ニ在リ後日永村ニ至ル  
(解説) 前哨司令官ニ前哨本隊ノ位置ヲ示スト示ササルトハ隨意ナリ何トナ  
レハ任務上ヨリ之ヲ決定シ得ヘケレハナリ然レトモ之ヲ示セハ意圖  
ヲ明瞭ナラシメ得ルノミナラス之ヲ示スモ主旨及實施上決シテ害ナ  
キヲ以テ通常之ヲ示スヲ可トセン(要務令第四百四十七條ノ第一項)  
前衛司令官ハ午後三時十分副官ノ派遣ヲ終ルヤ第五中隊ノ先頭小隊長、歩兵第一  
聯隊電話班長及歩兵第一聯隊長ヲ傳令ヲ以テ招致シ行進中左ノ命令ヲ與フ  
第五中隊第一小隊長ヘ

前衛命令 四月十四日午後三時十五分  
於茂福北端

- 一 前命令ニ同シ
- 二 前衛ハ本夜日永、濱田間ニ宿營シ津方向ニ對シ警戒セントス

行軍舍營及行軍前哨ノ研究



步兵第一大隊、機關銃二及師團騎兵中隊ノ主力ハ前哨トナリ泊附近ニ位置シ鹽濱村南方内部川ノ橋梁之ヲ含マス以西ノ地區ヲ警戒シ敵襲ニ際シテハ追分附近ヲ固守ス

三 第五中隊第一小隊(傳騎二ヲ附ス)ハA小哨トナリ鹽濱村南端附近ニ位置シ同村南方内部川ノ橋梁之ヲ含ム以東ノ地區ヲ警戒シ北五味塚附近鈴鹿川ノ橋梁ヲ監視シ且本道方面ノ前哨ト連絡スヘシ敵襲ニ際シテハ鹽濱村附近ヲ固守スヘシ

四、五、六 前命令ニ同シ  
步兵第一聯隊電話班長ヘ

前衛命令 四月十四日午後三時二十分  
於茂福北端

一 前衛ハ日永村附近ニ宿營シ前哨本隊ヲ泊附近A小哨ヲ鹽濱村ニ出シ津方向ニ對シ警戒セントス  
二 電話班ハ旅團司令部、前哨本隊及小哨間並前哨各部間ニ電話通信網ヲ建設スヘシ

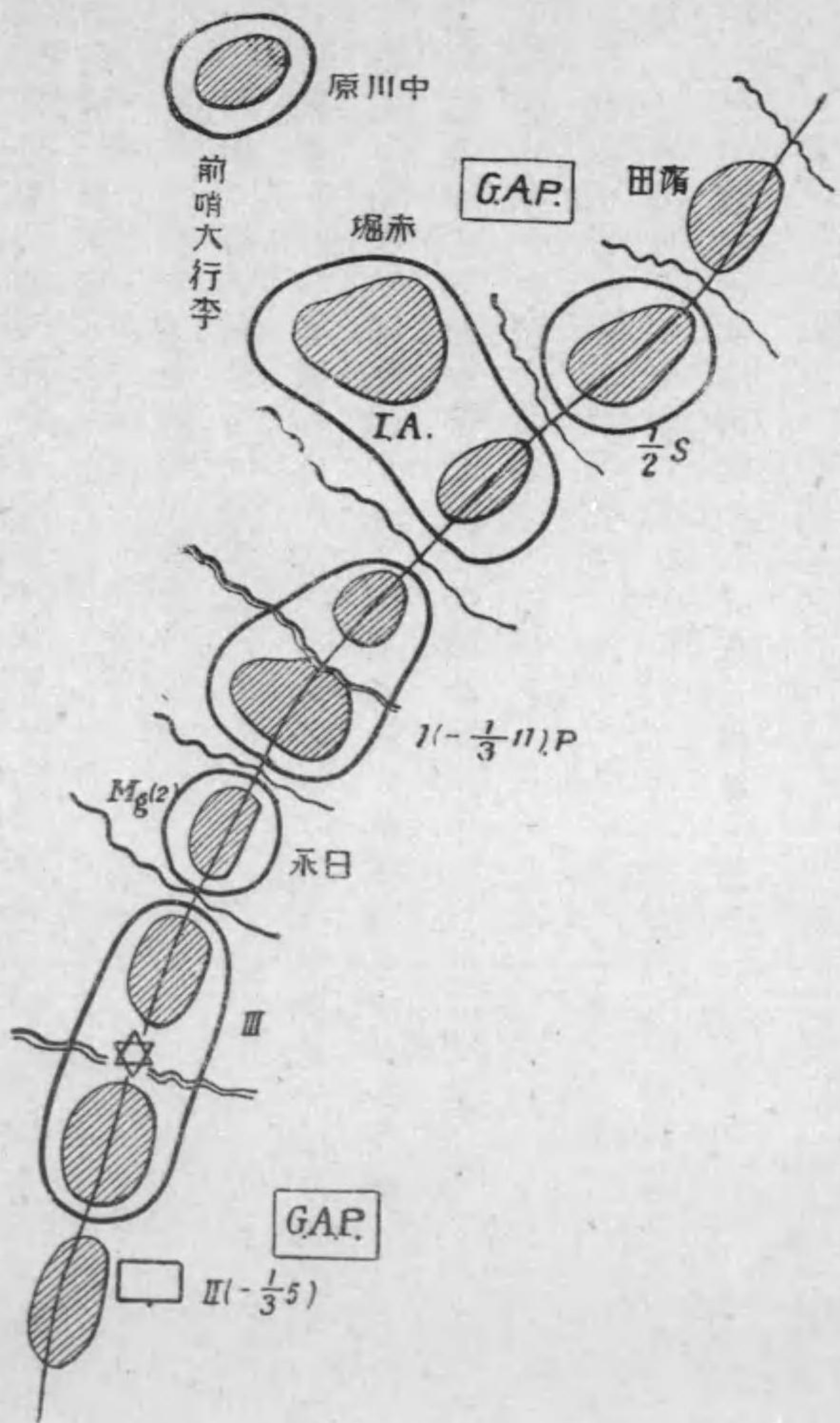
通信所ノ位置ニ關シテハ現場ニ於テ當該隊長ト協議スヘシ

三 予ハ日永村ニ至ル  
步兵第一聯隊長ヘ

前衛命令 四月十四日午後三時二十五分  
於茂福北端

一 師團ノ目的前命令ニ同シ  
二 前衛ハ本夜前哨本隊ヲ泊附近A小哨ヲ鹽濱村附近ニ出シ津方向ニ對シテ警戒シ前衛本隊ヲ以テ日永、濱田間ニ村落露營ヲナサントス  
三 步兵第一聯隊長ハ露營司令官トス  
左圖ノ如ク露營ヲ設備スヘシ  
但下士卒ノ散步ヲ嚴禁ス  
四 給養ハ大行李糧秣ヲ用フヘシ  
五 予ハ濱田村北端附近ニ在リ後日永村ニ至ル





前衛本隊諸隊ノ命令受領者ヲ集メ左ノ命令ヲ與フ但シ工兵大隊ニハ濱田附近ニ至リ口達ス

前衛命令 四月十四日午後三時三十分  
於羽津村南端

- 一 師團ハ四日市柿村間ニ宿營ス  
前哨ハ泊附近ニA小哨ハ鹽濱村附近ニ位置シ津方向ニ對シ警戒ス
- 二 前衛本隊步兵第五中隊ノ一小隊騎兵中隊ノ主力ヲ缺キ工兵大隊ヲ含ムハ日永濱田間ニ村落露營ヲナサントス
- 三 諸隊ハ左ノ如ク宿營スヘシ宿營區ノ詳細ハ露營司令官步兵大佐某ヲシテ指示セシム

步兵第二大隊(一小隊欠)

日永南端附近ニ露營

步兵第三大隊

同機關銃隊(一小隊欠)

中部日永村ニ舍營

騎兵一分隊

工兵大隊(一小隊欠)

日永村北端及赤堀村南端附近ニ舍營



野砲兵第一大隊

衛生隊半部

赤堀村ニ舍營  
濱田村南端附近ニ舍營

- 四 警急大集合場ハ追テ示ス
- 五 大行李糧秣ノ補充ハ追テ命令ス
- 六 予ハ濱田北端附近ニ後日永村ニ至ル  
騎兵中隊へ

前衛命令 四月十四日午後三時三十五分  
於羽津村南端

- 一 師團ノ目的
  - 二 前衛ノ目的
  - 三 前衛騎兵ハ爾今前哨司令官ノ指揮ニ屬ス  
特ニ一部隊ヲ以テ津方面ヲ搜索スヘシ  
此部隊ハ予ノ直轄トス
- 以上ノ如ク速ニ警戒配置ヲナシ又諸隊ヲ投宿セシム其間先ニ朝明橋附近ニ殘置シタル副官ハ宿營ニ關スル師團命令ヲ受領旅團長ノ許ニ到著スルナラン時

ニ午後五時頃ナリ旅團長ハ之ヲ閱覽シ命令ヲ起案シ終ルハ早クモ午後五時三十分頃ナルヘク茲ニ於テ完全ナル前衛命令ヲ與ヘ先ニ與ヘタル命令ヲ補足スルナラン而シテ此頃ニ至ラハ露營司令官ヨリモ所要ノ報告到著スルニ至ルヘシ

前衛命令 四月十四日午後五時三十分  
於濱田村北端附近

- 一 師團ハ本夜四日市柿村間ニ宿營ス
- 二 前衛ハ本夜日永濱田間ニ宿營シ津方向ニ對シ警戒セントス
- 三 前兵ハ前哨トナリ泊附近ニ位置シ鹽濱南方内部川ノ橋梁之ヲ含マス以西ノ地區ヲ警戒シ敵襲ニ際シテハ追分附近ヲ固守スヘシ
- 師團騎兵中隊(二小隊欠)ヲ附屬ス
- 工兵大隊(一小隊欠)ハ濱田附近ニ停止シ前衛本隊ニ復歸セシムヘシ
- 四 步兵第一聯隊第五中隊ノ一小隊(傳騎二ヲ附ス)ハA小哨トナリ鹽濱南端附近ニ位置シ同村南方内部川ノ橋梁之ヲ含ム以東ノ地區ヲ警戒シ特ニ北五味塚附近鈴鹿川ノ橋梁ヲ監視シ且本道方面ノ前哨ト連絡スヘシ



敵襲ニ際シテハ鹽濱村附近ヲ固守スヘシ

五 諸隊ハ左ノ如ク村落露營ヲナスヘシ

步兵第一聯隊第二大隊(一小隊欠) 日永村南端東側ニ露營

旅團司令部

步兵第一聯隊本部

日永村中部ニ舍營

同 第三大隊

同 機關銃隊(一小隊欠)

工兵大隊(一小隊欠)

日永村北端及赤堀村南端ニ舍營

野砲兵第一大隊

赤堀村ニ舍營

衛生隊半部

濱田村南端ニ舍營

前哨部隊ノ大行李

中川原ニ舍營

右露營司令官歩兵大佐某トス

六 警急大集合場ハ左ノ如シ

步兵第一聯隊第三大隊

同 機關銃隊(一小隊欠)

日永村東南側乾田

工兵大隊(一小隊欠)

野砲兵第一大隊

赤堀北側乾田

衛生隊半部

濱田北側乾田

七 前哨ハ携帶糧秣ヲ用フヘシ

諸隊大行李糧秣ノ補充ハ後刻命令ス

八 予ハ日永村中央橋梁附近ニ在リ

午後九時命令受領者ヲ出セ

### 狀況

前兵長ハ午後三時二十分羽津北端ヲ行進中旅團副官ノ追及ヲ受ケ前衛命令ヲ受領ス茲ニ於テ前哨司令官ハ前哨配置ニ關シ所要ノ命令ヲ與ヘントス(要務令第四百四十八)

### 第三問題



## 前哨命令

### 第三問題答解上ノ著眼

本命令起案ノ爲ノ著眼ハ先ツ前哨ノ警戒配置ヲ立案スルニ在リ之カ爲前哨司令官ハ行進中圖上ニ於テ研究ヲナササルヘカラス

#### 一 前哨抵抗線ノ決定

敵襲ニ當リ固守スヘキ地點ノ概要ハ前衛命令ニヨリ知り得タルヲ以テ前哨司令官ハ同地附近ヲ如何ニシテ固守スヘキヤヲ決定スルヲ要ス但シ圖上ニ於テ決定セルモノハ現地ヲ視察後變更スルコトアルハ勿論ナリトス  
此際ニ於ケル抵抗線ハ追分南方ノ堤防ヨリ追分東方約五百米鐵道踏切ヲ經テ六呂見南端附近ニ亘ル線ヲ適當トス

#### 二 警戒線及警戒面

警戒線ハ距離及地形等ノ關係ニヨリ内部川ノ線ヲ適當トス殊ニ鹽濱村ニ在ル  
A 小哨ノ内部川下流ヲ警戒スルニ於テ殊ニ然リトス

(附言) 尋常ノ形勢ニ於ケル前哨各部ノ距離ノ標準ハ概ネ左ノ如クナルヲ適當トス

前哨本隊ト後方團隊	混成旅團	一千乃至一千二百米
師團		三千乃至四千米
前哨中隊ト前哨本隊		六百乃至八百米
小哨ト前哨中隊		三百乃至六百米
步哨ト小哨		三百乃至四百米

騎兵ニ在リテハ步兵ノ約二倍ヲ以テ一般ノ標準トス

警戒面ハ東海上内部川ノ橋梁附近ヨリ鹽濱村南方橋梁之ヲ含マス間ヲ適當トス之蓋シ東海道ハ敵方ニ通スル順路ニ非サルモ大街道ニシテ而モ敵ニシテ之ヲ利用セント欲セハ之ヲ爲シ得ヘク又鐵道線路以東ニハ良好ナル道路ナキモ若内部川ニ徒涉場アルトキハ敵ノ接近運動容易ナル地區ナレハナリ

#### 三 部署ノ概要

部署ヲ概定スル要領ハ一前哨中隊ニ全警戒ヲ擔任セシムヘキヤ或ハ前哨本隊



ヨリ歩哨線ノ近傍ニ警戒隊ヲ出シ前哨中隊ト相待テ警戒セシムヘキヤ將又前哨中隊數個ヲ出スヘキヤ等ヲ決定スルニ在リ此際注意スヘキハ假令同一兵力ニテ警戒シ得ル地幅ト雖著シク横方向ニ擴大スルトキハ指揮困難トナルモノナルヲ以テ隸屬ノ關係ニ注意シ一前哨ハ之ヲ適度ナル扇形地トナスヲ可トスルコト之ナリ

本狀況ニ於テ一中隊ヲ以テ全地幅ノ警戒ヲ擔任セシムルモ必スシモ不充分ナルニハ非サルモ執務ノ關係ハ不良トナル故ニ寧ロ予ハ在鹽濱小哨ト參宮道上ノ前哨中隊トノ中間ニ一小哨(一分隊)ヲ出スヲ便ナリト思考ス即チ大里西南方約三百米ノ道路ノ集合點ニ在ル河川ノ北方ニ突入セル部分ニ前哨本隊ヨリ一ノ警戒隊ヲ出シ其以西地區ヲ前哨中隊ニ擔任セシムルヲ適當ナリト認ム

#### 四 各部位置決定ノ概要

前哨中隊ハ敵襲ヲ拒止スル爲ノ核心ヲナスモノニシテ前哨抵抗線附近ニ位置スヘキモノナリ又前哨本隊ハ前哨ノ豫備タルハ要務令第四百四十三條ノ第二及第三項ニ明示ス故ニ本狀況ニ於テハ前哨中隊ハ追分附近前哨本隊ハ泊北端附

#### 近ニ位置スルヲ適當トス

騎兵中隊日沒後歸來セハ泊西方約五百米ノ無名部落ニ宿營セシムルヲ可トス之比較的的安全ニシテ投宿ニ便ナレハナリ  
前哨中隊前哨本隊ハ露營スヘキハ勿論ナルモ騎兵中隊ハ村落露營ヲナサシムルヲ可トス

#### 五 特別ノ處置

師團ハ明日前進スルヲ要スルヲ以テ鈴鹿川ノ渡河點ハ守備スルカ或ハ少クモ之ヲ監視スルノ必要アリ(要務令第三百三十五)又步哨前ニ於ケル是等ノ要點ヲ占領セハ敵ノ近接ヲ監視スルニ便ナリ(要務令第八十三ノ三)然レトモ鈴鹿川ノ線ヲ警戒線トナストキハ徒ニ警戒面ヲ擴張スルニ至リ大ナル兵力ヲ要スルヲ以テ此線ニハ停止斥候ヲ配置スルヲ適當トセン

#### 六 騎兵中隊主力ノ使用法

騎兵中隊ノ使用法ニ關シテハ要務令第五百十條ノ示ス原則ヲ適用スヘキモノナリ此際前哨司令官ハ要務令第四百四十八條ノ第一項ノ末段ノ主旨ニ注意スル



ヲ要ス故ニ本夜ハ騎兵中隊ヲシテ一小部隊ヲ以テ敵ト觸接ヲ保持セシメ主力ハ前哨本隊附近ニ來リ宿營セシムルヲ可トス之カ爲豫メ前哨本隊ノ附近ニ騎兵中隊ノ爲宿營地ヲ準備シ置クヲ要ス

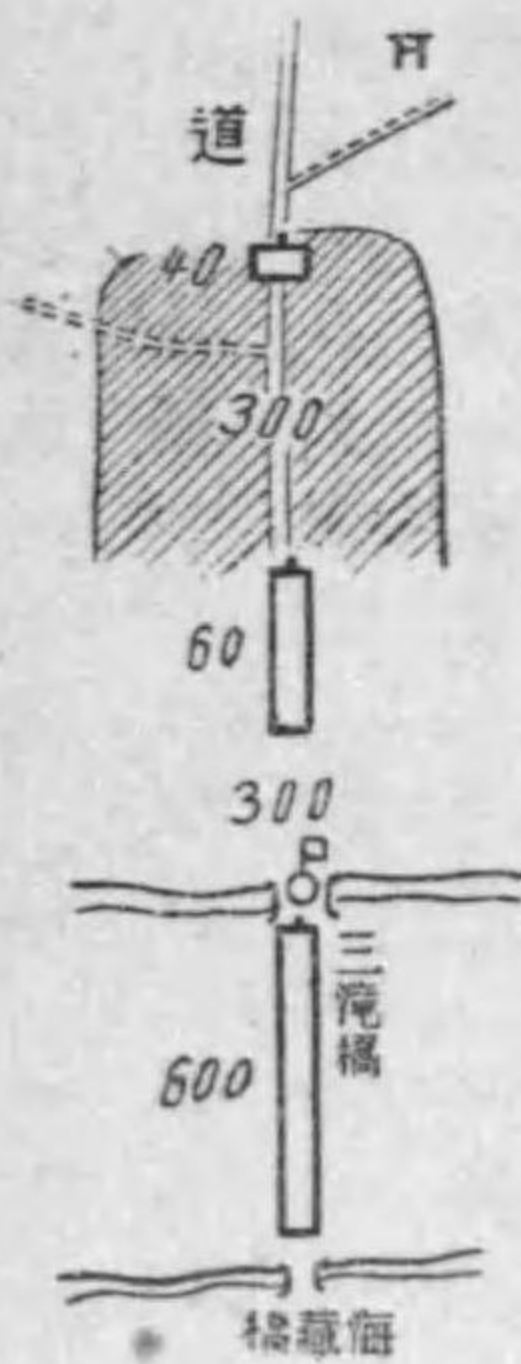
七 命令下達ノ順序方法並其內容

叙上ノ考案ヲ立テタル後迅速ニ之ヲ實行シ得ル如ク命令下達ノ順序方法及其內容ヲ研究セサルヘカラス

此際ニ於テハ各隊各別ニ命令ヲ與フレハ實行最モ迅速ナラン

午後三時二十分前衛命令受領後前哨司令官ハ圖上ニ於テ以上ノ考案ヲ立ツルニ約二十分ヲ要スルナラン

當時前兵ノ諸隊ハ左ノ如ク行進中ナルヘシ



工兵大隊へ傳騎ヲ以テ口達

工兵大隊ハ濱田附近ニ至ラハ停止シ前衛本隊ニ復歸スヘシ

第三中隊長へ自ラ口達

大隊ヲ引卒シテ泊ニ前進シ來レ

第二中隊長へ自ラ口達

第二中隊長ハ尖兵中隊ノ先頭ニ來レ其中隊ヨリ一分隊ヲ尖兵中隊ノ先頭ニ出シ予ノ直轄タラシムヘシ

騎兵尖兵へ傳騎ヲ以テ傳達

一 前兵ハ前哨トナリ内部川ノ線ヲ津方向ニ對シ警戒セントス

二 騎兵尖兵ハ高岡附近ノ高地ニ在リテ神戸方向ヲ監視シ歩兵斥候其地ニ到著セハ泊附近ノ前哨本隊ニ歸來スヘシ

三 歸還ニ方リ傳騎二騎ヲ追分附近前哨第一中隊長ノ許ニ派遣スヘシ

斯テ前哨司令官ハ副官傳騎ヲ從ヘ尖兵中隊長ノ許ニ至ル時ニ午後三時四十五分頃ニシテ其位置ハ四日市南端圖上「道」字附近ナルヘシ大隊長ハ下馬シ徒步行



進シツツ第二中隊長及其分隊長ノ來ルヲ待チ午後三時五十分頃前哨全般ノ爲  
合同命令ヲ下達ス

### 第三問題答解ニ對スル總評

前哨配置ニ關スル基礎ハ既ニ前段研究シタルヲ以テ茲ニ研究セント欲スルハ前  
哨司令官ノ戰術的考案ヲ如何ニ命令詞ニ現示スヘキヤニアリ之カ爲ニハ部下ニ  
任務ヲ與フルニ如何ニセハ適切確實ナルヤ及命令記述(口述)ノ順序ヲ如何ニスル  
ヲ適當トスルヤヲ考察セサルヘカラス  
左ニ之カ順序ニ關シ予ノ原案ヲ示サントス

- 一 師團目的ノ指示
- 二 前衛本隊ノ目的ノ指示
- 三 前哨司令官直轄騎兵ノ行動ノ通報
- 四 前哨ノ兵力、編組目的及其位置
- 五 騎兵中隊ノ行動ノ通報

騎兵尖兵ノ行動ノ通報

前衛本隊ヨリ出ス警戒隊ノ兵力位置及任務ノ通報此項ハ第二項ニ示スモ可  
ナリ)

四 前哨中隊ノ兵力位置及其任務  
敵襲ニ際シ取ルヘキ處置

五 前哨本隊ヨリ出ス警戒隊ノ兵力位置及其任務

六 電話通信設備ニ關スル通報

七 給養

要スレハ大行李宿營ノ通報

八 前哨司令官現地巡視ノ順序及爾後ノ所在

不在中ノ代理

前哨命令 四月十四日午後四時  
於四日市西南端

一 師團ハ本夜四日市、柿村間ニ宿營ス

二 前衛本隊(工兵大隊ヲ含ム)ハ日永、濱田間ニ宿營ス

行軍舍營及行軍前哨ノ研究



- 三 騎兵ノ一部ハ津方向ノ敵情搜索及關附近騎兵第一聯隊ト連絡ヲナシツツアリ  
當大隊機關銃一小隊騎兵一分隊ハ前哨トナリ泊北端附近ニ位置シ鹽濱村南方橋梁(之ヲ含マス)以西ノ地區ヲ津方向ニ對シ警戒セントス  
師團騎兵中隊ハ爾今予ノ隸下ニ屬シ晝間現任務ヲ續行シ日沒ニ至レハ一部ヲ以テ敵ト觸接ヲ保持セシメ主力ハ泊附近ニ歸還ス  
騎兵尖兵ハ高岡附近ノ高地ニ位置シ神戸方向ヲ監視中ニシテ步兵斥候其地ニ至ラハ泊附近ニ歸還ス  
前衛本隊ヨリ步兵一小隊ヲA小哨トシテ鹽濱村附近ニ出シ同村南方内部川ノ橋梁(之ヲ含ム)以東ノ地區ヲ津方向ニ對シテ警戒シ北五味塚附近鈴鹿川ノ橋梁ヲ監視スル筈
- 四 第一中隊(傳騎二騎ヲ附ス)ハ前哨中隊トナリ追分附近ニ位置シ右翼東海道上内部川ノ橋梁附近ヨリ左翼大里西南方約三百米ノ道路ノ集合點(之ヲ含マス)間ヲ警戒シ本田南川間ノ橋梁ニハ特ニ一部隊ヲ出シ監視スヘシ  
敵襲ニ際シテハ追分南端附近ヲ固守スヘシ

- 五 某軍曹ハ部下分隊ヲ率ヒB小哨トナリ大里西南方約三百米ノ道路集合點附近ニ位置シ貝塚方向ニ對シテ警戒シ前哨第一中隊及在鹽濱A小哨ト連絡スヘシ
  - 六 殘餘ノ諸隊ハ前哨本隊トナリ泊北端附近ニ露營スヘシ  
某大尉ハ露營ノ設備ヲナスヘシ
  - 七 後刻電話通信網ヲ建設セララル筈
  - 八 給養ハ携帶糧秣ヲ用フヘシ  
大行李ハ中川原ニ宿營ス
  - 九 予ハ追分附近ニ至リ現地ヲ視察シ後六呂見ヲ經テ前哨本隊ノ位置ニ至ル不在間某大尉予ノ代理ヲナスヘシ  
騎兵中隊長ヘ傳騎ヲシテ筆記命令ヲ送達セシム
- 前哨命令 四月十四日午後四時三十分  
於日永
- 一 本夜本師團本隊ハ四日市柿村間ニ前衛本隊ハ日永濱田間ニ宿營ス
  - 二 步兵第一大隊機關銃一小隊騎兵一分隊ハ前哨トナリ津方向ニ對シテ警戒セ



ントス

之カ爲前哨本隊ヲ泊附近ニ前哨中隊ヲ追分附近ニ位置セシメ其步哨線ヲ東海道以東内部川ノ線ニ出シテ警戒シ別ニ停止斥候ヲ木田以東鈴鹿川ノ線ニ派遣ス

五〇

三 騎兵中隊ハ晝間現任務ヲ續行シ日没後一部ヲ以テ當面ノ敵ト觸接ヲ保持セシメ主力ハ泊西方約五百米無名部落附近ニ來リ宿營スヘシ  
其中隊ハ爾今予ノ隸下ニ屬ス

四 予ハ泊北端附近ニ在リ

騎兵ニ與フル命令ヲ筆記シ終ルハ早クモ午後四時四十分頃ナリ而シテ午後四時五十分頃ニハ追分附近ニ至リ現狀ヲ視察シ得ヘク斯クシテ所要ノ視察ヲ終リ歸還スルハ午後五時乃至五時三十分頃ナルヘク茲ニ於テ前哨司令官ハ歸途前哨中隊長ニ左ノ件ヲ指示ス

- 一 鐵道踏切六呂見南端ニハ前哨本隊ヨリ一部隊ヲ出シテ工事ヲナサシム
- 二 前哨中隊ハ掩護下ヲ利用スルコトヲ得

三 炊爨ハ民家内ヲ利用スヘシ

四 各部ハ焚火ヲナスヲ嚴禁ス

右終リテ前哨司令官ノ前哨本隊ニ歸ヘルヤ時將ニ午後五時四、五十分頃ナルヘシ此頃ニハ電話通信網開設シアルヘキヲ以テ電話ヲ以テ前哨配置ノ概要ヲ前衛司令官ニ報告ス

前哨司令官報告

四月十四日午後五時三十分  
於泊北端前哨本隊

- 一 前哨ハ午後五時三十分頃配置ヲ終レリ

- 二 前哨ノ配置ノ概要左ノ如シ

前哨本隊泊北端附近

前哨第一中隊ヲ追分附近ニ出シ右翼東海上内部川ノ橋梁附近ヨリ左翼ハ大里西南方約三百米道路ノ集合點之ヲ含マスニ亘ル間ヲ警戒セシメ別ニ一分隊ヨリナルB小哨ヲ大里西南方約三百米道路ノ集合點ニ出シ貝塚方面ヲ警戒シ前哨第一中隊及A小哨ト連絡セシム  
前哨ノ抵抗線ハ追分六呂見南端ノ線ニ選定セリ



- 前哨第一中隊ハ一分隊ノ第一小哨ヲ東海道上内部川ノ橋梁附近ニ一小隊ノ第一小哨ヲ大治田西側本道上ニ出シ參宮道上内部川ノ橋梁及鐵道橋ニ各下士哨ヲ出シ警戒シアリ
- 三 木田及參宮道上鈴鹿川ノ橋梁ニハ長以下六名ノ停止斥候ヲ出シ監視セシメアリ
- 四 内部川ノ景況ハ目下偵察中
- 五 騎兵中隊ハ晝間現任務ヲ續行シ日没ニ至レハ一部ヲ以テ敵ト觸接ヲ保持セシメ主力ハ泊西方約五百米ノ無名部落ニ來リ宿營スル豫定ナリ
- 六 後刻詳細ナル筆記報告ヲ呈ス
- 以上ノ處置ヲ終リ後副官ヲシテ要圖ヲ附シタル報告ヲ記載セシメ傳騎ヲ以テ傳達セシム

### 狀況

前哨第一中隊長ハ午後三時四十五分四日市南端ニ於テ前哨命

令ヲ受領スルヤ行進中圖上ニ於テ配備ヲ研究シ取敢ス前哨配置ノ手段ヲ講ス(要務令第五百五十八)

### 前哨中隊長任務達成上ノ著意

此際第一中隊長ハ各小隊長ニ任務ヲ與ヘ小隊長ヲシテ斥候、小哨等ヲ出サシムヘキヤ或ハ行進中小隊長ヲシテ小隊各個ニ中隊ノ任務ヲ傳達セシムヘキヤハ實際問題ナリ

予ノ實驗竝中隊編制ノ立前ヨリ考察スレハ中隊長自ラ中隊ノ前面ニテ命令スルヲ以テ最モ適當ナリト認ム殊ニ行進中ノ命令ハ極メテ簡單ナルモノニアラサレハ兵卒ニハ了解シ得サルコト多キニ於テ然リトス

以上ノ主旨ニヨリ進路ノ關係等ニヨリ特ニ他方面ニ分派スルモノハ兎モ角其他ハ中隊ヲ一地ニ止メ其面前ニ於テ中隊長嚴ニ命令ヲ下達スルヲ可トス

本想定ノ場合ニ於テモ中隊長ハ追分附近ニ全中隊ヲ集合セシメ中隊長自ラ命令ヲ下達スルヲ可トス但シ尖兵ヨリ取敢ヘス出スヘキ停止斥候ノ如キニ與フル命



令ハ必スシモ此方法ニ依ラサルモ可ナリ  
中隊長ハ第二小隊長ニ中隊ノ引卒ヲ命シ自ラ特務曹長曹長喇叭手ヲ伴ヒ尖兵群ノ位置ニ至リA軍曹B伍長及小隊長ヲ集メ左ノ命令ヲ與フ時ニ午後五時ナリ位置ハ赤堀南端附近ナルヘシ

前哨第一中隊命令 四月十四日午後五時 於赤堀南端

- 一 師團ハ本夜四日市ヨリ其北方二里ノ間ニ宿營ス  
前衛本隊ハ現在ノ村落附近ニ宿營ス  
大隊ハ前哨トナリ前哨本隊ハ南方約二吉米ノ泊村附近ニ宿營ス  
騎兵中隊ハ晝間約二里半南方ニ在ル白子附近ニアリテ敵ト相對シ日没後ハ斥候ヲ殘シ前哨本隊ノ位置附近ニ歸來ス
- 二 中隊ハ前哨中隊トナリ追分南方二吉米參宮道ト東海道トノ分岐點附近ニ位置シ第一小哨ヲ以テ右翼東海道上内部川南方一里ノ處ヲ東西ニ流ルル河橋梁ヲ第二小哨ヲ以テ大治田附近ニ位置シ該橋梁ヨリ參宮内部川ノ橋梁内部川ノ鐵道橋ヲ經テ内部川ト鈴鹿川支流ノ合流點附近ニ亘リ警戒ス

步哨線ハ内部川ノ線ニ在リ

- 内部川鈴鹿川支流ノ合流點附近ニハ前哨本隊ヨリ一分隊ノ小哨ヲ出ス等
  - 三 A伍長ハ部下一分隊ヲ卒キ停止斥候トナリ參宮街道ヲ前進シ南方約一里半ニ在ル高岡村附近鈴鹿川橋梁附近ニ至リ神戸町方向ヲ監視スヘシ  
騎兵尖兵ハ同地ニ在リテ神戸方向ヲ監視中ナリA斥候ト連絡スヘシ
  - 四 B伍長ハ部下六名ヲ卒キ停止斥候トナリ東海道ヲ前進シ采女國分ヲ經テ木田附近之ヨリ西南方約二里ニ至リ鈴鹿川ノ橋梁ヲ監視スヘシ
  - 五 C軍曹ハ部下分隊ヲ卒キ川尻内堀ヲ經テ前進シ貝塚附近ニ至リ同地鈴鹿川ノ橋梁ヲ監視スヘシ特ニ南川附近ヲ搜索スヘシ
  - 六 右諸斥候ハ本夜携帶口糧ヲ使用スヘシ
  - 七 尖兵ノ殘餘ハ追分三叉路ニ至ラハ停止スヘシ
  - 八 予ハ追分ニ至ル
- 午後五時三十分中隊ハ全部追分附近ニ達スルナラン茲ニ於テ中隊長ハ中隊ヲ集メ左ノ命令ヲ下ス



前哨第一中隊命令

四月十四日午後五時三十分  
於追分道路分岐點

五六

- 一 師團ハ本夜四日市ヨリ其北方約二里ノ間ニ宿營ス  
前衛本隊ハ日永濱田間ニ又我大隊ハ前哨トナリ泊附近ニ宿營ス  
騎兵中隊ハ晝間白子(南方約二里)附近ニアリテ敵ト相對シ日没後ハ斥候ヲ殘シ  
前哨本隊ノ位置附近ニ歸來スル筈
- 二 中隊ハ前哨中隊トナリ現在地附近ニ位置シ津方向ニ對シテ警戒セントス  
A 伍長 B 伍長 C 軍曹ノ卒ユル停止斥候ハ高岡木田附近鈴鹿川ノ橋梁ヲ監視ス
- 三 第三小隊ノ第一分隊ハ第一小哨トナリ東海道ヲ前進シ南方約二吉米ニアル  
同街道上内部川ノ橋梁附近ニ至リ采女方向ニ對シ警戒スヘシ
- 四 第二小隊ハ第二小哨トナリ太治田附近ニ位置シ右翼東海道上内部川ノ橋梁  
(之ヲ含マス)ヨリ左翼大里西南約三百米ニアル道路ノ集合點附近(之ヲ含マス)ニ  
亘ル間ヲ警戒スヘシ  
警戒擔任區域間内部川ノ橋梁ノ景況ヲ偵察スヘシ  
大里西南方約三百米道路ノ集合點附近ニハ前哨本隊ヨリ一分隊ノ小哨ヲ出ス

筈

- 五 小削ハ掩蔽下ニ入ルヘカラス焚火ヲ嚴禁ス  
携帶口糧(乙)ヲ用フヘシ
- 六 殘餘ハ現在地ニ在リテ後命ヲ待テ  
第一小隊長ハ銃前哨ヲ配置シ斥候巡察各三組傳令雜卒ヲ區分シ又銃休憩ヲナ  
サシメ工具ヲ卸ロシ置カシムヘシ
- 七 予ハ現地視察ノ爲追分南端附近ヨリ大治田附近ニ至ル  
第一小隊長ハ予ノ代理トス  
第三小隊長ハ傳令ヲ伴ヒ予ト同行セヨ  
別ニ特務曹長ニハ要圖調製ニ必要ナル部分ノ地圖ヲ描畫シ置カシム  
又曹長ニハ雜役ヲ使用シ露營需用品ヲ集メ置カシム  
追分南端附近ニ至リ現地視察ノ結果第三小隊長ニ現地ヲ指示シ所要ノ工事ヲナ  
スコトヲ命ス此小隊長ハ前哨中隊ノ位置ニ至リ第一小隊長ニ報告シ工事班ヲ以  
テ指定ノ工事ニ著手ス



時ニ午後五時五十分頃ナラン  
中隊長ハ現地ヲ視察シ前哨中隊ノ位置ニ歸還後前哨司令官ニ要圖ヲ附シタル報  
告ヲ呈ス此間第一小隊長ニ左ノ諸件ヲ示シ中隊ノ露營及炊爨等ニ關スル區署ヲ  
ナサシム

中隊ハ掩蔽下ニ入ルヲ得  
全員ノ約三分ノ一ハ假眠スルコトヲ許ス  
炊爨ハ各小隊毎ニ民家内ニ於テ行フヲ要ス  
屋外ノ焚火ハ嚴禁ス  
傳騎ニハ交代ニ馬裝ノ改裝、水飼、飼付ヲナサシム

狀況

第二小哨長ハ午後五時四十分中隊命令受領後小隊ヲ引率シテ  
大治田西方參宮道上集團部落附近ニ至ル(午後五時四十五頃分)

小隊長ノ處置左ノ如シ

- 一 下士哨ニテ區分シ之ヲ參宮道上内部川ノ橋梁及内部川鐵道橋附近ニ派遣ス
- 二 長以下三名ヨリ成ル二組ノ斥候ヲ出シ本道兩側内部川ノ景況ヲ偵察セシム
- 三 古參下士ニ代理ヲ命シ斥候、巡察、傳令、雜役ヲ區分シ殘餘ハ背囊ヲ卸シ工具ヲ  
卸シ置カシム
- 四 自ラ兵卒四名(不時ニ必要ヲ生スヘキ三名ノ單哨ト一名ノ傳令ノ要員ヲ率キ  
先ツ本道ノ下士哨ヨリ鐵道橋ノ下士哨ニ至リ守則ヲ授ケ後小哨ノ位置ニ歸ル
- 五 小哨ニ又銃ヲナサシメ銃前哨ヲ立テ工事班ヲ設ケ所要ノ工事ヲナス
- 六 喫食ヲナサシム
- 七 小哨ハ全部又銃ノ側ニ在リ又假眠ヲ許サス
- 八 前哨中隊長ニ要圖ヲ附シタル報告ヲ呈シ又左右ノ小哨ニ連絡ヲ取ル

(問)



四日市舍營司令官タル歩兵第二聯隊長ハ午後二時稍過桑名北端附近ニ於テ師團參謀ヨリ前述ノ師團長ノ指示ヲ傳達セラル舍營司令官ハ舍營地ニ向ヒ先行スル要務令第二百六十四ノ三前何事ヲナスヤ

(答)

聯隊副官ヲシテ左ノ事ヲ諸隊ニ傳達シ後參宮道ヲ追及セシム

(1) 第一中隊長ハ四日市町舍營日直將校トス濱田一色北端海藏橋附近ニ先行セシム

(2) 各部隊(師團司令部、歩兵第二聯隊、歩兵第三聯隊、第三大隊及機關銃一小隊)ニ設營隊ヲ海藏橋附近ニ出シ歩兵第三聯隊ヨリ巡察將校ニ出スコトヲ命ス但シ師團電話隊ニハ舍營司令官先行途中ニ於テ自ラ之ヲ命ス

(3) 右ト同時ニ舍營日直將校ノ勤務ヲ容易ナラシムル爲各部隊ニ各部隊日直將校下士ヲ海藏橋附近ニ出スヘキコトヲ命令ス

(4) 某軍醫ニ同行ヲ命ス

(5) 先行ニ際シ師團長ニ請求シ傳騎ニヲ同伴ス  
舍營司令官ハ途中聯隊副官軍醫ノ追及ヲ受ケツツ諸隊ニ先行シ午後三時稍過濱一色北端附近ニ達ス

(問)

舍營司令官ハ何事ヲナサントスルヤ

(答)

補助官ヲ使用シ所要ノ事項ヲ偵察ス

(問)

分擔事項ヲ如何ニ規定スルヤ

(答)



舍營司令官

警備ニ關スル件、各隊警急集會場、警急大集會場及之ニ至ル道路、警報ニ際シ行  
李ノ集合スヘキ位置

内外衛兵所ノ位置及步哨ヲ出スヘキ位置

副官

各隊舍營區、師團司令部及傳騎ノ宿舍決定

軍醫

副官ト同行シ井水其他衛生ニ關スル事項ノ偵察

右補助官ノ報告ハ午後三時四十分迄ニ郡役所附近ニテ受領スヘキ旨ヲ告ク

(注意)

以上ノ分擔任務ハ若舍營日直將校ヲ同伴シアル場合ニハ舍營區ニ關スル  
件ヲ副官ニ、衛兵其他警備ニ關スル件ヲ舍營日直將校ニ、軍醫ハ副官ト同行  
シテ衛生事項ノ偵察ヲナサシメ舍營司令官ハ一般ノ視察ヲナスヲ適當ト  
ス又師團司令部宿舍ノ選定ニ關シテハ管理部副官追及セル時ハ之ヲシテ  
補助セシムルヲ可トス

本狀況ニ於テハ步兵中隊長舍營日直將校ナル爲到著迄ニハ尙時間ヲ要ス  
ルナルヘシ故ニ已ムヲ得ス聯隊副官ヲシテ日直將校ノ爲スヘキ業務ノ若  
干ヲ實施セシム

舍營司令官自己ノ視察及午後三時四十分補助官ノ呈スル報告ヲ綜合スレハ左ノ  
如シ

- (1) 鐵道線以東ハ傳染病アルカ故ニ使用スルコトヲ得ス
  - (2) 警急大集會場ハ本道西側及東側ノ二ヶ所トセサレハ集合ニ不便ナリ又濱  
田北端ヲ通スル小流ハ橋梁ノ外通過困難ナリ
  - (3) 三瀧川、海藏川ノ諸橋梁ハ車馬ノ通過ニ支障ナシ但シ野砲兵ノ通過ヲ許ス  
ハ片點線路以上圖上ノ實線ヲ以テ示ス橋梁ノミトス又三瀧橋ヨリ河ノ北岸  
ニ沿ヒ其上流ノ橋梁ニ通スル堤防ハ野砲ノ通過ニ支障ナシ
  - (4) 河水ハ本道以東ハ鹹味アリテ飲用ニ適セス
  - (5) 諸衛兵ノ配置ハ舍營司令官地圖ニヨリテ腹案セシ所ト大差ナシ
- 茲ニ於テ舍營司令官ハ從來ノ腹案ニ必要ノ修正ヲ加ヘテ舍營ニ關スル諸件ヲ確



定シ海藏橋附近ニ急行ス時ニ午後四時頃ニシテ各隊ノ設營隊、舍營日直將校、部隊日直將校下士ハ同地ニ到着シ休憩シアリ舍營司令官ハ諸官ヲ集メ舍營命令ヲ與ヘントス

六四

#### 第四問題

舍營司令官ノナスヘキ舍營計畫要圖

#### 第四問題ニ對スル總評及著眼

本問題ノ著眼ハ舍營ニ關スル諸命令ノ基礎ヲ作爲スルニ在リ而シテ要圖トシテ現ハスヘキ主ナル研究事項ハ左ノ如シ

一 舍營地區ノ決定

舍營地區ノ決定ニ就テ諸官ノ考案ハ左ノ三種アリ

(甲) 各團結的單位毎ニ配當セルモノ

(乙) 各宿營地ニ適應スル如ク各小部隊毎ニ配當セルモノ

(丙) 給養單位例ヘハ歩兵ハ大隊機關銃隊毎ニ區分シテ配當セルモノ

(甲) ハ舍營司令官トシテ各部隊ニ配當スル爲ノ見地ヨリ各編制單位ノ部隊ニ配當スレハ可ナリ該配當區域ノ利用如何ハ要務令第二百六十六ノ第一項ノ原則ニ從ヒ各部隊ノ業務ト考ヘタルモノニシテ其主旨ニ於テハ必シモ不可ナシ然レトモ各編制單位ニ地區ヲ配當スルニハ舍營司令官ハ豫メ其單位内ニ於ケル給養人馬換言スレハ給養單位數ト各單位ノ内容等ヲ顧慮シ自ラ細部ノ腹案ヲ有セサルヘカラス果シテ此腹案ヲ有ストセハ設營隊ノ業務ヲ簡易ナラシムル爲之ヲ指示スルヲ便トセン然レトモ(乙)ノ如ク餘リ細部ニ亘ルハ圖上ニ於ケル計畫トシテハ固ヨリ不可ナキモ實行ニ當テ却テ支障ヲ生スルノ虞ナキヲ保シ難シ故ニ予ハ(丙)ノ如ク給養單位ヲ標準トスルノ適當ナルヲ信スルモノナリ蓋シ現行要務令ノ舍營勤務ニ關スル諸規定等ヲ通讀スルトキハ凡テ給養單位ヲ基礎トナシアルヲ知ルヘク從テ此主旨ノ可ナルヲ首肯シ得ヘシ若夫レ時間ノ餘裕少ナク細部ノ計畫ヲ爲シ得サル如キ場合ニ於テハ此主旨ニ據ルコト能ハサルハ勿論ナリ



(附言) 本問題ハ舍營司令官ノ腹案ナル故ニ(甲)ノ如キ區分ニテモ強テ不可ナキ  
モ若問題カ宿營要圖ナルトキハ必ス給養單位迄ヲ記入スルコトニ注意  
スヘシ

地區配當ニ際シ各部隊ノ特性ヲ顧慮シ砲廠、車廠、馬繫場等ヲ要スルモノニハ其  
便ヲ得易カラシムルコトニ注意スヘシ此點ニ關シ砲兵ノ砲廠、騎兵ノ馬繫場等  
ハ脫漏スルノ患少ナキモ師團電話隊ノ車廠、傳令騎兵ノ馬繫場、機關銃隊ノ銃廠  
ノ如キハ動モスレハ等閑ニ附シ易キヲ以テ特ニ注意スルヲ要ス

又要務令第二百五十八ノ指示ニヨリ本狀況ニ於テ師團司令部、舍營司令官ノ宿  
舍、通信所ノ選定ヲ等閑ニ附シタルモノアルハ遺漏ナリ

二 外衛兵

外衛兵ノ配置(外部ニ對スル警戒配置)ニ三種ノ要領アリ

(甲) 某衛兵所ヲ設ケ之ヨリ所要ノ下士哨複哨ヲ出シ衛兵所ニハ複哨ノ交代  
兵ノ外巡察、斥候、傳令等ニ必要ナル人員ヲ控ヘシムルコト恰モ前哨ニ於ケ  
ル小哨ノ如クナラシムルモノ(要務令第二百七十二)

(乙) 警戒地區ヲ區分シ附近宿營部隊ヲシテ各外衛兵ヲ配置セシムルモノ(要  
務令第二百七十一)

此各外衛兵モ亦兵力大ニシテ數哨所ヲ出ス場合ニハ(甲)ノ場合ニ準スルモ  
ノトス

(丙) 内衛兵ヲシテ外衛兵ノ任務ヲ兼ネ(外衛兵ヲ設ケス)外部ノ警戒ヲモ擔任  
セシムルモノ(要務令第二百七十二ノ第五項)

然ルニ諸官ノ中ニハ外衛兵ハ各獨立シタル下士哨、複哨等ヲ附近宿營部隊ヨリ  
所要位置ニ出スヲ本則ノ如ク考フルモノ少カラサルヤニ思ハル之一ノ便法ナ  
リト雖本則ニアラサルト同時ニ此種方法ヲ採用スル場合ニハ外衛兵ノ後援ト  
シテ緊急舍營ノ部隊アリテ更ニ衛兵所ヲ設置スルノ必要ヲ認メサル如キ時ナ  
ルニ注意スヘシ(乙)ノ場合ニ於テ某隊ニ擔任セシメタル警戒區域狭小ニシテ一  
下士哨ヲ以テ十分ナル場合ノ如キ特例ト混同セサルヲ要ス

(丙)ノ場合ハ小部隊ノ舍營ニ際シ地域モ狭小ニシテ實際一ノ衛兵ヲシテ内外ノ  
警戒ヲモ擔任セシメ得ルノミナラス狀況モ亦如斯シテ十分ナル場合ナラサル



ヘカラス而シテ此小部隊ノ程度ニ就テハ原則トシテ別ニ標準アルコトナシ然レトモ予ノ見解ニヨレハ各兵種ノ戰術單位(給養單位)ヲ標準トシ之等部隊カ稍、獨立シテ某地ニ宿營スル如キ場合ニ於テハ此種警戒法ヲ取ルナラント考フ以上ノ如ク研究上分類シテ説明シタルモ決シテ某一方法ニ準據スヘシト強ユルニアラス諸法ヲ應用シ狀況ニ適合セシムルヲ要ス之實ニ舍營司令官ノ勤務上ノ手腕ナリトス

外衛兵ノ哨兵配置ノ要領ハ常ニ必シモ舍營地ノ全出口外圍等ニ警戒兵ヲ出スヘキモノニアラス警備上必要ナル出口、外圍、要點ニ配置スルモノニシテ要ハ兵力ヲ節約シテ警戒シ得レハ最モ妙ナリ行軍舍營ニ於テ特ニ然リ故ニ要務令ハ危殆ノ度ト地形ニ關スル旨ヲ明示シアリ(要務令第二百七十一ノ第一項)予ノ考案ニヨレハ本狀況ニ於ケル外衛兵ハ次ノ如クナルヲ可トス

南出口外衛兵

哨兵

場所

將校

下士上等兵

卒

人員

下士哨	無名祠	一	一	六
複哨	本道出口	一	一	六
下士哨	海岸道橋梁	一	一	六
外ニ長(從卒)		一	一	一
巡察		二	二	四
傳令		二	二	四
喇叭手		一	一	一
計		一	五	二六
鐵道橋附近外衛兵		二	二	六
下士哨		二	二	六
巡察		二	二	四
喇叭手、傳令		二	二	四
計		二	一〇	二六

此下士哨ハ步兵第三聯隊ノ内東部宿營部隊ヨリ出シ鐵道橋及其東方橋梁

行軍舍營及行軍前哨ノ研究



附近ヲ警戒セシム  
西出口外衛兵

下士哨

喇叭手

巡察

傳令

計

此下士哨ハ歩兵第二聯隊中西部ニ宿營スル部隊ヨリ出シ西出口ヨリ三瀧川ニ沿フ兩岸道路ヲ警戒セシム

四日市町西側ニハ此外數多ノ出口ナキニアラサルモ凡テ此等ノ出口ニ哨兵ヲ出スハ多大ノ兵力ヲ要スルノミナラス本狀況ニ於テハ左程危殆ノ度大ナラサルヲ以テ予ハ巡察ヲ以テ警戒セシメテ可ナリトナスモノナリ三瀧川以北ノ地區ニ於ケル舍營地ノ内出口ハ本狀況ニ於テハ之ヲ省略シ得ヘシ若強テ警戒セント欲セハ末永濱一色ノ二部落ハ各獨立シタル内衛兵ヲ備ヘ之ヲシテ外部ノ

一  
一〇  
一  
二  
一  
六

三 内衛兵

警戒ヲ擔任セシムルコト前述(丙)ノ場合ノ如クナラシムレハ可ナラン

内衛兵ニ關シ諸官中ニハ舊令風紀衛兵ト同様ニ考ヘ居ル人ナキニアラサルモ現行要務令ニ於ケル内衛兵ハ軍隊ノ風紀ヲ取締ル如キ性質ノモノニアラス否軍隊ノ軍紀風紀ハ各隊長ノ力取締ヲナスヘク舍營地警備上舍營司令官ノ爲スヘキ限リニアラス長キ駐留舍營等ニテ外出先ニテ舍營地内ノ安寧ヲ害スル如キ行爲ヲナス兵卒アリトスレハ固ヨリ之ヲモ取締ルヘシト雖事舍營地ノ安寧秩序ニ關係ナキ個人ノ行爲ノ如キハ當ニ各隊長ノ戒飭取締ヲナスヘキモノナリ行軍舍營ニアリテハ此ノ如キ事ハ殆トナカルヘシ警戒ヲ主トセサル舍營ニアリテハ稀ニ兵卒ノ外出スルコトナキニ非スト雖之固ヨリ稀有ナルヘシ故ニ此種ノ事項ハ多ク駐留舍營等ニ生スルモノナリ

行軍舍營ニアリテハ主トシテ間諜ヲ防キ地方人民ヲ監視シ又特別ノ願慮アル衛生事項ヲ監督スルモノナリ之ヲ本狀況ニ照セハ四日市舍營部隊ハ豫定ニ反シ鐵道線路以東ヲ使用スルコト能ハス而モ附近ニハ點在スル小部落ノミニシ



テ適當ナル舍營地ナキ爲從來三大隊ヲ入ルヘキ豫定(十分餘裕アルモ)ノ所ニ五  
 大隊ヲ入ルルコトトナルヘシ茲ニ於テ四日市舍營ハ稍狹縮ナル舍營トナレリ  
 故ニ要務令第二百七十五ノ指示ヲ參酌シ舍營地ノ靜肅保持ノ必要アルヘシ三  
 瀧川以南地區ニ於テ最モ然リトナス又鐵道線路以東ノ人民ハ舍營地内ニ入ル  
 ヲ禁セサルヘカラス  
 以上ヲ綜合スレハ一般軍機保護ノ外本狀況ニ於テ特ニ著目スヘキ三點ヲ發見  
 スヘシ

- (1) 三瀧川以南四日市舍營區ハ比較的狹縮ナル舍營トナレリ故ニ靜肅保持  
 ノ爲特ニ注意ヲ要ス
  - (2) 鐵道線路以東地域ニ對シテハ衛生上地方人民ノ交通ニ關シ特別ノ顧慮  
 ヲ要ス
  - (3) 三瀧川以北ハ同川以南トハ趣ヲ異ニシ舍營地區モ廣ク又警備モ前者ニ  
 比スレハ緩ニテ可ナリ
- 以上ノ三點ヲ既味シ又地形ヲ顧慮スレハ左ノ歸著點ヲ得ヘシ

- (1) 四日市町ニハ稍強大ナル内衛兵ヲ要ス又鐵道線路以東ハ特ニ地方人民  
 ニ對シテ注意ヲ要ス(要務令第二百七十五及第二百七十二ノ第一項)
  - (2) 内衛兵ハ三瀧川ノ南北地區ハ之ヲ各別トナスヲ可トス(要務令第二百七  
 十二ノ第三項)
  - (3) 三瀧川以北ノ三小部落ハ各宿營部隊毎ニ内衛兵ト各隊ノ哨兵トヲ兼ネ  
 テ配置シ且此衛兵ヲシテ外部ノ警戒ヲモ兼ネシムルヲ可トス(要務令第二  
 百七十三ノ第二項及第二百七十二ノ第五項)
- 予ノ考案ニヨレハ内衛兵ハ次ノ如クナルヲ要ス

哨兵	場所	將校	下士	上等兵	卒
遊動複哨(二)	鐵道踏切			一	一二
固定複哨(二)	本道上			一	一二
同 單哨(一)					三
巡察				一	四



長(從卒)

傳令

喇叭手

計

一	一	一	一
一	一	三	三五
一	二	一	

七四

末永濱一色兩部落ハ各宿營部隊ニテ内衛兵ヲ設ケ外部ニ對スル警戒ヲモナサシム

之ヲ要スルニ内外衛兵共要務令記載ノ各種原則ヲ適宜應用シテ以テ狀況ニ適合セシムレハ可ナルヲ知ルヘシ

四 警急集合

警急集合場ニ關シ舍營司令官ハ集合ニ際シ混雜ヲ避クル爲要スレハ全部又ハ一部ヲ特ニ指定スルコトアルハ要務令第二百七十ノ第二項ニ示スカ如シ而シテ各隊ハ此便ヲ顧慮シ自己ノ選定シタル警急集合場ヲ舍營司令官ニ報告スヘキハ要務令第二百七十ノ第一項ニ明示シアリ之ヲ本狀況ニ照スニ舍營司令官自ラ指定スルヲ要スル警急集合場ハナキカ如シ若各隊長不熟ニシテ意ニ滿タ

サルモノアリテ修正ヲ命スルカ如キハ固ヨリ不可ナシ

警急大集合場ヲ二箇所ニ選定スルノ必要ハ偵察ノ結果ニ基クモノナリ(要務令第二百七十ノ第四項)而シテ二箇所ニ決定セハ何隊(何地宿營部隊)ハ何レノ大集合場ニ集合スヘキコトヲ明確ニ指示シ置クヲ要ス

警急集合ノ爲ニ步兵第二聯隊第三大隊ノ爲ニハ特ニ進路ヲ規定スルヲ要ス(要務令第二百七十ノ第四項)兩步兵聯隊同機關銃隊ノ爲ニモ亦然リ

大行李ハ何等舍營司令官ヨリ規定セラレサルトキハ其宿營地ニアリテ出發準備ヲナシアルヘキモノナリ(要務令第二百八十ノ第三項)本狀況ニ於テハ本項ヲ適用シ夜間狹縮ナル舍營地内ニテ右往左顧セシメサルヲ可トス然レトモ諸隊大行李ヲ特別ニ宿營要務令第二百六十六ノ第一項セシムルノ要ヲ見ス師團電話隊ニ就テモ亦然リ

五 高級指揮官、舍營司令官ノ宿舍及通信所

高級指揮官ノ宿舍ハ要務令第二百五十八ノ第一項ノ主旨ニヨリテ選定セラレ舍營司令官ノ宿舍ハ舍營地内ノ警備ト自己軍隊ノ統御ニ便ナル所ニ選フモノ



ナリ此兩宿舍相接近シアレハ便ナルモ必シモ兩者相近キヲ要件トナサス  
通信所ニ關シテハ要務令第二百五十八ノ第二項ニ示ス如ク而シテ作業ニハ之  
ヲ記入シアルヲ可トス

六 巡察區域

巡察區域ハ步兵第二聯隊及同第三聯隊ノ宿營地ニ兩分スルヲ適當トセン  
以上ノ腹案ニシテ確定セハ之ニ基キ舍營ニ關スル諸命令ヲ與フルコトヲ得ヘシ

舍營命令

其一 設營隊ニ與フル命令(此命令下連ノ際ハ設營隊司令、舍營日直將校、部隊日直  
聽取セ)  
諸隊ハ別紙地圖上ニ記入セルモノヲ示スノ如ク舍營スヘシ

舍營命令 四月十四日午後四時  
於溪一色北端

海藏川三瀧川ハ參宮道以東ノ部ハ鹹水ニテ飲用ニ適セス  
ヲ通報スルヲ便トス  
但シ機關銃廠ハ無名祠及學校、師團電話隊ノ車廠ハ寺院ヲ可トスルカ如シ等

舍營日直將校ハ步兵大尉某トス

二 諸隊ハ午後六時迄ニ左ノ如ク衛兵ヲ出スヘシ

步兵第二聯隊 外衛兵トシテ將校一、下士一、下士若ハ上等兵五、卒二六(内喇  
叭手一、從卒一ヲ含ム)ヲ本道上圖上「道」字附近ノ三叉路、別ニ

下士一、下士若ハ上等兵一、卒一〇(内喇叭手一ヲ含ム)ヲ四日

市町西出口附近ニ出シ三瀧川兩岸道路ヲ警戒セシムヘシ

步兵第三聯隊 外衛兵トシテ一ノ下士哨(下士一、上等兵一、卒一〇)内喇叭

手一ヲ鐵道橋附近ニ出シ同地以西ヲ警戒セシムヘシ

内衛兵トシテ將校一、下士一、下士若ハ上等兵三、卒三五(内

喇叭手一ヲ含ム)ヲ圖上「町」字ノ南方十字路附近

步兵第二聯隊第三大隊、同聯隊機關銃隊、步兵第三聯隊機關銃隊(一小隊欠)

各其舍營地ニ一ノ内衛兵ヲ設ケ内外ノ警戒ヲナサシム

ヘシ

三 警急大集合場ハ左ノ如シ

行軍舍營及行軍前哨ノ研究



步兵第一聯隊 四日市西南側畑地

七八

但シ第三大隊機關銃隊ハ三瀧橋西方ノ橋梁ヲ經由

步兵第三聯隊(第三大隊及機關銃一小隊欠) 四日市南側海岸道兩側乾田

師團電話隊ハ警報ニ際シテハ宿營地ニアリテ後命ヲ待ツヘシ

四 下士以下ハ屋内ニアリテ靜肅ヲ保持スヘシ特ニ鐵道線路以東ニ立入ルヲ嚴禁ス

五 師團司令部ハ四日市郡役所附近ニアリ

電話通信所ハ師團司令部宿舍構内ニ設置スヘシ

六 予ハ四日市郡役所南方約二百米三又路附近ニアリ

其二 舍營日直將校ニ與フル命令

舍營命令 四月十四日午後四時五分  
於新瀧橋附近

一 前衛ハ日永濱田間ニ宿營シ前哨ヲ内部川ノ線ニ出シテ警戒ス

二 諸衛兵ヲ午後六時ヨリ左ノ如ク配置スヘシ

外衛兵 衛兵所ヲ圖上「道」字附近ニ置キ哨兵ヲ無名祠、參宮道出口、海岸道

上無名小流ノ橋梁附近ニ配置スヘシ

内衛兵

衛兵所ヲ圖上「町」字附近ニ置キ哨兵ヲ步兵第二聯隊及同第三聯隊ノ舍營地内ニ各二個ヲ配置シ特ニ舍營地内ノ靜肅ヲ保持セシムヘシ

傳染病流行地區トノ交通ハ嚴ニ遮斷セシムルヲ要ス

三 敵襲ニ際シ外衛兵ハ其守地ニ於テ敵ニ當リ内衛兵ハ哨兵ヲ増加シ且土民ノ混雜ヲ制止スヘシ

四 其他ハ先ニ貴官ノ聞知セル通リ

其三 舍營司令官ノ巡察將校ニ與フル命令

舍營命令

一 諸隊舍營地區、諸衛兵ノ配置並舍營地内警備ニ關シテハ兩官ノ聞知セル通リ

二 A中尉、B少尉ノ巡察區域ハ左ノ如シ

A中尉 步兵第二聯隊及師團電話隊ノ宿營區地圖ヲ指示シテ説明ス

行軍舍營及行軍前哨ノ研究

七九



三 巡察ハ前半夜後半夜各一回之ヲ行フヘシ  
舍營地靜肅保持ニ關シテハ特ニ注意ヲ要ス

一 諸衛兵ハ左ノ如ク配置ス  
舍營日直將校ノ部隊日直將校下士ニ與フル命令

(地圖ヲ指示シテ説明ス)

二 歩兵第二聯隊第二大隊同第三聯隊第二大隊ノ日直將校ハ其隊ヨリ出ス外衛兵ノ配置ヲ終ラハ報告スヘシ

各隊ヨリ出ス外衛兵ノ舍營日直將校直轄ノ外衛兵ノ警戒區域ハ左ノ如シ

(地圖ヲ指示シテ説明ス)

三 歩兵第二聯隊第三大隊同機關銃隊及同第三聯隊機關銃隊(一小隊欠)ノ日直將校(下士)ハ内衛兵ノ配置終ラハ其人員位置等ヲ報告スヘシ

四 舍營地區内靜肅保持及傳染病流行地域トノ交通遮斷ニ關シテハ諸官ノ聞知セル通り

五 予ハ南部外衛兵、四日市町内衛兵ヲ區處シ後圖上「道」字附近ノ東方ニ在リ

外衛兵及内衛兵配置ノ要領

外衛兵ノ配置ハ要務令第二百七十一ニ據リ小哨ニ於ケル步哨配置ノ要領ニ準スヘキモノナリ即チ將校ニ命シ衛兵所ヲ圖上「道」字附近ニ置キ無名詞、出口、橋梁ニ步哨ヲ出シテ警戒シ鐵道橋ノ下士哨及前衛本隊ノ宿營地ト連絡スヘキコトヲ命ス此衛兵長ハ無名詞ニ下士哨、出口ニ複哨、橋梁ニ下士哨ヲ出シ其他ヲ衛兵所ニ置キ警戒ヲナス

内衛兵ハ要務令第二百七十二ノ規定ニ據リ衛戍衛兵ノ如キ性質ノモノニシテ其配置モ亦之ニ準スヘキモノナリ

設營隊ノ動作

設營隊ハ聯、大隊ヲナス部隊例ヘハ歩兵、砲兵ニ付キ一例ヲ示セハ次ノ如シ

大隊副官一 設營司令ニシテ聯隊ノ舍營區ヲ舍營司令官ヨリ受領シ先聯隊本部及各大隊ノ舍營區ニ區劃ス

大隊毎ニ特務曹長又ハ曹長一 大隊舍營區ヲ設營司令ヨリ配當セラレハ大



隊本部各中隊ニ區域ヲ配當ス

以上ノ外聯隊本部附下士、大隊本部附下士及各中隊下士各一、兵卒若干ヲ出ス而シテ各兵種毎ニ設營司令若ハ次級者之ヲ引率シ所命ノ地點ニ到リ舍營司令官ヨリ舍營區ノ配當ヲ待ツモノナリ設營司令乘馬將校ナレハ先行スルヲ便トスルハ勿論ナリ

部隊日直將校下士ノ動作

- 一 舍營日直將校ヨリ受ケタル事項中自己ノ隊ニ關係ヲ有スルモノハ之ヲ隊長ニ報告シ同時ニ隊長ヨリ所要ノ命令ヲ受ク
  - 二 隊長ノ命令ニシテ急ヲ要スルモノハ之ヲ諸隊ニ傳達ス
  - 三 隊長及舍營司令官ノ規定シタル事項ノ實施シアルヤ否ニ關シ所屬舍營區ヲ巡視ス
  - 四 勤務實施ノ結果ヲ舍營日直將校及隊長ニ報告ス
- 巡察將校ノ動作
- 此一部ノ部隊日直將校ハ舍營日直將校ノ補助トナリ内外衛兵ノ配置ヲナス

- 一 先ニ指示セラレタル區域内ヲ巡視シ戰備及靜肅保持ノ行ハレアルヤ否ヲ監察ス
- 二 巡察ヲ終ル毎ニ異狀ノ有無ヲ舍營司令官ニ報告ス

各隊長ノ動作

- 一 (各隊長ト稱スルハ戰術及給養ノ單位タル部隊例ヘハ步兵大隊ノ如キヲ謂フ) 左ノ事項ニ關シ命令ヲ與フ

簡單ナル全般ノ狀況

大隊ノ舍營地區、緊急集合場、大隊長ノ宿舍

診斷所及診斷時刻

糧秣分配所及分配時刻

飲水及飲馬場ノ配當

大行李ノ舍營ニ關スル規定

日夕點呼ニ關スル件

酒保開設ノ場所及開閉ノ時刻

主トシテ駐留舍營ノ場合



入寢消燈竝號音ニ關スル制限

其他所要ノ件

以上ノ事項ハ同時ニ達スル能ハサルカ故ニ先各中隊ヲシテ宿營ニ就カシメ後命令受領者ヲ大隊本部ニ集メ副官ヲシテ傳達セシム

二 部隊日直將校ノ氏名ヲ各中隊ニ達ス

三 部隊日直將校ヨリ舍營司令官ノ規定ニ關スル報告ヲ受クルトキハ必要ニ應シ外内衛兵ノ人員及出スヘキ位置ヲ中隊ニ命ス

四 舍營司令官ノ規定及自己ノ意見ニ基キ戰備及靜肅ノ維持竝警報ニ際シ取ルヘキ處置ニ關シ各中隊及部隊日直ニ所要ノ件ヲ達ス

## 局地戰之研究

### 局地戰一般ノ要領ニ關スル原則的說明

方今ノ戰鬪ハ廣大ナル地域ニ亘リテ行ハレ且戰鬪手段トシテ地區地物ノ利用ヲナスカ故ニ土地ノ狀態カ戰鬪ニ及ホス影響ハ昔日ニ比シテ甚大ナリ

局地戰トハ局部ニ於ケル土地ノ狀態ニ應シ生スル戰鬪ヲ稱スルモノニシテ其戰法ハ一般ノ戰鬪原則ヲ局地ノ特性ニ基キ活用シタルモノナリ故ニ戰鬪原則ノ大本ニ於テハ固ヨリ變化アルコトナシ

土地ノ狀態ハ千差萬別ナルカ故ニ局部毎ニ起ル戰鬪狀態モ亦多種多樣ニシテ必スシモ劃然タル區別アルモノニアラス今假ニ研究上ノ便ヲ願慮シ極テ顯著ナルモノニ就キ分類スレハ次ノ如クナルヘシ

第一 高低起伏ニヨル差別

(イ) 高地

(ロ) 谷地

局地戰ノ研究



第二 地域ノ廣狹ニヨル差別

(ハ) 隘路

第三 掩蔽物ノ種類ニヨル差別

(ニ) 住民地

(ホ) 森林

前述三種類ハ即チ局地戰研究ノ素因ヲナスモノニシテ凡テノ局地ハ此三種ノ彼此相錯雜混成セラレタルモノナリ故ニ研究ノ基礎ヲ此三種ノ上ニ置カサルヘカラス而シテ以上三種ト雖局地成立ノ狀態カ戰術上ニ及ホス關係ニヨリ更ニ小區分ヲ要スルヤ勿論ナリ例ヘハ第二(ハ)ノ隘路ハ其長短我火力ノ及ホス影響ニヨリ(1)長隘路(2)短隘路ニ區別スルヲ可トシ又第三(ニ)ノ住民地ハ其成立ノ狀態カ銃砲彈ニ對スル抗力、遮蔽ノ度及交通ノ難易等ニ差異アルヲ以テ之ヲ(1)村落(2)集團部落集團家屋(3)市街ニ分チテ研究スルヲ便トスルカ如シ

右ノ外局地ノ延長廣袤ニヨリ戰術的價值ヲ異ニスルハ特ニ注意ヲ要スヘキ點ナリ即チ延長ノ如何ニヨリ

(I) 戰術的要点

(II) 戰術的要点

トシテ其戰術上ニ及ホス價值ニ大差ヲ生スルコト之ナリ又延長物體ニハ延長物體其モノノ固有ノ戰術的共通ノ利害ヲ生スルモノニシテ例ヘハ山地、河川、大森林大高地線ノ如キハ側面ノ脅威又ハ迂回ヲ誘發スルカ如キ之ナリ

我國操典ニハ山地及河川ニ於ケル戰鬪ヲ說クニ拘ラス予カ茲ニ局地ノ素因トシテ之ヲ數ヘサリシハ一見奇異ノ感ヲナス者アルヘキモ抑、山地ハ高地、谷地、河川、村落森林等ヨリ成ル長隘路ノ連續シタルモノニ過キサレヘク河川ハ短隘路ノ橫接シタルモノニ過キス故ニ此等ハ予ノ見解ヲ以テセハ集成的ノ局地ニシテ局地ノ素因トナスヘキモノニアラス從テ其戰法モ亦複雜ナリ例ヘハ山地戰ハ縱方向ニ於テハ長隘路ニ於ケル隘路口前後及内部ノ戰鬪ヲ形成シ高地戰、谷地戰、森林村落戰等アルヘク橫方向ニ於テハ此長隘路數箇橫綴シ全般ノ戰鬪地ヲ形成ス又河川ハ短隘路ノ橫接ニ加フルニ人工的ニ此短隘路ヲ増減シ得ル特性アルヲ以テ茲ニ種々ノ戰法術策ヲ生シ以テ河川附近ニ於ケル戰鬪法ノ原則ヲ生シ居ル如キ之ナ



リ故ニ予ハ諸官カ局地戰ヲ學ハント欲スレハ先前述素因トナルヘキ局地ニ關スル單戰法ヲ了解シ後集成局地ノ戰鬪法即チ複戰法ニ及ホスヲ便ナリトスルモノナリ

然リト雖將來ノ會戰ニ於テ單一局地ノ戰法ノミ發生スルモノニアラサルヤ勿論ナルヲ以テ諸官ハ基礎研究ヲ積ミ戰場ニ於テ各種戰法ヲ彼此活用シ以テ戰勝ノ効果ヲ收メサルヘカラス而シテ此活用ハ一ニ諸官ハ活眼ト其手腕ニ待ツモノナリ

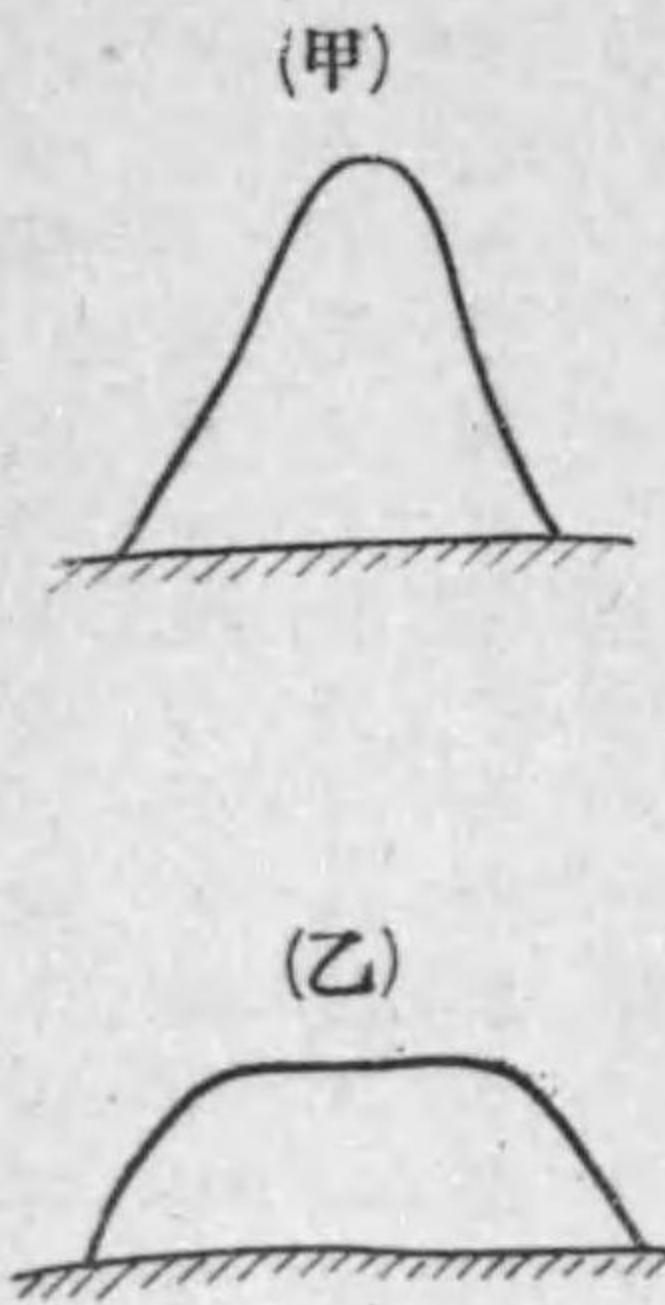
局地戰一般ノ要領ニ關シテハ本邦典令陸軍士官學校戰術學教程、メッケル獨逸基本戰術等諸書ニ詳細說述シアルヲ以テ予ハ說明ノ煩ヲ避ケ各種局地戰ニ於テ其特性ト認ムル點ノミニ就テ想定ノ狀況ニ應シ解說スルコトトナサン諸官乞フ之ヲ恕セヨ

### 高地戰ニ關スル原則的說明

#### (一) 高地戰ノ特性

高地戰ノ特性ハ守者高處ニ存在シ攻者低地ヨリ之ヲ攻撃スルト戰場トナルヘキ地域殊ニ高地斜面ノ狀態カ運動及射擊ニ及ホス關係ニ存スルモノナリ詳言スレハ目視上ヨリセハ攻者ハ偵察困難ナルモ守者ハ敵ノ行動視察容易ナリ又志氣上ヨリセハ高處ニアルモノハ瞰制ノ利アリ又運動上ヨリセハ攻者ハ攀登困難ニテ守者ハ降下困難ナリ射擊上ヨリセハ守者ハ瞰射ノ利ヲ有スルモ死角及射擊シ得サル扇形地ヲ生シ易キ等之ナリ

高地ノ戰術上ノ價值ハ主トシテ山頂脚及斜面ノ形狀並傾度及比高ニ關係スルモノニシテ又斷面的形狀ノ異ナルニ從ヒ戰鬪經過ヲ異ニス高地ニハ圓錐狀(甲)ヲナスモノト圓臺狀(乙)ヲナスモノトアリ(甲)ハ高連山地及島國ノ地勢ニ多ク



(乙)ハ低連山地丘阜地又ハ大陸ニ見ルコト多シ其一般形狀ヲ示セハ上圖ノ如シ

又人口稠密ニシテ農業特ニ加工的農業ノ發達セル地方ニアリテハ高地斜面ノ



形狀ハ特種ノ状態ヲ呈スルハ本邦ニ於ケル低連山地方ニ於テ見ルカ如シ即チ農事ノ便ヲ顧慮シ水平地ノ希望ヨリ斜面ノ階段ヲ形成シアルコト之ナリ

(甲)ハ守者戰鬪線ヲ前線ニ選定セル場合ト高地臺上ニ後退シテ選定セル場合トヲ生シ(乙)ハ前線ニ於テ戰鬪線ヲ制限セラル而シテ(甲)共ニ前線ヲ戰鬪主線トナス場合ニアリテモ(甲)ハ前線ニ於ケル主戰鬪ノ後臺上ニ於ケル掃蕩戰(恢復戰)ヲ生シ(乙)ハ前線ニ於ケル戰鬪ヲ以テ終局ヲ告クルヲ一般トス

(二) 守者前方線端附近ヲ主戰鬪線トナス場合ノ戰鬪

守者ハ火戰ヲ頂界線又ハ斜面ニ設ケ突出部灣入部ヲ利用シ側防ノ處置ヲ講シテ攻者ノ近接ヲ妨ケ前地要點ニ射擊ヲ集中スル爲十字火又ハ重疊射擊ヲナス設備ヲナスモノニシテ地形ニ應シ歩砲兵ノ關係特ニ機關銃ノ使用ヲ巧ニシ以テ攻者ノ損害、疲勞、隊伍紊亂ニ乘シ戰勝ヲ得ンコトヲ期ス

攻者ハ兵力ノ優勢ニヨリ準備火戰ヲ十分ナラシメ特ニ砲兵ハ最終ノ時機迄適切ナル協同ヲナシ得ル處置ヲ講シ高地斜面ノ死角射擊シ得サル扇形地等ヲ利用シ敵火ノ損害ヲ避ケテ氣息ヲ回復シ隊伍ヲ整頓シ近ク後方ニ部隊ヲ跟隨シ

一舉ニ敵陣地ヲ奪取センコトヲ努ム

守者ハ攻者ノ火力ノ下ニ斜面ヲ降下スルコトハ最モ不利トスル處ナルヲ以テ攻者ノ山頂附近ニ現出セントスル際逆襲的ニ決戰ヲ求メ又攻者ハ前線ヲ占領セハ此處ニ堅固ナル立脚地ヲ構成シ以テ臺上ニ於ケル第二次ノ戰鬪(甲)高地ノ場合ヲ準備スルカ又ハ射擊ヲ以テ敵ヲ追撃乙)高地ノ場合ヲナス何レノ場合ニ在リテモ攻者守者共ニ戰勝ニ乘シ輕舉高地ヲ離レテ低地ニ行動スルハ特ニ戒メサルヘカラス

(三) 守者主戰鬪線ヲ高地ニ選定セル場合ノ戰鬪

守者高地前線ヲ避ケ高地ニ後退配備ヲナシアル場合ノ戰鬪之ナリ  
守者ハ高地前線ニ所要ノ監視部隊ヲ配置ス此監視部隊ハ攻者ノ小部隊等ヲ擊退シ得且攻者ノ線端ニ向フ行動ヲ妨害シ得ルヲ要ス之カ爲稍、有力ナル歩兵部隊時トシテハ初期ニ於テ砲兵ノ一小部隊ヲ附屬スルコトアリ然レトモ此等ノ部隊ハ前進陣地占領ノ害ヲ主力ニ及ホササル如ク行動スルハ特ニ注意ヲ要スルコトナリトス守者ノ主力ハ高地ニ於テ歩砲兵最善ノ協力ヲナシ得ル如ク



配備シ攻者未タ高地前線ニ十分ナル立脚地ヲ領有シ得サル時機ニ於テ全力ヲ舉ケ攻勢ニ轉シ攻者ノ兵力分離ニ乘シ高地縁端ニアル部隊ヲ擊攘スルヲ要ス此際守者ノ攻勢移轉時機ノ選定ハ特ニ緊要ナルモノニシテ戰鬪ノ勝敗ハ一ニ之カ適否ニヨリ決スト云フモ過言ニアラサルナリ

攻者ハ高地前線ニ在ル部隊ヲ驅逐シ斜面脚又ハ斜面内死角ヲ利用シ隊伍ノ整頓ヲナシ後方部隊特ニ速ニ砲兵ヲ招致スルノ處置ヲナシ十分ナル準備ヲ完了シテ高地縁端ニ現出シ爰ニ十分ナル立脚地ヲ占メサルヘカラス此際防者ハ恐ラクハ全力ヲ以テ攻勢ニ轉スヘキカ故ニ攻者縁端部隊ハ極力之ヲ防支シ後續部隊ノ到著ヲ容易ナラシメ後續部隊ノ來著ト共ニ攻者全力ヲ舉テ攻撃前進ヲナスヘキモノトス

#### (四) 高地戰ノ戰鬪狀態

高地縁端ヲ主トスル戰鬪ハ即チ縁端爭奪ニ關スル眞ノ高地ノ攻防ニシテ其戰鬪ノ結果ハ設備諸兵種ノ實力上ノ協同動作及力戰ノ程度如何ニ關係ス

高地ノ交戰ヲ主トスル戰鬪ハ一種ノ遭遇的戰鬪指導上ノモノニシテ守者ヨリ

見ルトキハ守勢的統一展開ヲナシ迎撃的戰法ヲ應用セント欲シ攻者ヨリ見ルトキハ前方部隊ノ獲得セル利益ヲ確保スル爲逐次戰鬪加入ヲナサシムル場合ノ戰鬪法ニ酷似ス

以上ノ戰鬪狀態ヲ翫味シ局地ノ價值ヲ適當ニ判斷スルトキハ恐ラクハ高地戰ニ於ケル戰鬪指導ヲ誤ラサルヲ得ンカ

高地ニ於テ戰鬪線ヲ何レニ選フヤ換言スレハ縁端ヲ可トスルヤ後退スルヲ適當トスルヤ又如何ニ利用スヘキヤ詳言スレハ高地其モノヲ主戰場トナスヘキヤ高地ヲ戰鬪ノ一支撐點トシテ之ヲ利用シ接近地區ニ於テ主戰鬪ヲナスヘキヤ等ハ一般ノ狀況特ニ戰場一般ノ地形竝高地ノ戰術的價值ニ關シテ決定スヘキモノナリトス

### 谷地戰ニ關スル原則的說明

#### (一) 谷地戰ノ特性

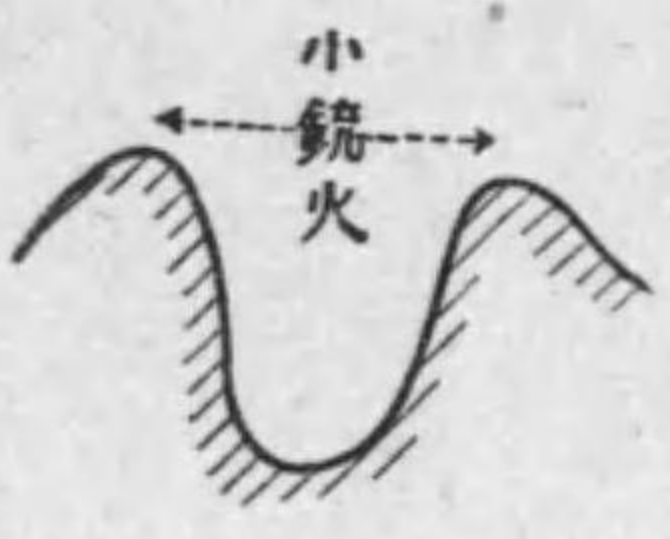
谷地戰ノ特性ハ高低ノ差アル位置ニ軍隊ヲ行動セシムルニヨリ生スルモノナ



リ從テ谷地戰ハ大體ニ於テ一種ノ高地戰ト見ルヲ得ヘク時トシテ谷底ニ於テ隘路戰ヲ生スルコトアリ

谷地ノ價值ハ兩岸比高ノ差、距離、斜面ノ形狀、谷底ノ狀態ニ關係ス谷地モ亦高地ト等シク高連山地低連山地ニ存在スルニヨリ狹谷トナリ或ハ廣谷ヲナス而シテ谷地戰ノ特性ヲ發揮スルモノハ對岸ニ銃砲火ヲ施シ得ル狹谷ナリトス從テ谷地戰ハ對岸ニ火力ヲ及ホシ得ル程度ニ應シ戰鬪指導ニ差異ヲ生スルモノナリ之ニヨリ谷地ヲ區別スルトキハ左ノ二種トナル

(甲) 狹谷



對岸ニ小銃火  
ヲ及ホシ得  
ルモノ

(乙) 廣谷



對岸ニ砲兵火  
ノミ及ホシ得  
ルモノ

尙谷地ノ狀態如何ニヨリテハ兩軍谷地對岸ニ存在スルトキハ谷地戰ノ特性ヲ生スルモ守者若縁端ヲ避ケ其位置ヲ後退スル爲特別ノ戰鬪狀態ヲ呈スルモノ

ナリ

(二) 狹谷ニ於ケル戰鬪

守者ハ通常谷地縁端ヲ高地縁端ニ於ケルカ如ク利用シ特ニ攻者ノ谷地對岸斜  
面ヲ降下スル際之ニ大ナル損害ヲ與フ然レトモ地形ニヨリ稀ニ谷地脚又ハ谷  
底ヲ歩兵ノ一部ヲ以テ占領セシムルコトアリ之谷地縁端ヨリ射撃シ得サル死  
角又ハ扇形地ヲ消滅セント欲スルモノナリ此際特ニ注意ヲ要スヘキハ此等ノ  
前進部隊ハ退却ニ際シ敵火ニ暴露スル我斜面ノ攀登ヲ要スル爲主力ニ及ホス  
惡影響ハ通常ノ場合ニ於ケル前進陣地占領部隊ヨリ偉大ナルコト之ナリ  
攻者ハ敵火ニ暴露シテ我斜面ヲ下ラサルヘカラサルカ故ニ地物ノ利用、時機ノ  
選定、隊形ノ選定等ニ注意スルハ勿論我岸上ニ於テ豫メ十分ナル準備火戰ヲナ  
シテ敵ヲ制壓シ且攻撃部隊ノ前進ニ際シテハ特ニ一部隊ヲ我岸上ニ配置シテ  
掩護射撃ヲナサシムルヲ要ス谷底ノ狀態ニヨリテハ攻者ハ谷底ニ於テ單隘路  
通過ノ方法ニ準シテ行動シ守者ノ一部之ヲ守備スルトキハ之ヲ擊退シテ敵本  
陣地内ニ驅逐スルヲ要ス而シテ敵方斜面ニ到着シ爾後敵ノ陣地ヲ奪取スル迄



ノ行動ハ高地縁端攻撃ノ戦法ヲ應用スルモノトス守者後退配備ヲナス場合ニ於テモ亦然リ

(三) 廣谷ニ於ケル戰鬪

彼我砲兵火ヲ施シ得ルモ小銃火ヲ交ヘ得サル如キ廣谷ニ在リテハ高地戰トナルカ若ハ谷底戰トナルコト多シ

守者若步兵ノ一部ヲ以テ谷底ヲ主力ヲ以テ谷地縁端ヲ占領スルトキハ前進陣地ヲ有スル高地防禦ニ對スル攻撃トナルヘク攻者ハ敵砲火ニ對シ我斜面降下ニ際シ特別ノ注意ヲ要スルモノトス

守者若砲兵ヲ谷地對岸上ニ步兵ヲ以テ谷底ヲ占領シアル場合ニ於テハ此處ニ谷底戰ヲ生ス即チ攻守兩者ノ砲兵ハ高處タル谷地縁端ニ於テ相配置セラレ步兵ハ彼我共ニ底地ニ於テ陣地ノ爭奪ヲナスコト之ナリ而シテ此際ニ於ケル戰鬪狀態ハ一ニ谷底ニ於ケル景況ニ關ス

廣谷ニ於ケル戰鬪ニ於テ特ニ注意ヲ要スルハ彼我步兵ノ全部ハ谷底ニ於テ交戰シ此處ニ激戰ヲ生シ戰鬪勝敗ノ大勢ヲ定ムト雖眞ノ決戰即チ戰鬪ノ終局ハ

守者ノ領有シアル廣谷ノ縁端ヲ攻者確實ニ占領シ得タル時ナルコト之ナリ故ニ此種ノ戰鬪ニ於テ谷底戰ノ勝利ニ甘シ對岸縁端ノ占領ヲ怠ルトキハ戰況爲ニ一變スルノ不幸ヲ見ルコトアリ

隘路戰ニ關スル原則的説明

(一) 隘路戰ノ特性

隘路トハ側方ノ地形利用困難ナル爲軍隊狹小ノ正面ヲ以テ行動スルノ餘義ナキ地形ヲ謂フナリ而シテ隘路ハ側方ニ於ケル地形利用ノ困難可否ニ應シ其價值ヲ異ニス例ヘハ大河ニ於ケル橋梁ノ如キモノハ通過點外ハ絶對ニ運動ヲ許ササルモ(人工ヲ以テ渡河點ヲ臨時設備スルハ別物ナリ)山地ニ於ケル峠又本邦水田ノ如キハ困難ナカラ步兵部隊ノミハ通路以外ヲ行動シ得ルカ如キ之ナリ隘路トハ行動地域ノ廣狹及難易ニ關スルモノナルカ故ニ部隊ノ大小兵種並行動ノ目的等ニヨリ戰術上(作戰上)ノ意義ヲ生スルモノナリ例ヘハ步兵一聯隊ハ自由ニ戰鬪ヲナシ得ル地域モ一師團ノ爲ニハ隘路トナルコトアルヘク步兵部



隊ノ爲ニハ隘路ナラサルモ騎兵砲兵ノ爲ニハ隘路ヲ形成スルモノアルヘク又單純ナル交戦動作ノ爲ニハ隘路ト見ルヲ得サルモ當該部隊作戦目的ニ基ク行動上特ニ陰顯出沒自在ナルヲ要スル爲其地區ニ隘路的價值ヲ附與スルヲ適當トスル場合アル等即チ之ナリ

隘路戦ノ特性ハ狭小ノ正面ヲ以テ戦闘ヲ交ユル爲困難ナル展開ヲナシツツ所要ニ充タサル兵數ヲ逐次戦闘ニ加入スルノ已ムナキモノニシテ後續部隊ノ戦闘加入ニハ多大ノ時間ヲ要スルノミナラス大ナル混雜ヲ惹起スルカ故ニ動モスレハ敵ニ各個撃破ノ機會ヲ與フルコト之ナリ攻勢移轉退却及追撃ニ關シ隘路ハ特種ノ關係ヲ有ス

隘路ハ射撃威力ノ及フヤ否ヤニヨリ戦術上之ヲ短隘路及長隘路ニ區分ス短隘路ハ彼我ノ射撃威力對岸ノ地區ニ及ホシ得ルカ故ニ攻者守者共ニ自己ノ戦闘目的ニ應シ兩岸ニアル部隊ヲ射撃ヲ以テ協同セシムルコトヲ得ヘク又對岸ニ於ケル敵ノ行動ヲ妨害シ得ルノ特性アリ長隘路ハ全ク之ニ反ス而シテ長路隘ニ於テハ時トシテ隘路内ニ於テ戦闘ヲ交ヘ得ルノ特徴アリ短隘路ノ攻者ニ就

キ一例ヲ示セハ左ノ如シ



(甲)ノ場合ニ於テ攻者ハ守者ノ兩翼ニ斜射若ハ縦射ヲ爲シ得ル如ク配置シ且守者後退シアルヲ以テ攻者隘路ニ近接シテ配備シ得ヘク(乙)ノ場合ニ於テ攻者ハ隘路ヨリ離隔シ守者ニ集中射撃ヲ施ス如ク配置シ得ルカ如キ即チ之ナリ隘路戦ハ守者隘路口附近又ハ隘路内ニ固着スルヤ隘路ノ前後ニ挺進又ハ後退シアルヤ將又隘路口ニ對シ側方ニ隔在シアルニ關シ特種ノ戦術動作ヲ生スルモノトス



## (二) 守者隘路ノ後方ニ布陣スル場合ノ戰鬪

## (1) 守者隘路ノ直後ニ布陣スル場合ノ戰鬪

守者隘路ヲ直接守備スルモノニシテ隘路ヲ十分ニ射撃シ得ル如ク配備シ成シ得レハ隘路前ヲ射撃シ得ル如ク隘路ヲ瞰制シ得ル地點ハ守者之ヲ占領シアルヘク守者ハ隘路前方ニ於テ有利ニ攻者ノ行動ヲ妨害スヘキハ勿論ナリト雖最大緊要トスルハ攻者隘路内ヲ通過スル際之ニ猛射ヲ加フルニ在リ而シテ此配備ニ在リテハ攻者隘路前方ニ存在スル間ハ守者ノ攻勢移轉ハ不可能ナリ又縱令一度攻者ヲ撃退スルモ戰勝ヲ全フスル爲ノ追撃ハ實施困難ナルモノナリ攻者防者ノ隘路ヲ守備スルモノニ遭遇シ該隘路ヲ占領セント欲セハ急襲ヲナスカ強行通過ヲナスカノ一ヲ選ハサルヘカラス

急襲ハ夜間濃霧等適切ナル時機ニ於テ疾風迅雷耳ヲ掩フニ暇ナカラシムル如ク實施スルノ外他ニ策ナキナリ

強行通過ハ守備極メテ僅少ナルカ志氣頗ル沮喪シアル如キ特別ノ場合ノ外ハ火力ヲ以テ守者ヲ壓倒セサルヘカラス而モ此種戰法ハ戰鬪鞏強トナリタル今

日其成效頗ル困難ナルヲ以テ他ニ術策ノ用キ能ハサル場合ニ用フルモノトス強行通過ハ攻者ノ火力ニ信賴スヘキモノナルカ故ニ特ニ十分ナル準備射撃及援助射撃ヲナスヲ要ス故ニ通常射撃部隊ト通過部隊トニ分テ(豫備隊ハ別トシテ)一方射撃部隊ハ射撃ヲ以テ守者ヲ制壓スル間ニ通過部隊ハ隘路ノ近傍ニ蔽シテ隊伍ヲ整頓シ要スレハ通過路ノ設備修理等ヲナシテ時機ノ至ルヲ待チ機熟スルヤ通過部隊ハ一舉ニ敵陣地ニ突入シ守兵ヲ驅逐ス後方部隊ハ一ハ射撃ヲ以テ援助シ一ハ直ニ突撃部隊ニ續行シテ之ヲ支援シ對岸ノ占領ヲ確實ナラシム

## (II) 守者隘路ヨリ離隔シテ布陣スル場合ノ戰鬪

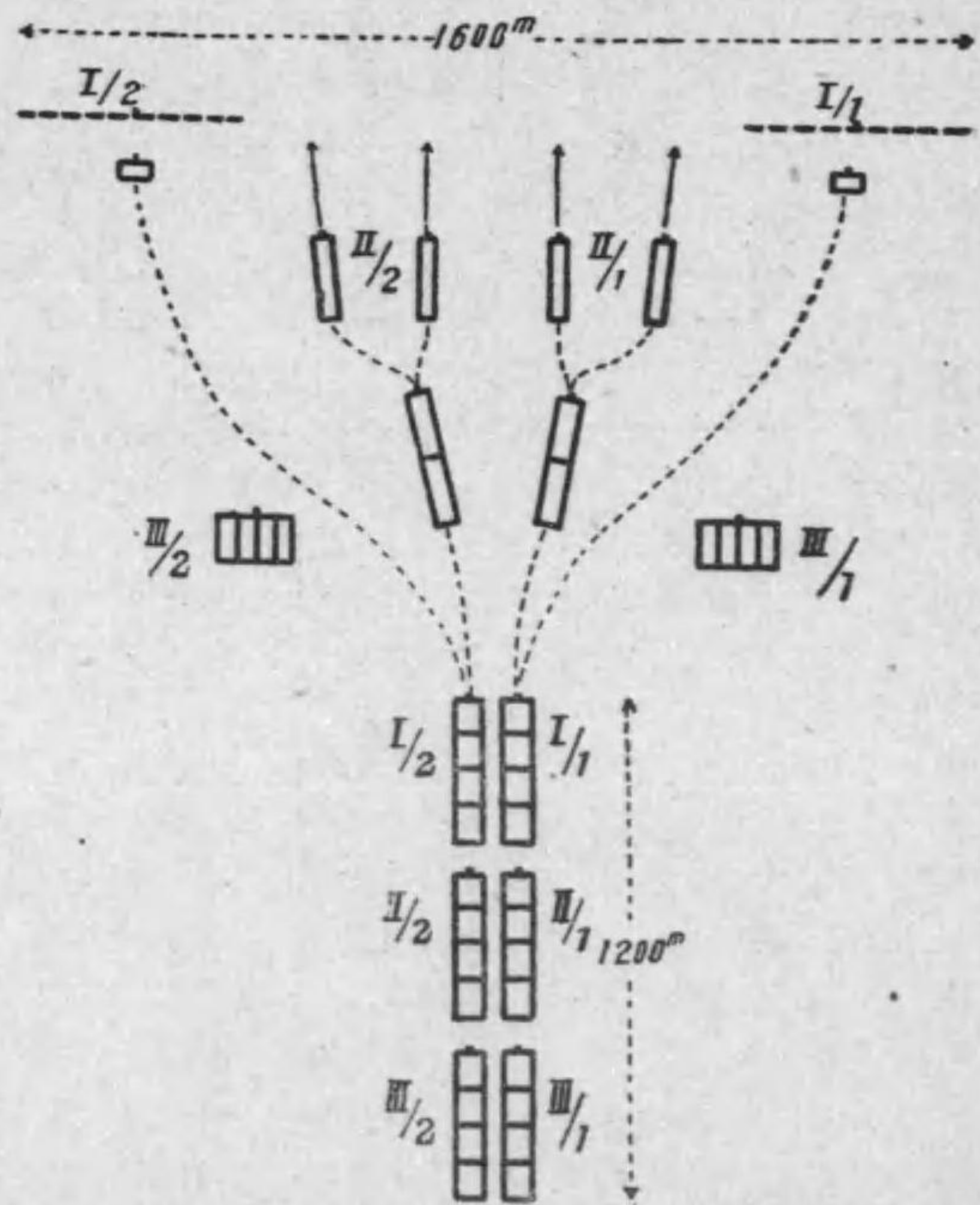
守者隘路ニ對シ後退配備ヲナスニハ隘路口(我方ノ口)ニ對シ歩砲兵ノ協同火力ヲ施シ得ル如ク且攻勢動作ヲ合セ行ヒ得ル如ク適宜隘路口トノ間ニ餘地ヲ存スルコト緊要ナリ而シテ守者ハ特ニ好機ヲ觀破シテ攻者隘路ニヨリ兵力ノ使用自由ナラサルニ乘シ攻勢ニ轉セサルヘカラス而シテ守者攻勢移轉ノ時機ヲ觀破スルハ難事トス彼我ノ間隘路ニヨリ隔離セラレアルヲ以テ



殊ニ然リ故ニ守者ハ此時機ヲ捕捉スル爲ニハ百方手段ヲ盡ササルヘカラス  
 攻者ハ守者隘路口ニアル監視部隊ヲ驅逐シテ隘路ノ出口ニ適當ナル立脚地ヲ  
 堅固ニ領有シ後續部隊ヲ續行セシメ全線ヲ擧テ攻勢前進ヲ起スハ恰モ高地後  
 退配備ヲナセル守者ニ對スル攻撃ト等シク其戰鬪指導ハ前衛ノ獲得セル利益  
 ヲ確保スル爲本隊ヲ逐次戰鬪加入ヲナサシムル遭遇戰ニ於ケルカ如シ  
 (附言) 隘路口前ニ於ケル攻者ノ展開法ニ關シ種々技術的方法ヲ立案セル學者

アリ

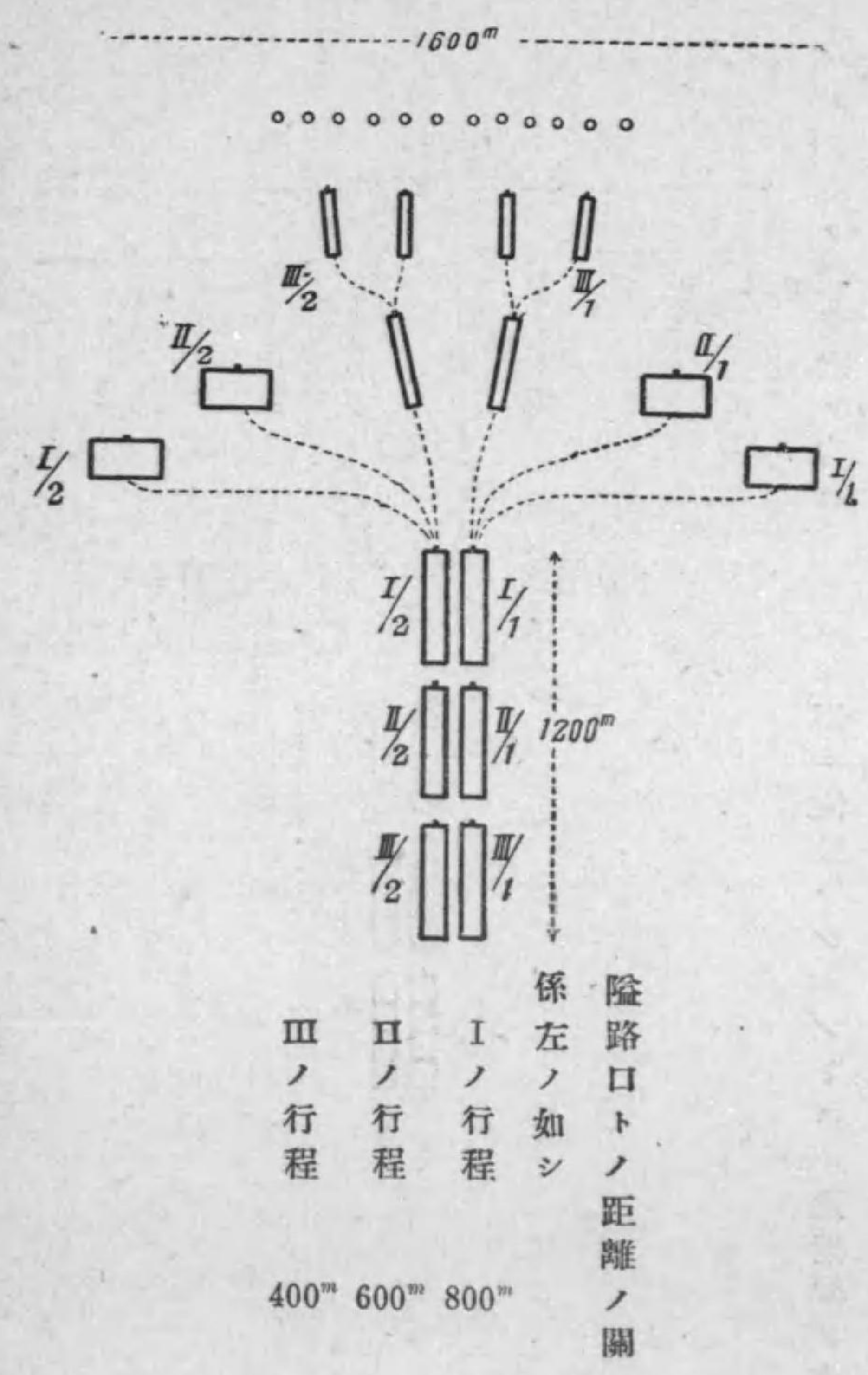
大將フオン、シユリヒチングハ攻者ノ展開位置守者ヨリ若干離隔シアル  
 場合ニハ豫期スル戰鬪正面ニ應シ左ノ如ク展開スルノ有利ナルコトヲ  
 說ケリ



バルク曰ク狀況之ヲ許ストキハ外側ニ位置セシメントスル豫備隊ヲ第  
 一ニ占位セシメ之ニ次ク外翼ヨリ内方ニ逐次展開ヲ施行スルヲ迅速ト  
 ス而シテ現今ノ射撃威力ハ此時ニ生スル間隙ニ就テハ外觀ノ如ク危険



ナキモノニシテ隘路口ニ向フ敵ノ突破的前進ハ之ヲ行フコト困難ナルモノナリト



諸書ニ依ルトキハ前述ノ場合ニ於テ内方ヨリ逐次外方ニ及ホスヲ適當ト認ムルモノ多シ  
要スルニ此展開法ハ一ニ狀況特ニ敵ノ壓迫動作ニ關スルモノニシテ地形ヲ顧慮シ現時ノ狀況ニ應スルヲ以テ最良トナシ豫メ技術的ニ方法手段ヲ決定シ得ヘキモノニアラス

(三) 守者隘路前方ニ布陣スル場合ノ戰鬪

(I) 守者隘路ノ正面前ニ布陣スル場合ノ戰鬪

守者隘路ノ正面ニ當リ其前方ニ布陣スルハ通常本隊ノ目的ニ依リ爾後攻勢ヲ企圖スルト(前衛ノ如キ)否ラサルモノ(後衛ノ如キ)トニヨリ布陣要領ニ差異アリト雖一般ノ要領ハ目的ニ應シ隘路口ヨリ適宜離隔シ本隊竝自己爾後ノ行動ノ爲餘地ヲ存シ地形比較的堅固ナル位置ヲ選定ス此際此陣地ヲ攻者ノ爲他方向ニ壓迫セラルル處ナク(距離大ニ失スルトキ時トシテ斯ノ如キ處アリ)而モ攻者ヲシテ隘路内ヲ射撃セシメサルコト之ナリ隘路ノ後方ヨリ我火力ヲ以テ援助シ得ルトキハ更ニ妙ナリ



攻者之ニ對シテ攻撃ヲ行ハシニハ何レカ一點ヲ迅速ニ突破スル爲猛烈果敢ニ攻撃シ之ヲ各個ニ擊破シ退却線外ニ驅逐スルカ又ハ本隊ノ頭上ニ壓迫シ前方部隊敗戦ノ惡影響ヲ本隊ニ及ホス如クスルヲ可トス此際攻者ハ守者本隊ノ進出セントスル隘路内ヲ射撃スルヲ得ハ好果ヲ奏スルコトアリ守者隘路内ニ退避セハ攻者之ニ尾撃シテ隘路ヲ通過スルコトヲ努ムヘシ

隘路前方布陣ニ於テ守者ノ前衛ナルト後衛ナルトニ於テ位置ノ選定ハ勿論諸兵種ノ用法行動ハ隘路ノ性質ト相待テ大ナル差異アルコトニ注意スヘシ其詳細ハ諸書ニ散見スルヲ以テ之ヲ省略ス

#### (II) 守者隘路口ノ側方ニ隔在シテ布陣スル場合ノ戰鬪

守者ハ隘路ヲ開放シ攻者ノ射撃ヲ他方面ニ誘フ主旨ニ基クモノニシテ其位置ハ特ニ敵方ノ外翼堅固ニシテ障碍物等ヲ有シ射界廣濶而モ障碍物ノ後方ニアル砲兵ニヨリ翼側ヲ掩護スルヲ得且正面ト直角ナル退路ヲ希望ス其一般ノ配備ハ持久ノ目的ヲ以テスル側面陣地ノ配備ニ等シ戰鬪指導ノ要領モ亦然リ攻者攻撃ノ要領モ亦側面陣地ニ對スル攻撃ニ準ス而シテ守者ニヨリ開放セラ

レアル隘路口ニ對シ如何ニ處置スヘキヤハ一般ノ狀況地形特ニ豫期スル敵進出部隊ノ遲速及其行動ニ關スルモノトス

#### (四) 守者隘路内ニ布陣スル場合ノ戰鬪

守者ハ隘路内ニ於テ攻者ノ利用シ得ヘキ地域ニ對シ比較的廣正面ヲ以テ對シ得ル如ク且遠ク攻者ノ前進ヲ阻支シ得ル如ク砲兵機關銃等ヲ配備スヘシ守者若深田中ノ堤防ノ如キ道路ノ外全ク通過スヘカラサル隘路内ニ布陣スルトキハ攻者ノ攻撃ハ全ク困難ニシテ多クハ之ヲ斷念シ他ノ術策ヲ用フルニ至ルモノトス守者ノ陣地若山徑等ニシテ道路兩側ノ地形多少ニテモ歩兵ノ通過ヲ許ス場合ニハ攻者ハ時間ノ消費ヲ厭ハス一部隊ヲ以テ敵陣地ノ翼側ニ向ハシメサルヘカラス此際迂回等ヲナシ得レハ成効速ナルコト多シ

#### 掩蔽物利用ノ戰鬪ニ關スル原則的說明

地上ニ存在スル掩蔽物ノ主要ナルモノハ森林及住民地ナリ而シテ此兩者ハ戰術上ノ價值及利害ニ於テ著シク相似タル所アルヲ以テ兩者ヲ一括シテ之ヲ研究シ



得ヘシ我國歩兵操典第二部第八章ニ於テ兩者ヲ一括シテ説述シアルモノ蓋シ所  
以アリト謂フヘシ

(一) 掩蔽物ヲ利用スル戦闘ノ特性

掩蔽物ヲ利用スル戦闘ハ之ヲ利用セサル戦闘ニ比スレハ遮蔽、掩護、通視及運動  
ニ關シ前二者ハ通常利益ヲ與ヘ後二者ハ普通妨害ヲ及ホスノ差アルハ諸官ノ  
熟知スル所ニシテ今更之カ解説ヲ要セサルヘシ  
森林及住民地ハ成立ノ状態ニヨリ戰術上ノ價值ニ異同ヲ生スルモノニシテ主  
要ナル差異ハ周縁ニ於ケル戦闘ノ韌強性、内部存在ノ部隊ニ及ホス慘害ノ状態、  
内部ニ於テ發生スヘキ戦闘ノ差異等ナリトス  
周縁及其附近ニ於ケル戦闘ニ於テ後方部隊ノ遮蔽ノミニ利用シ得ヘキ森林及  
住民地ハ其價值殆ト相等シ然レトモ圍壁ヲ有シ家屋ノ建築、石、煉瓦等ヨリ成ル  
住民地ハ周縁ニ設備ヲナシテ利用シ得ル森林ニ比スレハ通常戦闘ハ韌強ナリ  
掩蔽部内部ニ於ケル銃砲火ニ對スル慘害ハ森林ハ主トシテ精神上ニ及ホス感  
響ニ過キサルモ住民地ハ堅硬物體ノ破砕物ノ飛散ニ伴フ損害又時トシテ火災

ノ危害アルコト之ナリ

住民地ハ民家ノ構造及民家併立スル状態ニヨリ森林ニ比スレハ局部的ノ交通  
ハ頗ル不便ニシテ特ニ設備ヲ要スルモノアルモ全般ニ關スル通過ハ道路ノ存  
在等ニヨリ方向ヲ誤マル等ノ害ヲ受クルコト少キモノトス

住民地及森林ハ成立ノ根本ヲ異ニスルカ故ニ内部ノ有様モ亦兩者ニ差異アリ  
從テ兩掩蔽物内ニ起ル戦闘モ亦差異ヲ生ス森林ニ在リテハ密集隊形ヲ以テス  
ル遭遇戦トナリ住民地ニ在リテハ堅固家屋ヲ利用スル複廓戦ヲ生スル等之ナ  
リ尙森林ハ廣袤及樹木成立ノ状態ノ如何ニヨリ内部ニ於テ欺騙的動作ヲナシ  
得ルコトアルモ住民地内ニアリテハ普通斯ノ如キ方法ヲ採用シ難シ

(二) 周縁ニ於ケル戦闘

軍隊ヲ掩護スルニ十分ナル價值ヲ有スル周縁アル森林及住民地ニ於テハ主要  
ナル戦闘ハ通常周縁ニ於テ行ハルルモノナリ守者若之ヲ堅固ニ守備セント欲  
セハ周縁ヲ數區ニ區分シ各獨立防禦ヲナシ得ル如ク設備ス此際道路ヲ某地區  
ノ中央ニ置クコトニ注意スヘシ此點ニ關シテハ住民地ハ森林ニ優ルコト大ナ



リ)周縁附近ニ於テ適當ナル地物アルトキハ特ニ支撐點トシテ設備ヲナス(住民地ハ此點ニ關シテモ便利ヲ得ルコト大ナリ)又必要ニ應シ複廓ヲ設ケ特別守備兵ヲ備フ(此點ニ關シテモ住民地ハ便ナルコト多シ)内部ニ於ケル慘害ヲ避クル爲消火(住民地ノミ)其他ノ準備ヲナシ總豫備隊ハ掩蔽物外已ムヲ得サレハ掩蔽物内ニ於テ諸方向ニ進出スルコト容易ナル地ニ位置セシム而シテ攻者ノ攻撃ニ際シテハ總豫備隊ハ攻勢ニ轉シ又ハ防禦線ヲ延伸シ以テ攻者ヲ擊退ス

攻者守者ノ掩蔽物周縁ヲ守備シアルニ會シ之ヲ攻撃センニハ攻撃點ハ圍壁周縁附近ノ支撐點又ハ内部複廓ニ遠キ方面ニシテ直接守者後方部隊ト決戦ヲナシ又周縁守備隊ノ側背ヲ脅威シ得ルカ若ハ最モ迅速容易ニ前方出口ニ進出シ得ヘキ入口附近ニ選定スルヲ有利トス而シテ攻撃實施ニ方リテハ準備火戰ヲ緊要トシ特ニ住民地ニ在リテハ砲兵及工兵ヲ以テ突擊點ノ破壊、内部ニ於ケル擾亂及火災ノ惹起ヲ企圖シ成シ得レハ周縁守備隊ヲシテ後方部隊ヨリ孤立シテ援助ヲ受ケ難カラシム攻者一度周縁敵陣地ニ突入スルヤ通常此處ニ堅固ナル立脚地ヲ構成シ隊伍ノ整頓ヲナシ爾後ノ戰鬪準備ヲ完了シタル後内部ニ進

入スルヲ要ス淺薄ナル森林又ハ村落等ニ在リテハ一舉ニ後縁迄進出スルヲ有利トナスコトアリ

守者單ニ時間ノ餘裕ヲ得ント欲スルノミナルトキハ其守備ハ多クハ圍壁、周縁時ニ重要ナル入口ヲ占領スルニ止メ内部特ニ家屋内ニ守備兵ヲ配置スルハ通常有利ナラス從テ攻者ノ攻撃モ亦前者ニ比シ輕易ナルコト多シ時トシテハ之ヲ力攻スルニ代ヘ他ノ術策ニヨルヲ有利トナスコトアリ

### (三) 掩蔽物内部ノ戰鬪

掩蔽物内部ノ戰鬪ハ森林ナルト住民地ナルトニヨリテ大ニ其趣ヲ異ニスルハ掩蔽物成立ノ根本ヲ異ニスル關係上自然ナルコト先ニ述ヘタルカ如シ

住民地ニ於テ守者ノ内部ニ於ケル抵抗ハ通常攻者ノ砲兵火ヲ避ケ得ル家屋ニシテ而モ阻絶ニヨリテ攻者ヲ支持シ且周縁ニ於ケル戰鬪ノ爲支撐點トナリ得ルカ如キ家屋ヲ守備スルカ恢復攻撃ヲ容易ナラシムル爲特ニ複廓ヲ設ケ之ヲ守備スルニ在リ又時トシテ敗殘兵ノ餘儀ナク家屋ニ據リテ攻者ヲ支持スルニ遭遇スルコトアリ攻者ハ住民地内部ニ在ル守者ニ對シテハ成シ得ル限リ一部



隊ヲ殘置シ要スレハ一部ノ砲兵ヲ以テ之ヲ射擊セシメ主力ハ之ニ關セス後縁ニ進出スルコトヲ努ムヘシ而シテ住民地ハ方向ノ判定比較的容易ナルト縱深森林ノ如ク大ナルモノ少キ爲スノ如キ動作ヲ許スコト多シ  
森林内部ニ於テハ方向ヲ誤リ易ク且守者ハ小部隊ヲ以テ進出セントスル攻者ヲ欺騙シ又他方面ニ誘致セントシ時トシテ有力ナル伏兵ヲ設クル等ノ處置ヲ施シ攻者ハ之ニ對シ隊伍ヲ整頓シ接戰準備ノ戰團隊形ヲ取り前方ニ所要ノ警戒兵ヲ出シ道路、小流、地隙等ノ方向ノ基準トナシ得ヘキ地物ニ依頼シ已ヲ得サレハ羅針盤ヲ利用シテ前進ス此際後方部隊ハ戰團ノ影響ヲ受ケサル距離ニ續行セシム(步兵操典第二部第百三)

狀況如斯ナルヲ以テ住民地内部ニ於ケル戰團ハ固著の慘劇ナル戰團ヲ呈シ森林内ニ於テハ短兵急ナル縱隊ノ遭遇戰ヲ發生スルモノナリ

#### (四) 掩蔽物後縁ノ戰團

守者ハ攻者ノ不準備ナル隊勢ヲ以テ掩蔽部後縁ヲ進出スルニ乘シ攻勢ニ轉シ以テ再ヒ攻者ヲ掩蔽物内ニ壓迫スルコトヲ努ムヘシ攻者ハ掩蔽部ノ後縁ニ達

#### (五)

スレハ輕舉之ヲ進出スルコトナク此處ニ一度立脚地ヲ構成シ諸隊ヲ集結シ掩蔽物外ニ於ケル戰團ノ諸準備ヲ完了シ以テ徐ロニ攻撃前進ニ移ルヲ適當トス

(五) 掩蔽物利用ニ關シ戰團上諸兵種使用法ノ著眼

諸兵種ノ使用法ハ士官學校教程及諸書ニ散見スルヲ以テ茲ニ詳説スルノ必要ナキカ如ク又以上説述シタル所モ諸書ヲ參照セハ自得シ得ル件ナルモ序列上之ヲ略説シテ諸官ノ掩蔽物ニ對スル戰術的觀念ヲ喚起セシメタルモノナリ  
掩蔽物利用ノ戰團ニ於テ諸兵種使用及協同動作ノ基礎觀念ハ掩蔽物ノ成立我運動及射擊ニ及ホス關係ナリトス一般ニ云ヘハ住民地ハ道路ノ外通行シ得サル純然タル隘路ニシテ森林ハ歩兵ノ通過ヲ許スモ砲兵及騎兵ハ路外ノ通過ヲ許ササル準隘路ト見ルヲ得ヘシ從テ諸兵ノ使用法モ之ヲ基トシテ考案スルトキハ概テ適當ナリ但シ地形ニヨル隘路ニアラスシテ地物ニヨル隘路ナルカ故ニ人爲的通過法ハ時間之ヲ許サハ之ヲ設備スルコト比較的容易ナルノミ  
(附言) 予カ茲ニ掩蔽物ヲ利用スル戰團中ニ獨立家屋及市街ニ關シテ説ク所ナキハ(甲)ハ地物利用ノ爲ノ築城トシテ諸官ノ熟知スル所ニシテ(乙)ハ現今



ノ野戰ニ於テハ殆ト見ルコトナク要塞戰又ハ内亂等ニ於テ之ヲ見ルヘク吾人ノ豫想スル戰場ニ於テ價值少キヲ以テ之ヲ省略セリ

### 延長物ニ於ケル戰鬪ニ關スル原則的説明

延長物ヲ利用スル戰鬪ハ守者其兵力ニ比シ著シク延長ナル地區地物若ハ物件ヲ守備シ又ハ之ヲ利用シテ決戰ヲナサント欲シ攻者之ヲ擊攘セントスル際惹起スルモノナリ

予カ茲ニ延長物ト稱セシハ本邦ノ水田、河川、横廣ナル大森林、山地、國境又ハ鐵道等天然人爲ノ地區地物ノ總テヲ含有スルノ意ナリ而シテ此等ノ地區地物附近ニ於ケル戰鬪ハ地區地物ノ戰鬪ニ及ホス影響ニヨリ固ヨリ差異アリト雖何レモ延長物附近ニ於ケル戰鬪タル點ニ於テ戰鬪指導ニ共通ノ特性ヲ有スルモノトス守者ハ兵力ニ比シ延長セル正面ニ亘リ戰鬪ヲ準備セサルヘカラサルカ故ニ全正面ヲ到底實力ヲ以テ守備スルヲ得ス從テ地區地物ノ局部的價值ヲ精査判斷シ重要ナル地點ニ一部隊ヲ配置シ要スレハ敵ノ通行ヲ妨害スル處置ヲ併セ行ヒ主力

ハ遠ク後方ニ何レノ方面ニモ進出シ得ヘキ地點ニ位置シ前線トノ通信連絡ヲ密ニシ且要スレハ交通路ノ補修又ハ設備ヲナシ攻者主力ノ行動方面ヲ察知シ機ヲ失セス該方面ニ赴援シ前線ヲ増加シテ攻者ヲ防支スルカ或ハ之ト決戰ヲナス而シテ決戰ヲナサント欲スルトキハ該方面ニ於テ守者ノ攻撃前進ヲナス爲ノ據點ヲ設備シ置クヲ緊要トス換言スレハ守者長延物ニヨリ戰鬪ヲナサント欲セハ主力ハ準備陣又ハ中央陣ヲ占メサルヘカラサルコト之ナリ此種戰鬪ニ於ケル守者ノ最大困難トナスハ攻者主力ノ行動方面ヲ適時ニ察知スルノ難キニアリ攻者各方面ヨリ進出スル場合ニ於テ何レヲ主力トモ判斷シ得サル場合ニ於テハ一般ノ判斷ニ基キ主力ナラント考定セル方面ニ向ヒ斷然行動スヘキモノナリ縱令後日主力ノ使用方面ヲ誤リタルノ非難ヲ受クルコトアリトスルモ予ハ遲疑シテ爲スナキニ優ルコト數等ナルヲ確信スルモノナリ即チ此際取ルヘキハ唯斷ノ一法アルノミ又攻者主力ノ行動方面ヲ察知スルヲ得ハ其方向ニ前進スルモ時既ニ日没ニ近ク又ハ夜間トナリテ如何トモナシ難キ場合モ生セン此ノ如キ場合ニ於テ予ハ夜襲ヲ敢行スルノ必要ヲ確信ス區々ノ學理ニ拘泥シ夜襲ノ害ヲ顧慮シ終ニ無



爲ニ終ルカ如キハ予ノ取ラサル所ナリ

守者若豫備隊ノ運用困難ナル地形ニ於テ延長物ノ戰鬪ヲ企圖スルトキハ前述ノ方法ト異リ局部的價值ニ應シ各部獨立シテ戰鬪シ得ル獨立守備兵ヲ配置シ總豫備隊ハ全ク之ヲ有セサルカ極メテ僅少ナル豫備隊ヲ貯フルカ或ハ豫備隊ヲ數箇所ニ分置シ各方面毎ニ戰鬪ノ勝敗ヲ爭フコトヲ勉メサルヘカラス換言スレハ此場合ハ所謂分列陣ヲ布キ全ク地區ヲ獨立的ニ交戦セシメサルヘカラス此際ニ於ケル戰鬪ハ一ニ各方面ニ於ケル部隊ノ奮勵努力ニ待ツ外ナシ

攻者若守者ノ延長物ヲ守備スルカ又ハ其後方ニ存在スルコトヲ知ルニ方リ特ニ前方ニ於ケル守者ノ守備スル通過點等隘路ナルトキ(河川ノ如キ)ハ單ニ力攻ヲ以テスルハ多クハ奏効困難ナリ茲ニ於テ所謂術策ヲ廻ラササルヘカラス至ルニ至ル即チ

(第一) 攻者不意ニ乘シ急襲ヲ以テ目的ノ達成ヲ計ル

(第二) 攻者ハ守者ノ守備セサル側方ヨリ進入スルヲ得ハ上策ナリ迂回ハ即チ斯ノ如キ場合ニ有利ニ應用セララル

(第三) 攻者陽動ヲ以テ守者ヲ欺騙シ守者ノ遲疑スルニ乘シ攻者所望ノ如ク主力行動方面ヲ選フヲ要ス

(第四) 攻者同時ニ數多ノ地點ヨリ守者ノ守備地域ニ進入シ守者ヲシテ煩ニ堪ヘサラシメ以テ目的ヲ達成ス

(第五) 攻者副通過點ヨリ一部ヲ進入セシメ本通過點ト豫期スル地點ニ存在スル守者ヲ正面部隊ト協力シテ之ヲ驅逐シ主力ノ進出ヲ企圖ス

以上各種ノ方法ヲ如何ニ利用スヘキヤハ狀況特ニ地區地物ノ狀態ニ關ス例ヘハ河川ニ於テハ陽動多ク成效シ山地ニ於テハ迂回カ能ク成效スルコト多シ之ヲ要スルニ延長物ノ攻防ニ於テハ守者ハ準備陣、中央陣又ハ分列陣的ノ戰法ヲ應用シ攻者之ニ對シ機動ヲ以テ守者ノ虛ニ乘セントスルハ此種戰鬪ニ共有ノ特性ナリトス

一般戰鬪原則ヲ局地ノ價值ニ應シ又此術策トシテ併用シ以テ機ヲ誤ラサレハ蓋シ以テ局地戰ヲ語ルニ足ランカ



## 山地戰

## 想定

## 所要地圖

二十萬分一  
二萬分一名古屋、京都及大阪  
神戸、自子、川崎、龜山、鈴鹿峠、關

一 京都占領ノ目的ヲ以テ關ヶ原方向ヨリ南下セル藍軍主力  
(三師團ヲ主幹トス)ハ目下犬上川(彦根南方)右岸地區ニ位置シ  
仁保川左岸比留田、鏡山ノ線附近ニ陣地ヲ占領シアル敵ニ對  
シ前進準備中ナリ

二 伊勢方面ヨリ敵ノ側背ヲ脅威シ軍主力ノ作戰ヲ容易ナラ  
シムヘキ任務ヲ以テ桑名ヲ經テ前進シタル藍軍A支隊ハ五  
月三日夕其戰列部隊ヲ以テ四日市附近ニ達シ宿營ス

同日午後八時迄ニA支隊長ノ知り得タル狀況概ネ左ノ如シ  
(1) 兵力未詳ナル諸兵種連合ノ敵ノ一縱隊ハ土山ヲ經テ

東進シ本日夕關附近ニ達シ停止セルモノノ如ク其騎兵  
約百ハ國府(庄野南方約一里)附近ニ約二十八庄野附近ニ  
アリ

(2) 我騎兵第一中隊ノ主力ハ神戸附近ニ一部ハ石藥師附  
近ニ在リテ敵騎ト相對峙ス

(3) 軍主力ノ前進開始ハ五月五日ノ豫定ナリ

A支隊ノ編組

長 少將某

步兵第一旅團(第一第二聯隊)

騎兵第一中隊

山砲兵第一大隊及同第四中隊(聯隊段列ノ一部附屬)

工兵第一中隊



師團電話隊半部

衛生隊半部

其他輜重若干

(注意)前想定ニ關シ示シタル注意事項ハ之ヲ本想定ニモ適用ス

第一問題 (宿題)

支隊ノ目的ニ基キ各種場合ヲ顧慮シ追分、關間地形觀察(要圖答解)

但シ梯尺ハ五萬分一トス

第二問題 (席上)

五月三日午後八時ニ於ケル藍軍A支隊長ノ決心(理由ヲ要セス)

重要ナル處置

第一、二問題答解上ノ著眼

一 本軍方面ノ狀況

彼我ノ本軍ハ約一日行程ヲ隔テアリ而シテ我本軍ハ五月五日ニアラサレハ前進ヲ開始シ得サルカ故ニ敵本軍ニシテ依然仁保川左岸ノ陣地ニアルモノトセハ前進ニ一日、軍ノ攻撃準備ニ一日、各師團ノ準備ニ一日ヲ要スルモノト見積ルトキハ我軍ノ攻撃開始ハ五月八日頃トナルヘシ諸準備カ好景況ニ一日ニテ總テ完成シタリトスルモ七日ニアラサレハ攻撃ヲ開始シ得サルヘシ此點ヨリ見ルトキハ本軍方面ノ狀況ハA支隊ニ特別ノ戰術的要求ヲナス程度迄切迫シアラサルヲ知ルヘシ  
湖東平地ト伊勢平地トハ湖東山脈ニヨリ離隔シアルヲ以テ伊勢平地ニ於ケル支作戰ハ伊勢平地ノミニ於テ行ハルル間ハ間接ノ影響ハナキニ非サルモ直接ノ影響ハ尠キモノト謂ハサルヘカラス此點ヨリ見ルトキハ伊勢平地ノ作戰ハ



稍、獨立の性質ヲ帶ヒ一般任務ノ命スル範圍ニ於テスル動作ノ自由ヲ有スルコトヲ知り得ヘシ

二 支隊當面ノ敵情判斷

支隊前面ニ於ケル敵ニ關シテハ諸兵連合ノモノニシテ三日夕關附近ニ達シ其騎兵ハ國府、庄野附近ニアルコトヲ知り得タルノミナリ  
本軍方面ノ狀況及本軍方面トノ關係前述ノ如キヲ以テ關附近ノ敵ニシテ相等ノ兵力ヲ有スルモノナランニハ本來ノ作戰目的ノ攻勢的ナルト持久的ナルトニ拘ハラス關附近ノ如キ隘路附近ニ停止スヘシトハ思ハレス亦一方ヨリ觀察スルトキハ湖東山脈ヲ越ヘ伊勢平地ニ作戰スル敵ハ相等ノ兵力ヲ有スルモノト思考スルコトヲ得ヘシ  
以上ノ如クナルヲ以テ特別ニ判斷ノ資料生セサル限リハ關附近ノ敵ハ明四日我ニ向ヒ前進シ來ルモノト思考スルヲ適當トス

三 支隊任務ノ解

支隊ノ脅威動作ヲシテ直接ノ感響ヲ敵本軍ニ及ホサンニハ支隊ハ當面ノ敵ヲ

四 地形ノ觀察

擊退シ少クモ湖東山徑ヲ占領スルヲ以テ作戰指導ノ第一着歩トナササルヘカラス之カ爲明四日關方面ノ敵ニ對シ前進ヲ要スルヤ勿論ナリトス  
支隊明日ノ前進目標ハ關附近ニ選定スルヲ至當トス之支隊ノ湖東山脈超越ノ第一ノ立脚地トシテ鈴鹿峠、大岡寺峠ノ何レノ方面ニ向テスル行動ニモ便ニシテ若敵兵我判斷ト異ナリ現在地附近ニ停止セル場合ニ於テモ諸隊ニ行動ノ準繩ヲ得セシメ且行程約六里強ニシテ距離ノ關係モ適當ナレハナリ  
次ニ支隊長ハ明四日敵ト遭遇戰ヲ交フルモノト覺悟シアルヲ以テ此見地ヨリ地形ノ觀察ヲナササルヘカラス距離ノ關係上彼我ノ遭遇點ハ庄野村若ハ其附近ナルヘシ  
豫期戰場タル遭遇點附近ノ地形ハ稍、詳細ニ研究セサルヘカラス豫期戰場ハ鈴鹿川ニヨリ縱方向ニ分斷セラレ北岸ノ地區ハ土地起伏多ク地物又錯雜シテ大ナル兵力ヲ統一シテ使用スルニ不便ナリ之ニ反シ南岸ノ地區ハ前者ニ比スレハ軍隊ノ運用ニ便ナリ而シテ四日市ヨリ龜山町ニ至ル迄ハ稍、良好ナル道路ニ



條アリ一ハ東海道一ハ追分―神戸―龜山道之ナリ地區ノ關係前述ノ如キヲ以テ支隊ニシテ攻勢ノ意志薄弱ナル場合ニハ萬一ヲ願慮シ主力ヲ北方地區ニ用フルコトナキニ非サルモ支隊ノ目的ニ鑑ミ攻勢意志旺盛ナル場合ニハ寧ろ南方地區ニ於テ速ニ決戦ヲ企圖スルヲ適當トス若夫レ敵兵主力ヲ以テ北方地區ニ行動スルトキハ同方面ノ一部ハ敵ノ前進ヲ拒止シ南方我主力ハ敵ノ側背ニ迫ルヲ可トス又我主力ヲ北方地區ニ使用シタル場合ニ敵主力ヲ南方地區ニ使用セハ恐ラクハ鈴鹿川高地縁附近ニ於テ戰鬪持久トナルヘシ

(附言) 遭遇戦ノ場合ヲ願慮シ庄野附近ニ於テ何レノ方面ニ主力ヲ使用スヘキヤヲ決定スルハ先ニ與ヘタル地形觀察ノ第一答解ナラサルヘカラス

### 第二問題原案

#### 決心

支隊ハ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ明四日二縱隊トナリ關ニ向ヒ前進セントス

#### 處置

- 一 騎兵中隊ノ主力ハ搜索騎兵トナリ前任務ヲ續行セシム
- 二 歩兵第二聯隊第一大隊同機關銃一小隊、騎兵一分隊、山砲兵第四中隊、工兵半小隊ヲ右縱隊トナシ始メ東海道ヲ後、石藥師、廣瀬、田村、名越、椿世、住山、白川、村地、獨立標高<sup>137.2</sup>鞍部ヲ經テ關ニ向ヒ前進セシム
- 三 歩兵第一聯隊(第三大隊及機關銃一小隊欠)、騎兵半小隊、山砲兵第一中隊、工兵中隊(半小隊欠)ヲ以テ左縱隊前衛トナシ追分―神戸―龜山道ヲ關ニ向ヒ前進セシム
- 四 其他ハ左縱隊本隊トナリ左ノ行軍序列ヲ以テ前衛ノ後方約六百米ニ續行セシム

騎兵一分隊

旅團司令部

歩兵第一聯隊第三大隊

局地戦ノ研究



同機關銃隊一小隊

山砲兵第一大隊第一中隊(欠)

歩兵第二聯隊(第三大隊及機關銃一小隊欠)

衛生隊半部

師團電話隊ノ半部ハ前衛ノ後方ニ在リテ前進セシム

### 狀況

支隊長ハ左縱隊前衛本隊ノ先頭ニ在リテ今朝來我騎兵中隊ノ主力ハ國府附近ヲ占領セル敵騎ヲ攻撃中ナルコトヲ知リツツ前進シ午前八時三十分神戸北端附近ニ達ス此時騎兵中隊長ヨリ左ノ要旨ノ報告ヲ受領ス

#### 報告ノ要旨

午前七時三十分  
北一色發

一 中隊ハ國府東方臺ニアリシ約八十ノ敵騎ヲ驅逐シ午前七

時三十分國府西方高地附近ヲ占領セリ

我ニ對セシ敵騎ノ主力ハ西方ニ一部ハ西南方ニ退却セリ

二 川合北方高地北一色南方高地ニハ徒歩セル敵ノ監視兵ヲ

シキモノヲ見ル歩兵ナリヤ騎兵ナリヤハ未タ不明ナリ又斥

候ノ報告ニ依レハ和田西方高地龜山南側獨立標高89.0附近ニ

モ同様ノ監視兵ヲシキモノヲ見ルト

三 合流點ヨリ下流ノ鈴鹿川ニハ所々徒涉場アルモノノ如ク

又龜山附近高地上ノ森林ハ樹木概ネ矮小ナル小松ナリ

四 中隊ハ猶偵察ヲ繼續セントス

同時鈴鹿川左岸騎兵小隊ヨリモ同時頃津賀附近ニアリシ略同數ノ敵騎ヲ驅逐シ廣瀨西方地區ニ進出シ敵ノ徒歩セル監視兵ヲシキモノ川崎柴崎西南側高地及田村南側高地ニアリ而シテ



其歩騎兵何レナリシヤハ不明ナル旨ノ報告アリ  
此頃西方及西北方ニ當リ時々一二發ノ小銃聲ヲ聞ク

第三問題 (席上)

午前八時三十分ニ於ケルA支隊長ノ敵情判斷

第三問題答解上ノ著眼

本問題ニ於テ著眼スヘキ事項ハ左ノ如シ

- (1) 川合、北一色、和田、龜山南方ノ敵ノ監視兵ハ歩騎兵何レナルヤ不明ナリ
  - (2) 之ヲ發見セシ時刻ハ午前七半時頃ナリ
  - (3) 午前八時三十分即チ目下西方ニ一二發ノ銃聲起リツツアリ
- (1)ニ就テ案スルニ敵ノ監視兵騎兵ナランニハ敵ハ安樂川、鈴鹿川ノ合流點以西ノ地區ニ於テ守勢ヲ取ルナラント判斷セラル
- 若歩兵ナリセハ(2)ノ時刻ト對照シ三個ノ解ヲ得ヘシ

- (A) 敵縱隊歩兵ノ先頭到著セルニアラサルカ
  - (B) 敵兵一部ノ歩兵ヲ以テ龜山東方高地臺上ヲ占領セシメアルニアラサルカ
  - (C) 敵ハ龜山東方地區ニ陣地ヲ占領シア、ルニアラサルカ
- (2)ニ就テ案スルニ若敵兵(A)ノ如クナルハ距離ト時刻トノ關係上有リ得ヘキコトナリ
- (3)ニ就テ案スルニ午前七時三十分敵縱隊歩兵ノ先頭龜山東方ニ進出シタリトセハ目下ハ午前八時三十分ナルカ故ニ其先頭ハ津賀、國府新田ノ線附近ニ進出シ得ヘシ果シテ然ラハ鈴鹿川兩岸ニ於ケル我騎兵中隊トノ衝突ヲ豫期シ得ヘク我騎兵ハ敵ノ前進ヲ妨害スヘキカ故ニ恐ラクハ激烈ナル小銃戰ヲ惹起スルモノト思ハサルヘカラス此點ヨリ見ルトキハ未タ鈴鹿川東方地區ニハ進出セサルモノト判斷セラル
- 以上ヲ綜合スレハ敵ハ未タ鈴鹿川以東ニハ進出シアラサルモノノ如ク支隊長カ敵ト遭遇戰ヲ惹起スルナラント判斷シタルハ遂ニ豫期ニ反スルニ至リシナリ



## 第三問題原案

敵ハ安樂川鈴鹿川合流點以西地區ニ於テ守勢ヲ採リシナラン

(附言)

敵兵一部ヲ以テ龜山東方地區ヲ占領セシヤ或ハ主力ヲ以テ占領セシヤ等ハ未タ之ヲ判斷スルノ資料ヲ有セス目下騎兵中隊長ノ努力シツツアル所モ亦之カ判斷資料ヲ得ントスルニアルナラン

敵兵攻撃防禦ヲナスナラントノ見地ヨリ龜山附近ノ地形ヲ觀察スルニ東北方、東方、及南方ニ對シテ相等ノ射界ヲ有シ陣地亦堅固ナリ攻者ノ行動如何ニヨリテハ後方連絡線ニ危險ヲ感スルコトアルモ小部隊ノ爲ニハ稍、有力ナル攻勢防禦ノ陣地トナスコトヲ得ヘシ

何レノ地點ト雖目的ト其利用法如何ニヨリテハ防禦陣地トナシ得ルモ地形上ヨリ見ルトキハ庄野(彼我ノ遭遇點)關間ニ於テハ比較的有利ナル陣地アリ

敵兵攻勢防禦ヲ企圖スル場合ニ於テハ龜山東方地區ハ支隊長ノ著目スヘ

キ價值アル所ナリトス之先キニ宿題トナシタル地形觀察ノ第二答解ナラサルヘカラス

## 狀況

支隊各縱隊ハ前進ヲ繼續ス

支隊長ハ途中川合、和田、龜山南方高地、上ノ敵ハ騎兵ノ徒歩セルモノナルノ報告ニ接ス各縱隊前衛歩兵ノ一部ハ各當面ノ敵騎ヲ驅逐シツツ前進ス而シテ左縱隊前衛司令官ハ國府附近ヨリ歩兵第三中隊ヲ左側衛トシテ鈴鹿川右岸高地脚ニ沿フ道路ニ派遣ス

午後一時支隊長ハ左縱隊前衛本隊ノ先頭ニアリテ龜山東端行進中左ノ報告ヲ受領ス

騎兵中隊ヨリ

敵ノ歩兵ハ大岡寺西方高地、木下南方高地ニ工事ヲ施シ之



ヲ占領シアリ其兵力及背後ノ狀況ハ未タ不明ナリ中隊ハ  
搜索ヲ繼續セントス

右縱隊長ヨリ

大岡寺西方高地及白川村地△<sup>137.2</sup>附近ハ敵歩兵之ヲ占領シ  
細部ノ狀況ハ未タ不明ナリ

#### 第四問題 (席上)

午後一時ニ於ケルA支隊長ノ決心理由、處置ヲ要セス)

#### 第四問題原案

支隊ハ右縱隊ヲ以テ住山附近、左縱隊前衛ヲ以テ龜山西端附近ヲ占領セシメ左縱  
隊本隊ハ龜山東側ニ開進シ攻撃ノ目的ヲ以テ敵情及地形ノ偵察ヲナサントス

(附言) 今ヤ敵ハ關町附近ニ陣地ヲ占領シアルコト明瞭トナレリ但シ其陣地線、  
配備等ニ關シテハ偵察ノ結果ニ待タサレハ知ルヲ得サルヤ勿論ナリ敵ニ

シテ關町附近ニ布陣スルヨリ察セハ戰術的ノ攻勢持久等ハ現時ノ狀況ニ  
モ關スルヲ以テ之ヲ判スルヲ得サルモ其作戰目的ハ或ハ持久的性質ノモ  
ノニアラスヤヲ疑ハシム又其兵力モ支隊長ノ先ニ推測セル程大ナルモノ  
ニハアラサルヤヲ思ハシム

如斯場合ヲ顧慮シ關町附近ノ地形ノ價值ヲ判斷スルハ先ニ與ヘタル宿題  
ノ第三答解ナラサルヘカラス

之ヲ要スルニ

第一 敵ト遭遇戰ヲ交ユル場合ヲ顧慮シ庄野及其附近ノ地形觀察

第二 敵兵攻勢防禦ヲナス場合ヲ顧慮シ龜山東方地區地形觀察

第三 敵兵持久防禦ヲナス場合ヲ顧慮シ關町附近地形觀察

ハ即チ先ニ與ヘタル宿題ノ答解ナラサルヘカラス此即チA支隊長五月四日ニ於  
ケル作戰指導ノ腹案ヲナスモノナリ如斯準備アリ後始メテ時々刻々生スル諸種  
ノ情報モ其輕重要否ヲ判別シ得ルモノナリ之即チ支隊第一期作戰方針ニ基ク五  
月四日ニ於ケル地形觀察ナリ若敵兵優勢ニシテ第二期方針ヲ採ルノ已ムナキニ



至リタル場合ハ敵情ニヨルカ故ニ今ヨリ之ヲ豫定スルヲ得ス但シ之一ノ腹案ニシテ確定的判断ハ如斯推理ニアル準備ト實際現實スル徵候トヲ對照シテ始メテ之ヲ得ルモノナリ予ハ茲ニ作戰ニハ準備ノ必要ナル一例トシテ之ヲ示スモ諸君ニ特ニ注意スヘキハ自ラ腹案アリ爲ニ先入主トナリ實際ノ敵情ヲ無視シ以テ戰機ヲ誤ルカ如キハ斷シテ不可ナルコト之ナリ

狀況

四日午後六時迄ニA支隊長ノ知り得タル所左ノ如シ

- (1) 白川村地獨立標高<sup>137.2</sup>東南方約六百米ノ地點附近ニ工事アリテ歩兵約一中隊之ヲ守備シアリ
- (2) 大岡寺村西方高地ニハ大岡寺ノ西北方約五百米ノ三叉路附近ヨリ大岡寺村西南方約三百米ノ斷崖アル突出部ニ所々工事ヲ見ル又守備兵アルハ確實ナルモ其兵數ヲ知ル

ト能ハス

- (3) 木下村南方高地ニハ無名祠東方ヨリ獨立標高<sup>131</sup>ノ地點附近ニ亘ル工事アリ木下村縁ニ工事アルヤ否ハ不明ナリ獨立標高<sup>131</sup>高地東南方稜線ニハ工事及敵兵ナキモノノ如シ
- (4) 獨立標高<sup>137.2</sup>ノ地點附近ノ高地上ニハ砲兵掩體アリ現ニ砲二門ハ發見スルヲ得タリ獨立標高<sup>131</sup>ノ地點附近ニモ砲兵掩體ラシキモノアルカ如シ
- (5) 鷺山村西南方約六百米ノ獨立標高<sup>243.4</sup>高地及同村南方約九百米獨立標高<sup>126.2</sup>及關町南方約九百米獨立標高<sup>177.2</sup>高地附近ニハ何レモ敵兵ラシキモノ出沒スルヲ見ル
- (6) 此附近森林ハ高サ五十珊位ノ小松ニシテ運動及展望ヲ妨ケス



斷崖ハ三米内外アリ

堤防、凸道ハ概ネ一乃至二米ニシテ凹道ノ深サ亦約二米ナ

リ土質ハ普通ノ尋常土ナルカ如キモ粘土質多シ

鈴鹿川ハ底質砂礫ニシテ目下水深五十珊ヲ超ユル所少ク

其他無名小流モ徒涉容易ナルカ如シ

(7) 我騎兵中隊ノ一部ハ掠本北方高地附近ニアリテ關及雲

林院村方向ヲ搜索中ニシテ楠原南北兩側(無名祠及獨立標

高96ノ高地)高地ニハ少數ノ敵歩兵斥候アリ又雲林院附近

ニハ敵騎兵斥候アリ

(8) 騎兵中隊ノ主力ハ兩尾、平尾、安坂山、安樂附近ニ在ル略同

數ノ敵騎ト相對シアリ

(9) 我歩兵斥候ハ夕刻概ネ山下南方獨立標高123.2高地、山下及

布氣ヲ連ヌル線附近ニアリ(諸隊ノ位置元ノ如シ)

### 第五問題 (宿題)

翌五日ノ爲A支隊長ノ決心及決心ニ基ク配備要圖

### 第五問題答解ニ對スル總評

本問題ニ對スル諸官ノ考案ハ大別シテ四種トナス

(甲) 大岡寺村附近ノ敵前進陣地ヲ攻略シ引續キ敵本陣地タル關附近ヲ攻撃

セントスルモノ

(乙) 大岡寺村附近ノ敵陣地ニ對シ威力偵察ヲナサントスルモノ

(丙) 大岡寺村附近ノ陣地ヲ敵本陣地ト判斷シ之ヲ攻撃セントスルモノ

(丁) 大岡寺村附近敵陣地ヲ其前進陣地ト判斷シ之ヲ攻撃シ本陣地ノ偵察ヲ

ナサントスルモノ

(甲)案ニ就テ



甲案ハ敵陣地ニ關シ大岡寺ハ前進陣地ト判斷シ之カ攻略ヲ甚容易ナルモノトナシ寧ロ敵ヲ輕視シタルノ感アリ而モ未タ何等確實ナル準據ヲモ得サル豫想スル敵本陣地ヲ直ニ攻撃セントスルニ於テ殊ニ然リトス敵ノ企圖ヲ判斷シ地形ノ價值ヲ適當ニ觀察セハ此附近ノ前進陣地ト雖相等ナル努力ヲ致スニアラサレハ奪取シ得サルコトヲ注意セサリシモノナリ若敵ノ素質性情等ヨリ此種策案ヲ採用シ得ルモノトセハ本地地形ニ於テハ寧ロ中央方面ヨリ力攻スルヲ可トセン

(乙) 案ニ就テ

大岡寺附近ハ敵ノ前進陣地ナリヤ本陣地ナリヤヲ判斷シ得サル爲又ハ同地附近ハ敵ノ前進陣地ナルヤ第一陣地ナリヤ(數線配備ヲナスモノトシテ)ヲ判斷シ得サル爲之ヲ確メントスルニアルカ如シ而シテ大岡寺附近ノ陣地ヲ敵ノ前進陣地ト判斷シ而モ威力ヲ以テ之ヲ偵察セントスルカ如キハ予ノ了解ニ苦ム所ナリ此案ニ在リテハ其偵察目的即チ之ヲ決行セサルヘカラサルノ理由ト之カ結果ヲ利用スル方法ヲ講シアラサレハ不可ナリ強テ此案ヲ成立セシメントセ

ハ敵ノ前進陣地ナルヤ第一線陣地ナルヤ不明ナル場合ヲ顧慮シ前進陣地ナラハ偵察隊ヲ以テ其儘攻撃セシメ第一線陣地ナラハ更ニ兵力ヲ増加シテ攻撃ヲ實施シ得ル如ク區處シ置カサルヘカラス

(丙) 案ニ就テ

本案ハ大岡寺村附近ノ陣地ヲ本陣地ト判斷セルモノナリ果シテ本陣地ナルヤ否ヤハ別物トシテ若本陣地ト假定セハ一部ヲ以テ鈴鹿川南岸地區ニ他ノ一部ヲ以テ白木方面ヨリ包圍ニ任シ主力ハ布氣北方ノ兵力使用ニ便ナル方面ヨリ攻撃スルヲ適當トス此案ニシテ主力ヲ以テ國分寺附近ノ高地ヲ側面ニ置キ北方ヨリ主力ヲ以テ敵翼ヲ包圍セントスルハ危險ナリ若一翼包圍ヲ敢行セント欲セハ南方楠原方面ヨリスルヲ有利トス

(丁) 案ニ就テ

敵ノ前進陣地ナリト判斷セハ白川村地獨立標高 137.2 高地若ハ木下南方獨立標高 131 高地ノ何レカヲ奪取スル如ク指導セサルヘカラス而シテ前進陣地ト判斷シナカラ主力ヲ以テ攻撃スルハ一面ニハ萬全ノ策ヲ取リシ如キモ他方面ヨリ觀



察セハ敵ノ術中ニ陥リタルヤノ感アリ而シテ敵ノ前進陣地ナリトハ我判斷ニ止ルカ故ニ若其判斷ニ誤アリテモ尙可ナル如ク諸配備ヲナシ置カサルヘカラス

### 第五問題答解上ノ著眼

本問題ノ著眼ハ大岡寺、木下ノ線ハ敵ノ本陣地ナルヤ又前進陣地ナルヤヲ考察スルヲ第一著歩トナス

(1) 木下南方獨立標高131附近ヨリ大岡寺西北方約千米ノ金魚形ノ池附近迄ハ約二千五百米アリテ之ヲ防禦スルニハ混成一旅團ヲ要スヘク山地ノ地形ヲ利用ストスルモ少クモ四五大隊ノ歩兵ヲ要スヘシ若敵ニシテ斯ノ如ク多クノ兵力ヲ有セハ何故ニ龜山東方附近ノ比較的有利ナル地點ニ於テ攻勢防禦ヲ爲ササルカ之疑問ノ第一ナリ

(2) 此線ヲ本陣地トナサンニハ何故ニ配兵ノ地域廣キ木下南方獨立標高131高地東南側ノ稜ヲ占領セサルヤ之山地配兵ノ原則ニ反ス之疑問ノ第二ナリ

(3) 敵兵各一部ヲ以テ大岡寺、木下、楠原附近ヲ占領セシメ主力ヲ關附近ニ置キ機動的ニ防禦センニハ地域狹少ニテ動作ノ餘地ナシ之疑問ノ第三ナリ

(4) 此線ニ本陣地ヲ占領スル敵トシテハ楠原附近ノ守備頗ル疎ナル感アリ斯ノ如キ配備ニアレハ忽チ其右翼ヨリ崩壞セン之疑問ノ第四ナリ

(5) 敵兵如何ナル設備ヲ爲セルヤハ固ヨリ知ルヲ得サルモ木下西方鈴鹿川ハ木下、古厩間ニハ通過困難ナル斷崖アリ斯ノ如キ斷崖ヲ背ニシテ陣地ヲ占領スルハ持久戰ヲ企圖スル敵トシテ不利ナルヘシ之疑問ノ第五ナリ

(6) 持久戰ヲ爲ス敵トシテハ時間ノ餘裕ヲ得ル爲前進陣地ヲ占領スル公算比較的大ナリ後方高地ノ最高部ニ敵兵ヲ見ルニ於テ殊ニ然リトス之疑問ノ第六ナリ

以上ノ研究ニ基キ予ハ大岡寺、木下ノ線附近ハ敵ノ前進陣地ナラント判定スルヲ至當ナリト信スルモノナリ

大岡寺、木下ノ線附近ニシテ敵ノ前進陣地ナリトセハ如何ニ之ヲ攻撃スヘキヤ前進陣地ノ攻撃ニ方リテハ



- (1) 速ニ該陣地ヲ撤退セシムルコト
  - (2) 守兵ノ退却ニ尾シテ本陣地ニ迫リ得ルコト
  - (3) 前進陣地奪取後我爾後ノ行動ニ便ナルコト
- 等ハ特ニ顧慮スヘキ要點ナリ

(第一) 速ニ敵ヲシテ陣地ヲ撤退セシムル爲ニハ(a)優勢ナル兵力ヲ以テ壓迫スルカ(b)危険ヲ感スル方向ヨリ壓迫ヲ加フルカ二者其一ニ出テサルヘカラス

(a)ノ爲ニハ兵力使用ノ容易ナル大岡寺方面ヲ適當トシ(b)ノ爲ニハ寧ロ背後ノ危険アル木下方向ヲ可トセン

(第二) 前進陣地ノ守兵ノ退却ニ尾スルコトハ本狀況ノ如キ地形ニテハ殆ト希望スルヲ得ス

(第三) 爾後ノ爲ニハ白川村地ノ獨立標高137.2ノ鞍部及木下南方獨立標高131ノ高地ヲ速ニ占領シ敵本陣地ヲ偵察スルニ在リ

以上ヲ綜合スルニ鈴鹿川北方地區ハ火力ヲ以テ壓シ且一部ヲ以テ要點ヲ占領スルニ便ニシテ同河以南ノ地區ハ兵力殊ニ砲兵ノ使用ニハ不便ナリ

故ニ予ハ此陣地ヲ攻撃スルニハ次ノ如クスルヲ適當ナリト認ム

- 一 步兵第二聯隊長ニ左ノ部隊ヲ指揮セシメ鈴鹿川北岸ノ敵ヲ攻撃セシム
  - 舊右縱隊(步兵第二聯隊第一大隊、同聯隊機關銃一小隊)
  - 舊前衛ノ一部(步兵第一聯隊第一大隊、第三、第四)
- 二 步兵第二聯隊第二大隊長ニ左ノ諸隊ヲ指揮シテ鈴鹿川南岸ノ敵ヲ攻撃セシム
  - 步兵第一聯隊第三中隊
  - 同第二聯隊第五、第六中隊
  - 同 聯隊機關銃一小隊
  - 騎兵一分隊
  - 山砲兵第三中隊

- 三 山砲兵第一大隊第三中隊欠ハ布氣東北方ニ陣地ヲ占領シテ主トシテ右翼隊ノ攻撃ヲ援助スルノ準備ニアラシム
- 四 舊前衛ノ殘餘及步兵第一聯隊第三大隊並同聯隊機關銃隊ノ殘餘ハ步兵第



一聯隊長ノ指揮下ニ在リテ野村西端附近ニ殘餘ハ龜山中央北側附近ニ位置  
セシム

一四四

### 狀況

五月五日拂曉以來A支隊第一線部隊ハ敵火ヲ冒シ地形ノ困難  
ト戦ヒツツ一進一止前進ヲ努メツツアリ敵ハ極力我前進ヲ妨  
害シタルモ兵力ノ懸隔著シキ爲カ正午頃ヨリ漸次其氣勢衰へ  
午後二時頃ニハ逐次西方ニ退却ヲ開始セリ其兵力鈴鹿川北岸  
地區ノモノ歩兵多クモ二中隊、機關銃二銃、砲二門、鈴鹿川南岸ノ  
モノハ歩兵一中隊、機關銃二銃ナリシカ如シ

午後三時第一線諸隊ハ舊敵陣地附近ニ於テ主力ヲ集結シ隊伍  
ノ整頓ヲナシ各一部ヲ以テ白川村地獨立標高<sup>137.2</sup>西方約六百米  
附近、野古里東北方三百米獨立標高<sup>92</sup>附近古廐東南方高地附近

ヲ占領シ更ニ敵陣地ノ偵察ヲナシツツアリ  
午後五時迄ニ知り得タル狀況概ネ圖上記載ノ如シ茲ニ於テ支  
隊長ハ翌六日拂曉ヨリ更ニ敵陣地ヲ攻撃スルニ決シ晝間尙諸  
偵察ヲ繼續ス  
午後八時支隊長ハ軍司令官ヨリ左ノ要旨ノ通報ニ接ス

### 軍通報(午後六時彦根發 龜山通信所受附)

- 一 比留田、鏡山附近ノ敵ハ漸次増加シツツアル模様ナリ京  
都附近ニハ敵ノ一兵團集合中ナルモノノ如シ
- 二 軍ハ本日第一線ヲ以テ安土山、八日市ノ線ニ達セリ
- 二 信スヘキ諜報ニヨレハ横田川河谷ヲ關方向ニ東進セル  
敵ハ歩兵約三千砲約八門ヲ基幹トスルモノナルカ如シ



土人間ニハ強大ナル敵兵奈良附近ニ集合中ニシテ不日伊賀國上野方面ニ前進スヘシトノ風説盛ナリト

### 第六問題

五日午後八時ニ於ケルA支隊長ノ決心

### 第六問題答解ニ對スル總評

諸官ノ考案ヲ大別スレハ四種アリ

- 第一案 今夜前面ノ敵ヲ夜襲セントスル案
- 第二案 全力ヲ以テ明拂曉ヨリ前面ノ敵ヲ攻撃セントスル案
- 第三案 一部ヲ以テ前面ノ敵ニ對セシメ主力ヲ以テ安樂越ヨリ迂回セントスル案
- 第四案 一部ヲ以テ安樂越ヨリ迂回セシメ主力ヲ以テ前面ノ敵ヲ攻撃

### セントスル案

之ナリ

第一案ハ思フニ支隊ノ攻撃最モ迅速ヲ要望スルコトヲ唯一ノ論據トナスモノニシテ其主旨ハ不可ナシト雖此地形ニ於テ月明ノ夜何等特別有利ナル條件モナクシテ夜襲果シテ成効スヘキヤ否ヤ全力ヲ以テ全線夜襲スルカ如キ殊ニ然リ故ニ予ハ此案ニ同意シ難シ然レトモ若強テ之ヲ行ハント欲セハ明拂曉後ニ於ケル主力攻撃ヲ容易ニスル目的ヲ以テ一部(中隊内外)ヲ以テ國分寺最高高地ノ敵ヲ夜襲スルヲ可トス

第二案ハ前面ノ敵ヲ迅速ニ驅逐スルニハ全力ヲ以テ力攻スルニ在リトノ主旨ニ基クモノニシテ一理アリ然レトモ山地戰攻撃ノ成効ハ包圍又ハ迂回ニヨルノ有利ナルコトヲ等閑ニ附シタルモノナリ故ニ未タ以テ充分ト認ムルヲ得ス此案ハ別ニ之ヲ細別スレハ敵陣地判斷ノ差異及前地ニ於ケル地形價值判斷ノ差異ニヨリ主攻撃點ヲ敵ノ左翼ニ指向スルモノト中央獨立標高<sup>243.4</sup>高地方面ニ指向スルモノトアリ敵左翼ニ向フモノハ國分寺高地ノ敵ヲ又中央ニ向フモノハ當面ノ配備



ト鈴鹿川右岸ヨリスル我砲兵ノ協力ノ價值、鷲山東北側附近ニ於ケル援助射撃ノ價值ヲ熟慮スルヲ要ス之ヲ逸シタル考案ハ不備ナリ何レノ方面ヲ主攻撃トナスニ拘ラス國分寺高地、鷲山西方高地、萩原西方高地ノ價值ト推定スル敵兵力トヲ相照シ現在ノ徵候ニ鑑ミ敵ノ防備判斷ヲ適切ナラシメサルヘカラス此判斷ト山地攻撃ニ於ケル主要條件タル援助射撃ノ利用如何ヲ考慮シ爲シ得レハ一舉ニ敵陣地ノ要部ヲ已ムヲ得サレハ先要地占領ノ立脚地ヲ次ニ要部ノ占領ヲ企畫セサルヘカラス換言スレハ一段攻撃已ムヲ得サレハ二段攻撃ノ方法ヲ講セサルヘカラス

此案ニアリテハ兵力使用ノ容易ナルト攻撃進捗ノ階梯トシテ先ツ主力ハ鷲山西方高地ニ向テ攻撃スルヲ適當トス此際國分寺高地、萩原西方高地ヲ有力ナル一部ニテ攻撃シ主力ノ攻撃ヲ容易ナラシメサルヘカラス然リト雖此案ハ兩側何レカ一方陣地ヲ奪取セサル以上ハ爾後ノ攻撃進捗ハ遅々タルコトヲ覺悟セサルヘカラス

第三案ハ力攻ノ時日ヲ要スルニ腐心シ寧ロ敵守備ノ薄ク而モ敵本軍ノ危險ヲ感

スル方面ヨリ迂回セントスルモノニシテ主旨ニ於テハ可ナルモ安樂河谷ノ地形支隊主力ノ行動ヲ許ササルヲ如何セン殊ニ道路ハ車輛ヲ通セサルヲ以テ諸補給ノ掣肘ヲ受クルコト大ナリ故ニ希望ハ可ナルモ實施上困難ナリ

第四案ハ支隊主力ハ關附近ノ敵ヲ撃破セサレハ縱令一時敵ニ危險ノ感ヲ與フルモ後續兵團ニ信賴シ頑強ナル抵抗ヲナスニ於テハ結局不利ヲ招クモノハ支隊自身ナルニ著意シ而モ此敵ノ撃破ヲ助勢セシムル爲一部ヲ安樂越方面ヨリ側背ニ迫ラシメントスルモノニシテ目下ノ狀況ニ於テ適當ナル考案ナリ然レトモ此案ハ迂回方面ヲ熟慮シ其兵力及編組ヲ迂回ノ目的及地形ニ適應セシムルコトニ著目スルヲ要ス而シテ此案ニシテ迂回隊ニ山砲ノ一部ヲ附セサルハ適當ナラス

(注意) 第三案ハ眞ノ迂回ニシテ其目的當面ニ對スルニアラスシテ敵本軍ナルカ故ニ所謂戰略的迂回ニシテ第四案ハ主攻撃ヲ容易ニスルノ意味ニ於ケル迂回ニシテ所謂戰術的迂回トモ稱スヘキナリ

## 第六問題答解上ノ著眼



本問題ニ於ケル著眼ハA支隊ハ當面ノ敵ヲ力攻スヘキヤ、他ニ方策ナキヤ又力攻  
ストセハ如何ナル時機、方向及方法ヲ選擇スヘキヤニ在リ

一 力攻ノ要否

軍前面ノ狀況ハ漸次切迫シツツアルヲ以テ支隊カ速ニ湖東山脈以西ニ現出ス  
ルハ最モ希望スル所ナリ然リト雖關附近ノ敵ヲ放棄シ他方向例ヘハ鮎河越安  
樂越方面ヨリ行動スルモ地形殊ニ道路ノ關係不良ナルノミナラス支隊自身側  
背ヲ顧慮シテ多クノ兵力ヲ後方ニ殘置セサルヘカラサルカ故ニ脅威行動自ラ  
活潑ナル能ハス寧ロ脅威ノ感響ヲ大ナラシムルニハ關附近ノ敵ニ大打撃ヲ與  
ヘ其餘波ヲ敵本軍ニ與フルヲ適當トナス故ニ支隊主力ハ依然當面ノ敵ヲ力攻  
セサルヘカラス

二 攻撃ノ時機

軍前面ノ敵情竝奈良方面ノ敵情ヲ顧慮シ速ニ我前面ノ敵ヲ驅逐スヘキハ前項  
ニ述ヘタルカ如シ之カ爲僅々三四時間ノ偵察ニ基キ此錯雜セル地形ニ於テ夜  
襲ヲ實施スルカ如キハ成効ノ見込甚少シ本狀況ニ於ケル地形ノ如ク準備火戰

ノ熾盛ヲ要望スル攻撃ニ於テ殊ニ然リトス故ニ予ハ支隊攻撃ノ時機ヲ明拂曉  
トナスヲ至當ナリト信スルモノナリ

三 攻撃ヲ容易ナラシムヘキ策案

此策案ヲ定ムルニ方リテハ諸官ハ先ツ步兵操典第二部第九十六ノ第一項及同  
第九十七ノ第一、第二項ヲ比較對照シ次テ同第九十六ノ第二項以下ト同第九十  
八ノ各條ヲ比較研究シ猶第九十四及第九十五ノ一般原則ヲ通讀スルヲ要ス右  
前段ノ比較ニヨリ攻者ハ山地戰ニ於テモ包圍ヲ緊要トシ殊ニ迂回ヲ稱揚シア  
ルコトヲ知り後段ノ研究ニヨリ各部ニ於ケル攻防兩者ノ戰鬪動作ヲ教示シア  
ルヲ知ルヲ得ン

原則ハ上述ノ如クナルモ本狀況ニ於テ果シテ山地戰ノ特色タル迂回策案ヲ應  
用スルヲ得ヘキヤ繼テ關附近敵陣地ヲ觀察スルニ地形頗堅固ニシテ單ニ力攻  
ノミノ手段ニヨル時ハ支隊ハ假令敵ニ比シ著シク優勢ナル兵力ヲ有スルモ多  
大ノ時日ヲ費スニ非サレハ成効ヲ期シ難カルヘシ故ニ爲シ得レハ一部ノ迂回  
ヲ以テ主力ノ成効ヲ催進セサルヘカラス然リ而シテ支隊前面ノ敵ノ兵力ハ支



隊ヨリ著シク劣勢ナルカ故ニ支隊ノ兵力中ヨリ一部ヲ控除スルモ彼我攻守ノ位置ヲ顛倒スルカ如キ患ハ少カルヘシ即チ此際支隊ハ一部ヲ以テ迂回ヲ實施スルヲ有利トシ而モ狀況ハ之ヲ許スヘシ

既ニ迂回ヲ實施スルトセハ何レノ方面ニ之ヲ行フヘキヤヲ研究セサルヘカラス敵ニ與フル影響及道路ノ關係上迂回ハ安樂越方面ニ實施スルヲ適當トセン但シ此方面ハ重要ナル丈敵ノ一部ノ守備兵ニ遭遇スヘキハ固ヨリ豫期セサルヘカラス然レトモ效果ハ比較的大ナルヘシ又此迂回隊ハ給養ノ關係上大ナル兵力ヲ分割スルコト難シト雖一方該方面ノ部隊ハ一時獨立シテ行動シ得ルノ能力ヲ具備セシムルノ必要アルヲ以テ該隊ノ編組ハ歩兵一大隊、機關銃一小隊、騎兵一分隊、山砲一小隊、工兵半小隊ヲ標準トナスヲ可トセン

以上ノ各項ヲ綜合スレハ次ノ歸著點ヲ發見スヘシ

### 判決

支隊ハ一部ヲ以テ安樂越方面ヨリ敵ノ背後ヲ脅威セシメ主力ヲ以テ明六日拂曉

關附近ノ敵陣地ヲ攻撃スルヲ要ス

#### 四 關附近敵陣地判斷及攻撃部署ノ概要

關附近ニ於ケル敵陣地ヲ觀察スルニ三箇ノ稍獨立シタル集團ヨリナルカ如シ

- (1) 國分寺最高高地附近(北方地區)
- (2) 關北方高地附近(中央地區)
- (3) 鈴鹿川右岸高地(南方地區)

之ナリ

北方地區 此附近ノ最高地ニシテ諸方面ヲ瞰制シ得ルノミナラス關一水口道ノ側面ヲ庇護スル一大墻壁タルト守者此地ヲ占領シアル以上ハ之ヲ驅逐セザレハ攻者ハ有利ナル援護射撃ノ位置ヲ得ルコト能ハス又守者トシテ此附近ニハ大兵ヲ使用シ得サルモ地形堅固ナルヲ以テ能ク長時間支持スルヲ得ヘシ叙上ノ如キ要地ナルヲ以テ縱令目下偵察ノ結果大ナル設備ヲ見サルモ該高地ニハ敵ノ守備兵アルコトヲ顧慮セサルヘカラス

中央地區 地形及敵ノ配備ヨリ考フルモ敵陣地ノ主部ト見ルヘク其防備ハ攻



者ニ死角及援護射撃位置ヲ容易ニ得セシメサル爲其防禦線ハ恐ラクハ左ノ二段ニ配備ヲナシアルナラン

(甲) 筆捨山東方千二百米ニアル<sup>280</sup>ノ閉鎖曲線ノ高地及關北方獨立標高<sup>243.4</sup>高地其西南方四百米ノ<sup>220</sup>閉鎖曲線ノ高地

此線ハ斷續的ニ各一部隊ヲ以テ守備スルトキハ能ク前方谷地ヲ火制スルコトヲ得然レトモ此線ハ地形上大ナル兵力ヲ使用スルコト困難ニシテ攻者ハ適當ニ砲兵ヲ使用シ火力ヲ集中スルコトヲ得ヘシ

(乙) 市ノ瀬東北方六百米ノ獨立標高<sup>291.5</sup>高地ヲ核心トスル一帯ノ稜線

此稜線ハ比較的大ナル兵力ヲ以テ堅固ニ守備シ得ルモ市ノ瀬谷地ニ近接シ後方ニ餘地少ナク退路ノ關係モ亦不良ナリ

南方地區 南方地區ハ地形比較的攻者ニ便ヲ與フルト攻者此方面ヲ占領セハ市ノ瀬ノ谷地ハ全ク火制セラルヘク到底中央地區ノ陣地ヲ永ク保持シ難カルヘク敵兵東海道方面ニ退路ヲ變更セントスルノ企圖ヲ有スルトキニ於テハ特ニ堅固ニ守備スルナラン而シテ此方面ノ守備モ亦萩原西北方六百米ノ獨立標

高<sup>177.2</sup>高地及其西方千百米ノ獨立標高<sup>229.6</sup>高地附近ヲ二段ニ守備シアルモノト考ヘサルヘカラス蓋シ<sup>177.2</sup>高地ヲ一小部隊ニテ守備スルトキハ攻者砲兵ノ使用ヲ制限シ得又<sup>229.6</sup>ハ敵カ關一水口道及東海道ヲ保有スル爲堅固ニ守備セサルヘカラサル要點ナレハナリ

更ニ之ヲ攻者ノ見地ヨリ總括シテ觀察スルニ北方地區ハ要點タルニ相違ナキモ兵力殊ニ砲兵ノ使用困難ニシテ之ヲ力攻スルコトハ比較的多クノ時日ヲ要スヘク而モ之ヲ奪取セサレハ中央地區方面ノ攻撃ノ進捗容易ナラス中央地區ハ第一段ノ陣地ハ鷲山方向ヨリスレハ比較的容易ニ奪取シ得ヘキモ第二段陣地ハ北方又ハ南方何レカ其一角ヲ奪取シタル後ニ非サレハ進捗セサルヘシ南方地區ハ北方地區ニ比スレハ兵力ノ使用容易ナルモ東海道ヲ越ヘテ力攻スルコトハ地形上困難ナリ然レトモ砲兵火ヲ以テ中央方面ノ敵ノ背後ヲ射撃シ同方面ノ攻撃ヲ容易ナラシムルヲ得ヘシ

敵陣地ノ判斷以上ノ如シ故ニ支隊ニシテ若十分ナル兵力ヲ有セハ有力ナル各一部ヲ以テ國分寺及萩原西方高地ノ兩地區ノ陣地ヲ同時ニ攻撃スレハ極メテ



妙ナリト雖兵力之ヲ許サス故ニ何レカ一方ニ多ク力ヲ用フル爲他方ノ力ヲ削減スルコトハ蓋シ已ムヲ得サル所ニシテ地形上主力ハ中央地區方面ニ使用セラルルヲ至當トス

五 攻撃指導ノ要領

支隊ハ奈良方面ノ敵情ヲ顧慮スルトキハ一部ノ要點ヲ奪取シタル後主力ノ攻撃ヲ實施スルカ如キ手段ヲ用フルコトナク爲シ得ル限リ一撃ニ敵ヲ攻撃スル如ク攻撃ヲ指導セサルヘカラス換言スレハ地形上ハ二段攻撃ヲ可トスルモ狀況上斯ノ如キ緩慢ナル攻撃ヲ許サス明拂曉一齊ニ攻撃ヲ開始セサルヘカラス

第六問題原案

決心

支隊ハ一部ヲ以テ安樂越方面ヨリ敵ノ側背ヲ脅威セシメ主力ハ明拂曉鷺山西北方高地ニ向ヒ攻撃セントス

理由

- 一 本軍方面ノ狀況漸次切迫ヲ告ケツツアルヲ以テ支隊ハ速ニ湖東山脈西方ニ現出スルヲ希望スト雖關附近ノ敵ヲ措テ主力ヲ以テ他方面ニ行動スルハ地形殊ニ道路關係不良ニシテ之カ實施頗ル困難ナルノミナラス關附近ノ敵ヲ放棄シテ斷然他方面ニ行動スルモ支隊ハ自己ノ側背ノ危險ヲ豫防スル爲大ナル兵力ヲ後方ニ殘置スル必要アルヲ以テ脅威動作自ラ活潑ナル能ハス殊ニ奈良方面ヨリ敵ノ前進シ來ルノ疑アル狀況ナルニ於テ然リトス故ニ支隊ハ寧ろ關附近ノ敵ヲ擊破シ以テ其感響ヲ敵本軍ノ側背ニ波及セシムルヲ有利トナスヘシ
  - 二 關附近ノ敵陣地ハ單ニ正面ヨリ力攻スルノミニテハ敵陣地殊ニ其兩翼堅固ナル爲多クノ時日ヲ要スヘク而モ支隊ノ兵力ハ敵ニ倍スルヲ以テ一部ヲ以テ敵ノ側背ヲ脅威シ主力ノ攻撃ヲ容易ナラシムルコトハ之ヲ爲シ得ルノミナラス其効果モ亦大ナルヘシ
- 安樂越方面ハ直接敵ノ退路ニ迫リ敵ヲ東海道方面ニ壓迫シ本軍ト遠サカラシ



メ得ルノミナラス現在ニ於ケル敵ノ守備モ亦薄弱ナルヲ以テ該方面ヨリ一部ヲ迂回セシムルヲ可トス

安樂越道ハ輻重ノ通行ヲ許ササルヲ以テ軍需諸品ノ補給ハ人力ヲ要スヘク從テ大ナル兵力ハ之ヲ使用シ得サルモ一時獨立シテ戰鬪ヲ爲シ得ルヲ要スルヲ以テ歩兵ノ戰術單位ニ山砲ノ一部ヲ附セルモノナルヲ要ス

三 主力ノ關附近敵陣地ニ向テスル攻撃ハ明拂曉ヨリ實施スルヲ可トス之山地ニ於テ守備嚴ナル敵ニ對シテハ特ニ準備火戰ヲ緊要トナスヘク地形亦夜間攻撃ノ實行困難ナレハナリ

四 關附近ニ於ケル敵陣地ハ國分寺西北方高地、鷲山西方高地及萩原西方高地ノ三部分ヨリナル而シテ敵ハ各一部ヲ以テ南北兩地區ヲ主力ヲ以テ中央地區ヲ守備シ中央及南方地區ハ鷲山西方獨立標高<sup>243.4</sup>高地ヨリ萩原西方獨立標高<sup>177.2</sup>高地附近ニ亘ル線及市ノ瀬東北方獨立標高<sup>291.5</sup>高地ヨリ久我東方獨立標高<sup>229.6</sup>高地附近ニ亘ル線ノ二線配備ヲナシアルヘシ  
北方地區ハ地形峻峻ニシテ大ナル兵力殊ニ砲兵ヲ使用シ得サル爲攻撃頗困難

ナリ然レトモ之ヲ制壓セサレハ中央地區ノ攻撃ハ著シク遲緩スヘキヲ以テ有力ナル一部隊ヲ以テ迂回部隊ト協力シ速ニ之ヲ驅逐スルコトヲ努メサルヘカラス

中央地區ハ設備堅固ナルト小野會下以南ニ於ケル我部隊ノ援助射撃ノ位置ナキモ地形上兵力ノ使用ヲ許ス故ニ支隊兵力ノ大部ハ此方面ノ攻撃ニ使用セサルヘカラス

南方地區ハ敵ノ守備薄弱ニシテ且地形モ亦兵力ノ使用ニ便ナリト雖力攻ヲ以テ東海道以北ニ進出シ直接影響ヲ中央方面ニ及ホスヲ得ス然レトモ火力ヲ以テ市ノ瀬谷地ヲ制スルヲ得テ中央方面ノ攻撃ヲ容易ナラシムルコトヲ得ヘシ又此方面ノ部隊ハ新敵ノ現出ノ顧慮アル東海道方面ニ對シ支隊主力ノ側面ヲ掩護シ得ルノ位置ニアリ故ニ此方面ノ攻撃部隊ハ歩兵ノ一部ニ比較的有力ナル砲兵ヲ附スルヲ可トス

五 支隊ノ攻撃ハ時日ノ餘裕アラハ敵ノ南北何レカ一據點ヲ奪取シタル後主力ノ攻撃ヲ實施スルヲ有利トスルモ今ヤ本軍方面ノ狀況及奈良方面ノ敵情ノ關



係ハ之ヲ許ササルヲ以テ主力ハ各一部ノ成効ヲ待ツコトナク全隊同時ニ攻撃ヲ實施セサルヘカラス

### 處置

一 歩兵第一聯隊第三大隊、機關銃一小隊、騎兵一分隊、山砲兵第四中隊(一小隊欠)、工兵半小隊ヲ右側支隊トナシ午後十時龜山附近出發、邊法寺、池山、安樂越ヲ經テ前進シ敵ノ側背ヲ脅威セシム

二 殘餘ノ諸隊ハ鷲山西方高地攻撃部隊トナシ明拂曉左ノ如ク攻撃準備位置ニ就カシム

(1) 歩兵第二聯隊(第七、第八中隊、第三大隊、機關銃隊(一小隊欠))騎兵一分隊、工兵一小隊ハ右第一線トシ一部ヲ以テ白木西方獨立標高<sup>233.5</sup>高地ノ鞍部附近主力ヲ以テ鷲山東北方稜線上ニ展開シ鷲山西方凹地以北ノ敵ニ對シテ攻撃準備

(2) 歩兵第一聯隊(第二大隊、第七、第八中隊欠、第三大隊、機關銃隊(一小隊欠))騎

兵一分隊、工兵中隊(一小隊ト三分隊欠)ハ小野會下北方斷崖附近ヨリ同村南方三百米ノ臺上南端附近ニ亘リ展開シ鷲山西方凹地以南ノ敵ニ對シ攻撃準備

(3) 兩聯隊戰鬥地域ノ境界ハ鷲山西方凹地及鷲山北端ヲ連ヌル線トス

(4) 歩兵第二聯隊第七、第八中隊、機關銃一小隊ハ豫備隊トナリ小野會下東方凹地ニ位置セシム

三 騎兵中隊ハ各一部ヲ以テ長野峠及大峠方面ヨリ上野方面ノ敵情ヲ搜索セシム

四 電話隊ハ大岡寺攻撃隊、鈴鹿川攻撃隊、兩翼隊及支隊司令部間ニ電話通信網ヲ建設セシム

五 衛生隊ハ大岡寺西組附近ニ開設セシム

六 野戰病院ハ野村附近ニ開設セシム

七 歩砲彈藥各一縱列ハ布氣東端ニ位置セシム

八 大行李ハ龜山東端ヲ先頭トシテ停止セシム



九 殘餘ノ輜重ハ庄野以東ニ位置セシム  
十 決心及處置ノ大要ヲ軍司令官ニ報告ス

### 狀況

A 支隊ハ五月六日拂曉ヨリ關附近陣地ヲ攻撃セントス  
其後支隊長ノ知り得タル敵情左ノ如シ  
國分寺西北方獨立標高<sup>549.5</sup>高地ニハ敵ノ一部隊堅固ニ守備シ  
アルカ如シ又關町南方獨立標高<sup>177.2</sup>高地附近ニモ歩兵ノ一部  
守備シアリ

### 第七問題

A 支隊主力關附近敵陣地攻撃ノ爲地形判斷(要圖答解)

### 第七問題ノ著眼及原案

本問題答解ノ著眼ハ地形ト敵情トニ依リ敵陣地ヲ判斷シ適當ナル攻撃點ヲ選定  
シ如何ニ地形ヲ利用シ攻撃ノ成效ヲ期スヘキヤニアリ

#### 一 敵陣地ノ判斷

敵陣地ノ判斷トハ地形ト敵ニ關シ現實セル徵候ニ基キ先ニ知り得タル敵ノ兵  
力及全般ノ狀況ヨリ打算シタル敵企圖ノ推測等ニヨリ敵ノ陣地線及其配備ヲ  
判斷スルニ在リ  
敵陣地トシテ占領シアル地區ハ鈴鹿川南岸高地ヨリ筆捨山東方千米ノ<sup>280m</sup>閉  
鎖曲線ノ高地附近ニ亘リ居ルナラン之山地ニ於ケル陣地正面トシテ敵兵力ニ  
略相當スルノミナラス地形モ亦相當ニ堅固ナレハナリ而シテ國分寺西北方獨  
立標高<sup>549.4</sup>高地ハ此附近高地ノ最高部ナルヲ以テ敵ハ其一部隊ヲ以テ之ヲ占領  
シアルヘキモ恐ラクハ本陣地ニハアラサルヘシ之如スルトキハ敵陣地ノ正  
面幅ハ著シク過廣トナリ縦合山地ト雖守備ノ薄弱ヲ來スヘケレハナリ  
敵ニシテ筆捨山東方千米ノ高地附近ヨリ以南ノ地區ニ陣地ヲ占領シアルモノ  
トセハ敵ノ占領スヘキ陣地線ハ二線アルヘシ



(甲) 鷲山西側無名小流西岸高地線ヨリ關停車場ヲ經テ其南方獨立標高 177.2 高地ニ亘ル線

(乙) 鷲山西側無名小流西側高地ヨリ同村西南方獨立標高 243.4 高地及關西南側獨立高地ヲ經テ久我東北方千米ノ獨立標高 229.6 高地ニ亘ル線

之ナリ(甲)ハ地形比較的平易ニシテ兵力ヲ集結シテ使用シ得ルノ利アルノミナラス山地ニ於ケル攻撃的動作ニハ比較的便利ナル線ナルヲ以テ敵兵近ク奈良方面ヨリ増加隊ノ到着ヲ豫想セハ或ハ之ヲ占領シ居ルヤモ計リ難シ然レモ此陣地線ハ土山方向ニ退路ヲ有スル敵トシテハ關町北側獨立標高 126.2 高地ヨリ左翼ニ於ケル第一線著シク東方ニ突出シテ 126.2 附近ニ一弱點ヲ成形スルノミナラス高地占領ノ利タル制高ヲ占ムルコト困難ニシテ而モ木下又ハ古厩南方高地ノ我砲兵ヨリ縱射ヲ受クル害アリ又關以南方面ハ鷲山東北方高地ニ我砲兵ノ一部ヲ配置セハ之モ亦縱射ヲ免レス(高所ニアル敵砲兵ハ我砲兵ヲ瞰射スヘシト雖戰鬥主線ヲ縱射セラルル害ハ補フコトヲ得サルヘシ)

(乙)ハ配兵ノ地域狭小ナリト雖敵ニシテ適當ニ工夫シ二日間ノ時日ヲ費サハ所望ノ陣地設備ヲナスヲ得ヘシ果シテ然ラハ甲ニ比スレハ頗ル堅固ナル陣地トナルヘシ然レトモ此陣地ハ比高ノ關係上晝間ト雖巧妙ニ動作スル攻者ノ爲ニハ死角ヲ利用セラルルノ害アルヲ免レス

之ヲ要スルニ敵ニシテ近ク決戰的ノ企圖ヲ抱カハ(甲)ノ陣地ヲ取ルヘク否ラサルニ方リテハ(乙)ノ陣地ヲ占領スヘク若ハ(乙)ヲ本陣地トシ甲線上ニ前進部隊ヲ出ス等ノ處置ヲナスヘシ故ニ支隊トシテハ左ノ如キ場合ニ對シ豫メ準備スル所ナカルヘカラス

(第一) 敵ノ本陣地(甲)線ナル場合

(第二) 敵ノ本陣地(乙)線ナル場合

(第三) 敵本陣地ヲ(乙)線ニ前進陣地ヲ(甲)線上ニ配置スル場合

之ヲ要スルニ敵カ以上三種ノ内何レノ配備ニアルヤハ實際戰鬥ヲ開始シタル後ニアラサレハ判定スルコト能ハス但シ支隊長ノ腹案トシテハ支隊ノ攻撃最モ困難ナル第三ノ配備ニアル場合ヲ基礎トシ攻撃計畫ヲ立案スルヲ萬全ナリトス



二 攻撃點ノ選定

攻撃點ノ選定ニ關スル一般原則ハ固ヨリ山地攻撃ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシト雖茲ニ注意ヲ要スルハ山地攻撃ニ於テハ許多ノ場合ニ於テ其一點ヲ突破シタルノ故ヲ以テ勝敗ヲ一舉ニ決シ得ヘキモノニアラス又山地攻撃ニ於テハ時日ノ多キヲ要スルコトモ亦覺悟セサルヘカラス換言スレハ山地攻撃ハ特ニ重要ナル支撐點特ニ外側ニアル支撐點ヲ奪取シ之ヲ確實ニ保持スルヲ要ス縦令中央部ニ於テ一時敵陣地ノ一角ヲ奪取シ得タリトスルモ此點カ眞目的タル某支撐點ヲ奪取スル爲立脚地トシテ價值ヲ有スル地ナラサレハ多クハ價值少ナク之ニヨリテ勝敗ヲ決スルカ如キハ蓋シ不可能ナリ故ニ步兵操典第二部第九十六ノ第二項ニハ攻撃部隊ハ死角ヲ利用シ敵陣地ノ支撐點及重要ナル鞍部ヲ奪取スヘキコトヲ教示シアリ而シテ敵陣地ノ支撐點ヲ奪取スルニハ許多ノ場合ニ於テ數段攻撃ヲ以テ逐次歩ヲ進ムヘキモノトス

(A) 筆捨山東方千米ノ<sup>280</sup>閉鎖曲線ノ高地ハ稍獨立セル地區ニシテ且比高ノ

關係上國分寺南方獨立標高<sup>233.5</sup>高地ノ稜線方面ニ對シテ火制ニ便ナルノミナラス前方無名小流谷地ヲ火制スルニ便ナリ故ニ此方面ハ之ヲ奪取スレハ敵ノ左翼ヲ包圍スルニ便ナルモ比高及傾斜ノ關係上接近甚困難ナリ殊ニ國分寺西北方獨立標高<sup>549.4</sup>高地ヲ敵ノ一部隊占領シアル場合ニ於テ然リトス

(B) 市ノ瀨東北方獨立標高<sup>291.5</sup>高地ハ複郭的ニ利用シ其東北方<sup>210<sup>m</sup></sup>閉鎖曲線高地ヨリ鷺山西南方五百米獨立標高<sup>243.4</sup>高地及其ノ西南方四百米<sup>220<sup>m</sup></sup>閉鎖曲線高地ヲ經テ關町西側獨立高地ニ亘ル線ハ敵陣地ノ中堅トモ稱スヘキモノニシテ戰鬪ハ此線ニ於テ決セラルヘシ而シテ市ノ瀨東北方獨立標高<sup>291.5</sup>高地ハ最高所ニシテ而モ東面シタル稜線ヲナシ最後ノ抵抗ヲナスニ適スルモ後方ニ餘地ナク且直ニ退路ヲ脅威セラルル關係上恐ラクハ敵ハ<sup>243.4</sup>高地ヲ核心トシタル其南北ニ在ル戰線ヲ選定シアルナルヘシ茲ニ於テハ此線上ニ於ケル戰鬪ハ<sup>243.4</sup>高地及<sup>220<sup>m</sup></sup>閉鎖曲線ノ高地爭奪ニヨリテ決セラルヘシ故ニ攻撃點ハ此地點ニ選定スルヲ緊要トス而シテ<sup>243.4</sup>高地ヲ鷺山方向ヨリ



一舉ニ奪取セシコトハ希望スル所ナリト雖該方面同高地ノ斜面ノ傾斜ハ急峻ナルト該方面ノ谷地ヲ敵陣地左翼方面ヨリ特ニ縱射セラルルノ顧慮大ナリ然レトモ一方ニ於テハ鷲山北方高地ヨリ我攻撃部隊ノ前進ヲ援助シ得ルノ利益ヲ有ス

茲ニ於テ此等ノ支撐點ヲ奪取スル第一階梯トシテ關町北側獨立標高<sup>126.2</sup>高地附近ノ臺上ニ先ツ立脚地ヲ領有シ鷲山方面ト相待チ東南ニ至ル稜線及南北兩斜面ヲ利用シテ攻勢ヲ進捗セシムルヲ可トス(敵ノ本陣地前方ノ線ニアルトキハ第一ニ此點ヲ奪取スルノ必要ナルハ先ニ述ヘタルカ如シ)敵兵若逆襲ヲ行フニ際シテハ運動容易ナル關町方面ヨリ之ヲ行フナルヘシ

三 部署ノ概要

- (1) 國分寺西北方獨立標高<sup>549.4</sup>高地奪取ノ爲 歩兵一中隊
- (2) 筆捨山東方千米<sup>280m</sup>閉鎖曲線高地ヲ火側スル爲 歩兵一中隊、機關銃一小隊
- (3) 鷲山西南方四百米獨立標高<sup>243.4</sup>高地方面ヲ縱射スル爲 山砲二門
- (4) 鷲山方面ヨリ右<sup>243.4</sup>高地ノ敵ヲ攻撃スル爲 歩兵一大隊半、機關銃一隊(一小隊)

隊欠、工兵一小隊

- (5) 關町北側獨立標高<sup>126.2</sup>高地附近ノ敵ヲ攻撃スル爲 歩兵一大隊半、機關銃一隊(一小隊)、工兵一小隊
- (6) 關町西側獨立高地ヲ攻撃スル爲 歩兵一中隊
- (7) 主トシテ關町北側獨立標高<sup>126.2</sup>高地ヲ火制スル爲 山砲兵二中隊
- (8) 豫備隊トシテ歩兵二中隊、騎兵一中隊(一小隊)、工兵一分隊

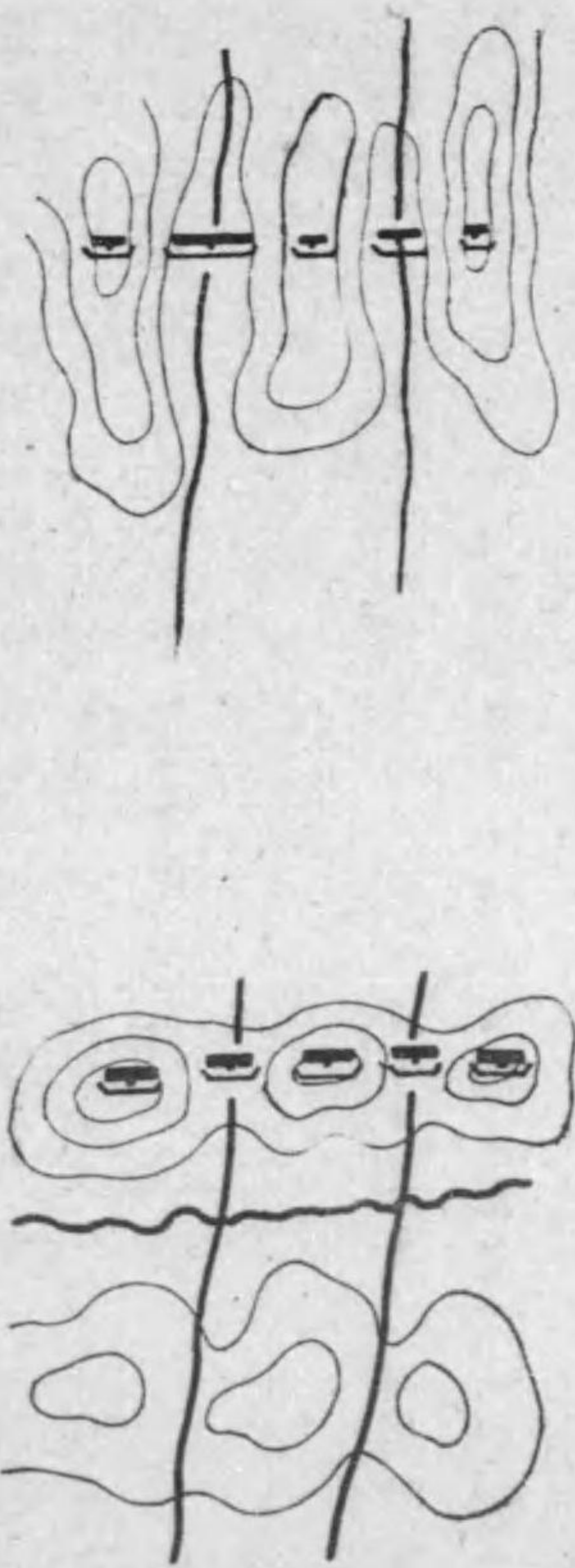
山地戰ニ關スル原則的説明

(一) 山地戰一般ノ性質

山地戰ノ戰鬪性質ハ單純ナル局地戰ニアラスシテ複雜ナル局地戰ナリ即チ概括的ニ觀察スレハ長隘路ノ戰鬪ニシテ河川戰鬪ノ單隘路ノ戰鬪ナルニ對比スヘシ換言スレハ狹隘戰、高地、谷地戰、短隘路戰等ノ各種戰鬪ト延長物附近ニ於ケル戰鬪ノ特性トヲ綜合シタルモノナリ山地ハ山脈(高地脈)ト道路トノ關係カ平行スルヤ將又斜交スルヤ溪谷ニハ河流ノ存在スルヤ否等ニ關シ種々ノ狀態ヲ



呈ス例へハ作戰軍ノ進路ト平行セル山脉中ニ起ル戰鬪ハ狹隘戰ヲナシ直交セ  
ル場合ニハ通常谷地戰ヲナス等之ナリ



山地ハ縦長大ナルヲ一般トスルヲ以テ河川ニ於ケルカ如ク一舉ニ戰鬪ヲ決ス  
ルコト稀ニシテ多クハ韌強ノ性質ヲ有ス又河川ハ絶對ノ障礙タルニ反シ山地  
ハ絶對ノ障礙ヲナサス

山地ハ一般ニ展開不便ニシテ統一指揮ヲ害シ各部下指揮官ノ獨斷ニ委スルコ  
ト多シ(此點ハ山地ハ左右ノ關係ニシテ河川ハ前後ノ關係大ナリトス)

參考

『大將フオン、マントイフェルノ「コート、ドール」州ヲ經テ通過スル爲千八百七十  
一年一月十三日附書翰ニ曰ク

予ハ今後數日ハ命令スルコト少ナク且諸事ヲ舉ケテ軍團長若ハ各街道ニ於  
ケル縱隊指揮官ニ委スルハ狀況ノ然ラシムル所ナリ敵若我ニ抗スルコトア  
ラハ直ニ之ヲ擊退スヘシ山地ヨリ進出シ終リタル縱隊ハ後方ニアル隘路カ  
開放シアルヤヲ確ムル爲直ニ左右ヲ搜索スヘシ若否ラサレハ軍團長諸君ハ  
直ニ干涉シ隘路ニ向ヒ近接スル縱隊ヲ救援セサルヘカラス』

作戰上ヨリ見タル山地ノ價值ハ運動及給養困難ニシテ大兵團ノ運用ニ困難ナ  
リ然レトモ寡ヲ以テ衆ニ對シ又素質劣等ナル軍ヲ以テ行フ作戰ニハ寧ろ適當  
ナラン

山地戰ノ結果ハ大決戰ニ影響スルコトアルモ之ノミヲ以テ決戰的ノ價值ヲ有  
スルコトナシ

以上ノ如クナルヲ以テ山地戰ノ生起スルハ通常左ノ如キ場合ナラン



- (A) 山地カ本軍作戰地ノ側面ニアリ該山地ヲ利用シ脅威シ得ルトキ  
 日露戰ニ於ケル日本第一軍及鴨綠江軍ノ作戰ノ如シ
- (B) 山地カ作戰地ヲ二個ニ分斷シアルトキ  
 千八百七十七年巴爾幹山ノブルガリヤ、ルーマニヤ州ヲ分斷セルカ如ク又日  
 清戰爭ニ於テ遼東平野進出迄ノ日本主力軍ノ作戰ノ如シ
- (C) 作戰地全部山地ナルトキ  
 千八百七十八年ニ於ケルボスニヤ州及日清戰爭初期朝鮮ニ於ケル作戰ノ如  
 シ

(二) 戰術上ヨリ見タル山地ノ特性

山地ハ運動困難ニシテ且兵力ノ展開地域小ナルヲ以テ勢ヒ攻防共ニ兵力ヲ廣  
 地域ニ分散スルニ至ル故ニ作戰指導ニ任スルモノハ特ニ交通設備ニ著意セサ  
 ルヘカラス又攻撃部隊ノ前進ヲ容易ナラシムル爲援助射撃ヲ特ニ緊要トナシ  
 守者ハ重疊射撃等ノ設備ヲナシ配兵ノ不足ヲ補フノ處置ニ出ツルコト多シ  
 山地ハ運動ヲ秘匿スルニ便ナリ比高大ナル稜線ニ占位スルモノ殊ニ然リトス

此關係アルカ爲メニ山地ハ往々偵察困難ヲ來シ又奇襲的行動ノ發生スルコト  
 アリ從テ攻防共ニ附近ノ地區ヲ視察シ得ル最高部ニ著目シ併セテ死角ノ利用  
 又ハ消滅ニ腐心スルニ至ルモノトス

山地ニ於テハ統一指揮困難ニシテ比隣部隊ノ協力爲シ得ルモノハ之ニ努力ス  
 ルハ勿論ナリハ望ミ難キヲ一般トナスヲ以テ各地區ニ於ケル各部隊ハ獨立的  
 行動又ハ部隊長ノ獨斷專行ヲ必要トナシ又局部的ニ據點ノ占領スルコト大ナ  
 ル價值ヲ有スルニ至ル

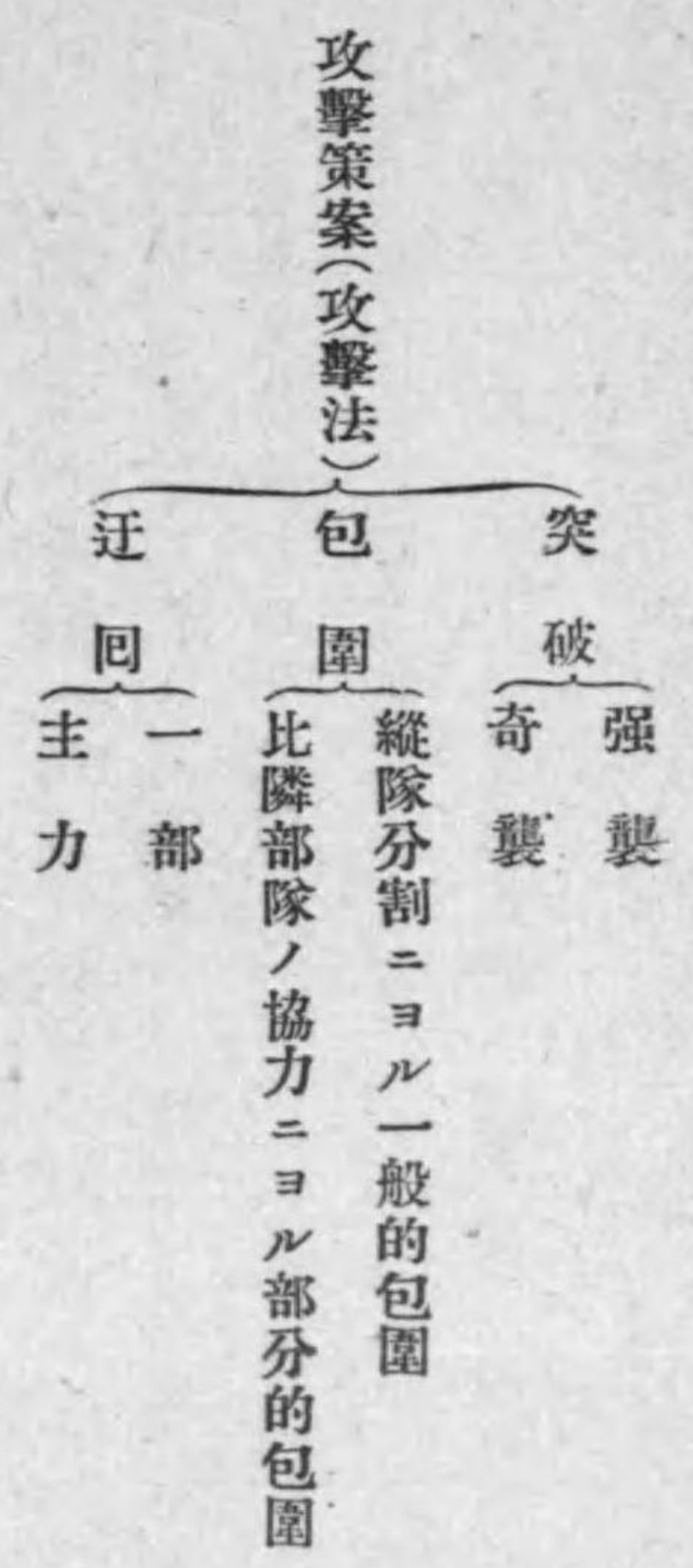
之ヲ要スルニ戰術上ヨリ見タル山地ニ於テ著目スヘキ事項左ノ如シ

- (1) 道路、谷地、斜面、殊ニ稜線、鞍部等ノ火制
- (2) 瞰制地、支撐點或ハ重要ナル鞍部等ノ爭奪
- (3) 交通、連絡諸設備ノ完備

(三) 山地ニ於ケル攻撃策案

山地ニ據レル敵ニ對スル攻撃策案ハ概ネ左ノ如シ





左ニ更ニ之ヲ細説セン

一 強襲

強襲ト稱スルハ力攻ヲ以テ陣地ノ要點ヲ奪取スルモノニシテ攻者ハ特ニ準備火戰ヲ熾盛ナラシメ又特別ノ射擊部隊ヲ配置シ敵ノ側防機關ヲ制壓シ要點特ニ其後方交通路附近ヲ火制シ以テ該地點ヲシテ孤立援ナキニ至ラシメ死角ヲ利用シテ突擊縱隊ヲ進メ白兵戰ヲ準備シ要スレハ障碍物ヲ除去シ以テ一舉ニ之ヲ奪取スルヲ謂フナリ而シテ山地攻撃ニ於ケル攻撃部隊行動ノ特質ハ此場合ニ於テ最モ能ク發揮セラルルモノナリ即チ準備

二 奇襲

火戰ノ熾盛、死角利用、支撐點及鞍部奪取、逆襲ニ對スル準備、追擊射擊等之ナリ

夜間、拂曉時、濃霧降雪其他攻撃ノ特ニ利用スヘキ死角ノ發見等若ハ敵守備ノ遲緩、守備兵ノ移動等ニヨリ機會ヲ發見シタル場合ニ往々奇効ヲ奏スルコトアリ而シテ此場合ニ於テハ特ニ敵陣地奪取後之ヲ確保スルノ方法手段ニ關シ遺漏ナキヲ要ス此奇襲的動作ハ攻者射擊熾盛ヲ期シ難キ而モ比高大ナル最高高地等ヲ占領セル一部隊ニ對シ攻者モ亦一部ヲ以テ之ヲ企圖スルコト多シ

三 縱隊分割ニヨル包圍

山地ニ在リテハ縱合小縱隊ニ分割スルモ平地ニ於ケルカ如ク各個ニ擊破セラルルノ虞少ナキヲ以テ道路及沿道ノ地形即チ高地稜、斜面、谷地等ノ景況之ヲ許サハ爲シ得ル限リ此種ノ方法ヲ應用スヘキモノナリ之山地ニ據ル敵ヲ正面ヨリ力攻スルハ多クノ時日ト損害トヲ要スルニ反シ側翼ヨリ包圍スルノ動作ハ縱合其部隊小ナリト雖偉大ナル効果アルモノニシテ敵

局地戰ノ研究



陣地ノ後方地區ヲ火制シ得ルトキ殊ニ然リトス戰史ニヨルニ許多ノ場合ニ於テハ山地攻撃ハ此種方法ト正面力攻ノ方法トヲ併用スルニ於テ始メテ成效スルモノノ如シ例ヘハ明治三十七年六月二十七日分水嶺ノ戰闘ニ於テ淺田、鎌田兩支隊ノ攻撃ハ淺田支隊ノ正面ヨリノ力攻ト鎌田支隊ノ兄弟山方面ヨリスル包圍トニヨリテ成效シタルカ如キ其一例ナリ

#### 四 比隣部隊ノ協力ニヨル部分包圍

山地攻撃ニ於テハ通常廣地域ニ亘リ縱隊ヲ分割スルコト多キヲ以テ大ナル兵團ヲ以テスル攻防ニ在リテハ敵ノ抵抗ナキカ若ハ抵抗甚タ少ナキ部分ヲ生スルコトナシトセス此場合ニ於テ敵ノ抵抗少ナキ方面ノ部隊ハ地形之ヲ許サハ比隣部隊ノ攻撃ニ協力シ部分的ニ各方面ニ向ヒ包圍スルヲ緊要トス而シテ比隣部隊ノ側面ヨリスル協力ハ困難ハ即チ困難ナリト雖之ヲ爲シ得レハ成效ヲ速カナラシメ得ルハ勿論ナリトス例ヘハ明治三十七年七月三十一日楡樹林子及様子嶺附近攻撃ニ於テ擔任正面ニ敵ノ抵抗少ナカリシ敵ノ過失第二師團ハ主力ヲ以テ様子嶺方面ノ近衛師團ニ一部

ヲ以テ楡樹林子ノ第十二師團方面ニ各左右比隣部隊ニ協力シ部分的包圍ヲ企圖シ成效セルカ如キ其一例ナリ

#### 五 一部隊ヲ以テ行フ迂回

敵ノ守備薄弱ナル方面ヨリ一部隊ヲ以テ行フ迂回ハ山地攻撃ニ於テハ特ニ緊要ナリ山地ニ於テハ戰鬪鞏強ニシテ各個擊破ヲ受クルノ虞少ナキト死角ヲ利用スルトキハ適宜行動ヲ秘匿シ得ルヲ以テ延長物ニ據リテ防禦スル守者ノ弱點ヲ觀破シ之ニ乘スルトキハ防者ハ物質上ノ不利ト共ニ精神上ニ及ホス威響偉大ナルモノニシテ敵陣地堅固ナルニ從ヒ益此種方法ヲ併用スルノ有利ナルヲ見ル例ヘハ先ニ述ヘタル六月二十七日分水嶺附近ニ於ケル淺田支隊ノ攻撃ニ於テ南方ニ於テ淺田支隊兄弟山方面ヨリ敵ノ右翼ヲ包圍スルト同時ニ淺田支隊ノ右側衛ハ小達峪附近ニアリシ小數ノ敵ヲ驅逐シ唐帽山方面ヨリ支隊主力ニ對スル敵主力ノ左側背ニ行動シ支隊主力ノ攻撃ヲ容易ナラシメタルカ如キ又明治三十七年七月十九日第十二師團ハ橋頭附近ニ於テ半側面陣地ヲ占領シアリシゲルシエルマン支



隊混成約一旅團ニ對シ步兵第十四聯隊第三大隊欠ヲ遠ク釣魚台ヲ經テ敵ノ右側ニ迂回セシメタル敵ハ側面陣地ノ利用上過失アリカ如キ共ニ其一例ナリ

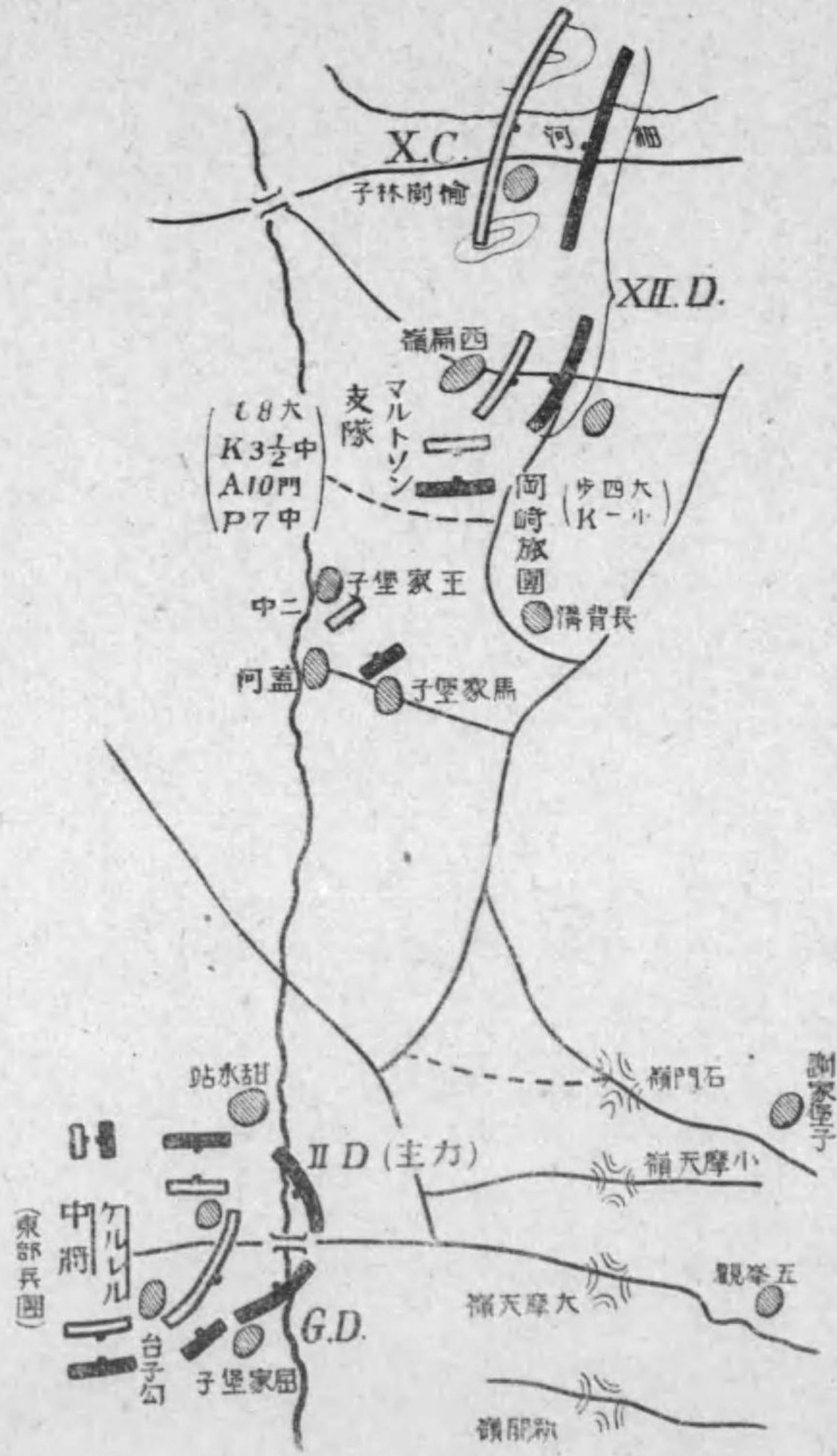
#### 六 主力ヲ以テスル迂回

主力ヲ以テ行フ迂回ハ攻撃策案ト稱スルヨリモ攻撃ヲ避ケテ自己ノ欲スル如ク他ノ目的ノ爲ニ作戰ヲ指導セントスルモノナリ故ニ此方法ハ當面ノ敵ヲ攻撃スルヨリモ尙重要ナル作戰目的ヲ有スルカ或ハ爾後ノ効果ハ兎ニ角目下ハ當面ノ敵陣地ヲ撤セシムルヲ急務トナス場合ニシテ而モ地形之ヲ許ス場合ニ於テ行ハルルモノナリ(若夫レ敵陣地ノ堅固ナル爲故意ニ迂回ヲ企圖シ敵ヲ陣地外ニ誘出シ之ト決戰ヲナサントスルカ如キハ迂回ヲ好餌トシ敵ヲ迎撃スルモノニシテ眞ノ迂回トハ別物ナリ)例ヘハ所謂「怪我ノ功名」ニシテ通例トハ稱シ難キモ明治三十八年二月二十六日鴨綠江軍左翼兵團タル第十一師團(右翼兵團ハ後備第一師團)ハ步兵二大隊ヲ基幹トセル左側支隊ヲ以テ大岑附近ニアル敵主力ニ對シテ主力ノ側背ヲ掩護

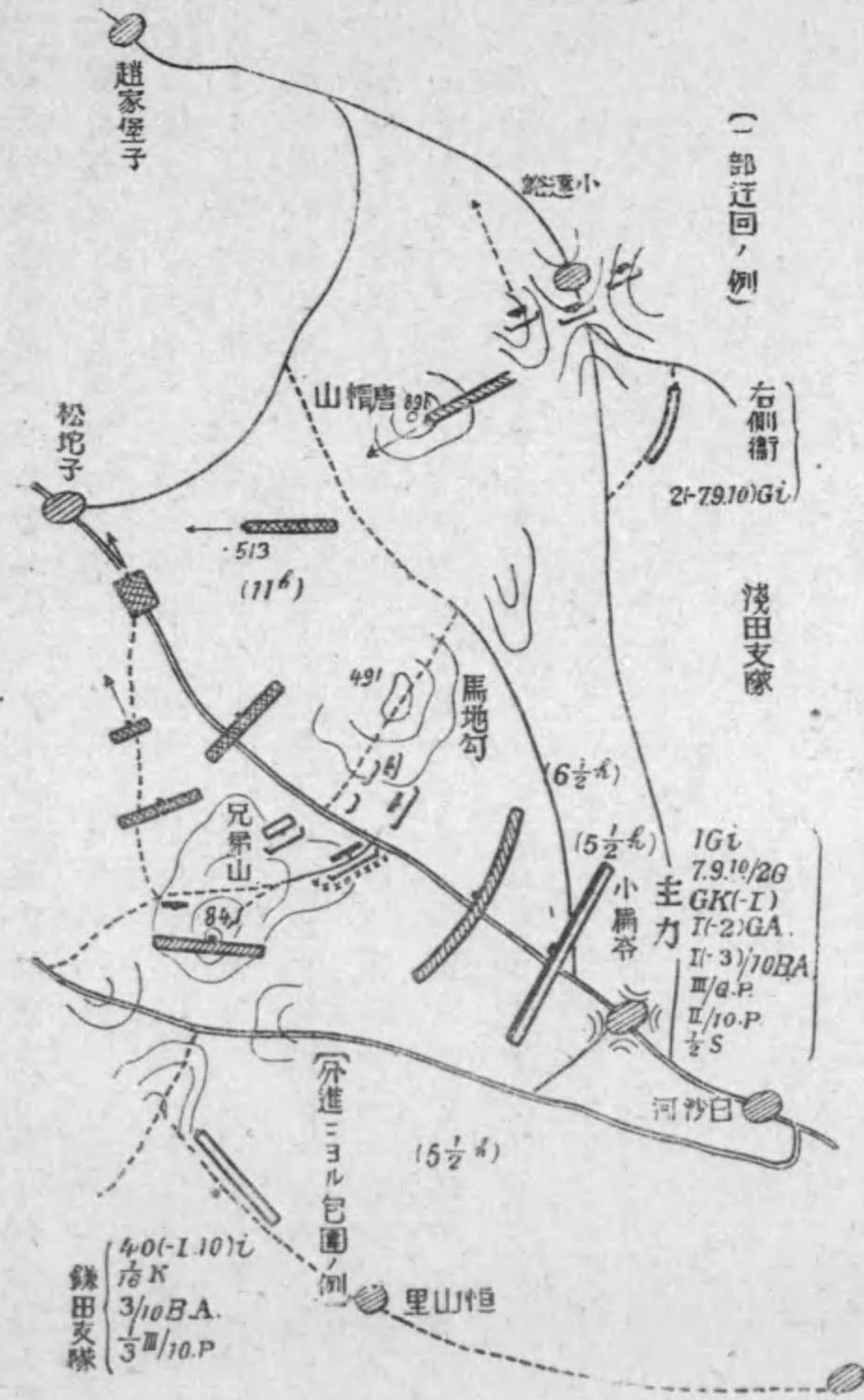
セシメ師團主力ハ小八盤峯ニアル小數ノ敵ヲ驅逐シ五百牛录堡子ニ向ヒ前進シタルカ如キ其一例ナリ

之ヲ要スルニ主力ヲ以テスル迂回ハ暫ク措キ山地攻撃ニ於テハ現時ノ狀況ニ鑑ミ彼是相併用シ以テ成效ヲ速カナラシムヘシ而シテ山地攻撃ニ於テハ許多ノ場合急速ナランヨリハ寧ロ巧遅ヲ以テ成效ノ捷徑トナスカ如シ若夫レ主力ノ迂回ヲ敢行シ戰ハスシテ敵ヲ走スノ方法ヲ發見シ之ヲ敢行スルヲ得ハ當面ニ於テ敵ヲシテ該陣地ヲ撤セシムルコトヲ得ヘシ但シ其後ニ於ケル煩累ニ關シテハ特ニ注意ヲ要スルモノアルヤ勿論ナリトス





戰例 七月三十一日榎樹林及様子岑附近ノ戰圖



戰例 六月二十七日分水岑附近淺田鎌田支隊ノ戰圖



(四)

山地防禦

(A) 一般ノ要領

山地防禦一般ノ要領ハ敵ノ正面攻撃ト包圍迂回ヲ防支スルニアリ  
 正面ノ防止ノ爲ニハ奇襲及強襲ニ對シ道路(鞍部)ヲ扼守シ鞍部ノ兩側ニアル  
 制高部ヲ守備スルヲ要ス  
 包圍及迂回ニ對シテハ諸道路ヲ扼守スルノ外山稜ノ要點ニシテ苟クモ敵ノ  
 進入セントスルモノハ悉ク之ヲ守備スルカ若ハ監視セサルヘカラス山地防  
 禦ニアリテハ兩側ハ常ニ危險ナルカ故ニ正面線ノ延長ハ免ルル能ハス否某  
 程度迄ハ正面ノ延長ヲ許容スルモノト然レトモ此際注意スヘキハ全正面  
 ヲ平等ニ守ラントシテ兵力ヲ分散スルハ勉メテ之ヲ避ケサルヘカラス蓋シ  
 平等ナル守備ト兵力ノ分散ハ有爲ノ敵ニ對シ突破ノ機會ヲ與フルノ不利ア  
 レハナリ又各部隊相互ノ連絡ニハ特ニ注意スルヲ要ス(明治三十七年八月二  
 十一日様子岑楡樹林子附近ニ於ケル戰鬪ニ於テ我第一軍ニ對セシ露軍ハ此  
 注意ヲ缺キシ爲失敗セリ)

山地戰鬪ニ於テ攻者カ迂回ニ於テ成効スル所以ノモノハ蓋シ攻者ハ敵ヲ迂  
 回セント欲シ防者ハ之ヲ防止セントス此競争ニシテ時日ノ問題ヲ除外スレ  
 ハ其成果ハ遂ニ加働者タル攻者ニ歸スヘシ之局部ニ於テ寡兵ヲ以テ敵ヲ拒  
 止スルノ便ニ至リテハ攻防兩者同一ナルヲ以テ加働的ニ側方ニ溢出シタル  
 モノ終ニ成功スルニ至ルヘケレハナリ故ニ守者ハ斯點ニ注意シ遺漏ナキヲ  
 期セサルヘカラス

(B)

防禦ノ方式

山地ヲ利用セル防禦戰鬪指導ノ方針ハ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得ヘシ

中央陣(歩兵操典第二部第九十七ノ第一項)



分列陣(步兵操典第二部第九十七第二項前段)  
地區ノ獨立防禦同第二項後段)

(1) 中央陣

所謂中央陣ト稱スルモノヲ山地利用ノ目的ニ從ヒ觀察スレハ二種アリ  
(甲)ハ山地内ニ於テ決戦ヲ企圖スル防禦(乙)ハ山地ヲ利用シ山地後方ニ於  
テ決戦ヲ企圖スルモノ之ナリ(甲)ハ所謂眞ノ山地戦ナルモ(乙)ハ眞ノ山地  
戦ト見ルヲ得ス之操典ニ(乙)ノ場合ノ戰鬪法ヲ記述セサル所以ナリ  
此種ノ防禦ハ何レノ場合ニ於テモ小數ノ部隊ヲ以テ山地ノ要點ヲ守備  
セシメ主力ハ交通便利ニシテ何レノ方面ニモ進出シ易キ地ニ控置シ山  
地通過ノ常態タル攻者ノ兵力分割ニ乘シ攻者縱隊ノ彼此相應援シ得サ  
ルニ乘シ敵ノ主力ヲ求メテ決戦ヲ交ヘントスルモノナリ而シテ(甲)ノ場  
合ニ於テハ決戦ハ山地内ニ起リ(乙)ノ場合ニ於テハ山地ノ後方ニ於テ起  
ルヲ異ナリトス何レノ場合ニ於テモ地形良好ニシテ防者ニ利便ヲ與フ  
ルカ如キ場合ナラサルヘカラス山地ヲ守備スル各部隊ノ動作ニ至リテ

ハ何レノ場合ニ於テモ同一ナリ即チ鞍部通路ノ守備、山頂最高部ノ占領、  
死角ノ消滅及火制、遮蔽、通信、連絡、交通等ニ關スル諸設備、部分的逆襲等之  
ナリ(甲)ノ一例ハ千八百六十六年七月十六日チロール山中ニ於ケル  
ン少將ノ防禦ノ如ク(乙)ノ一例ハ千八百七十八年一月八日露軍ノバルカ  
ン山脈通過ニ對セシ土軍ノ防禦ノ如シ

(甲) 中央陣ニ關スル戰例

千八百六十六年七月十六日

少將クーン

步兵十二大隊

地方狙撃兵四十八中隊

騎兵一中隊

山砲四中隊

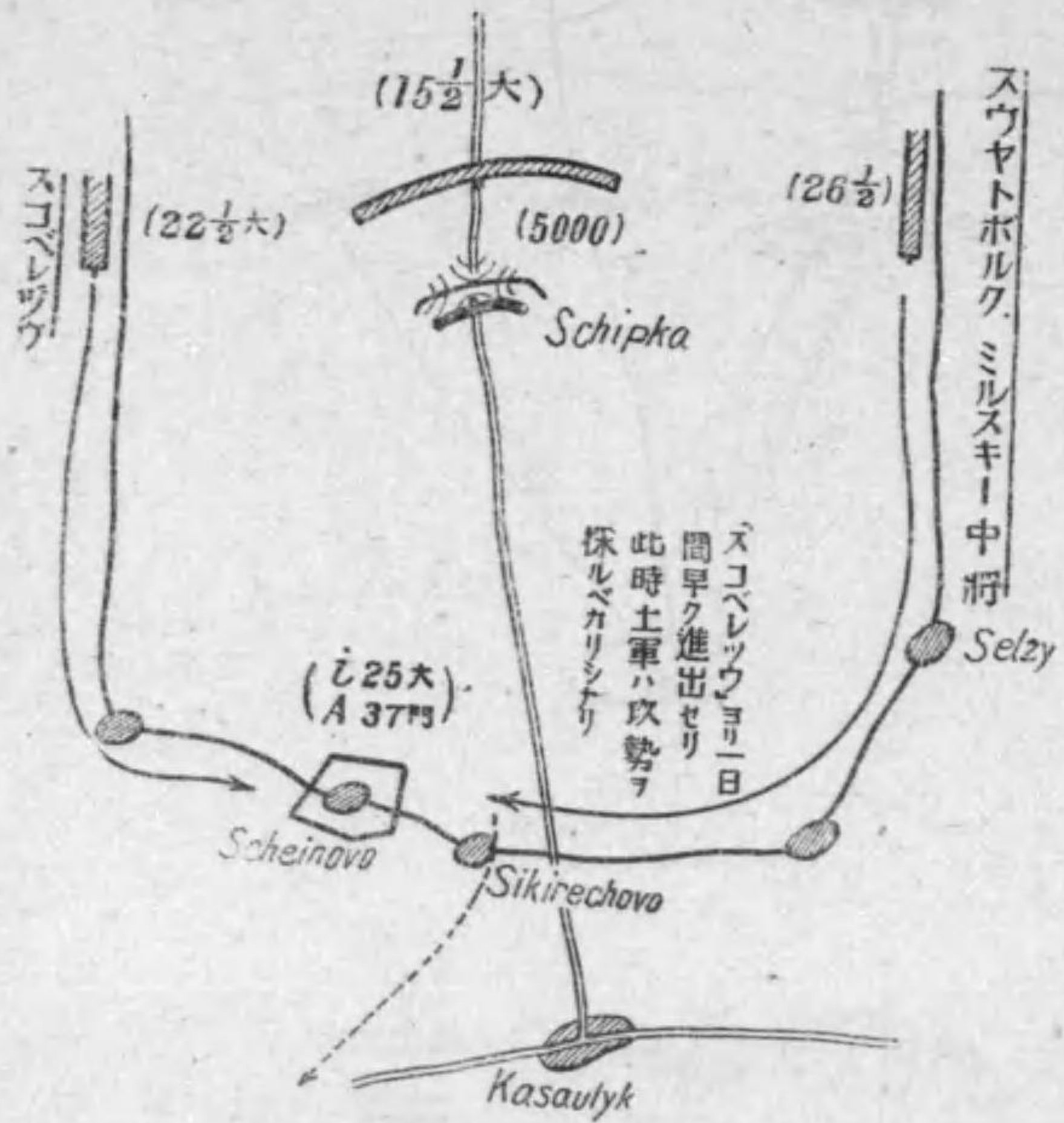
火箭一中隊

野砲一中隊

總兵力

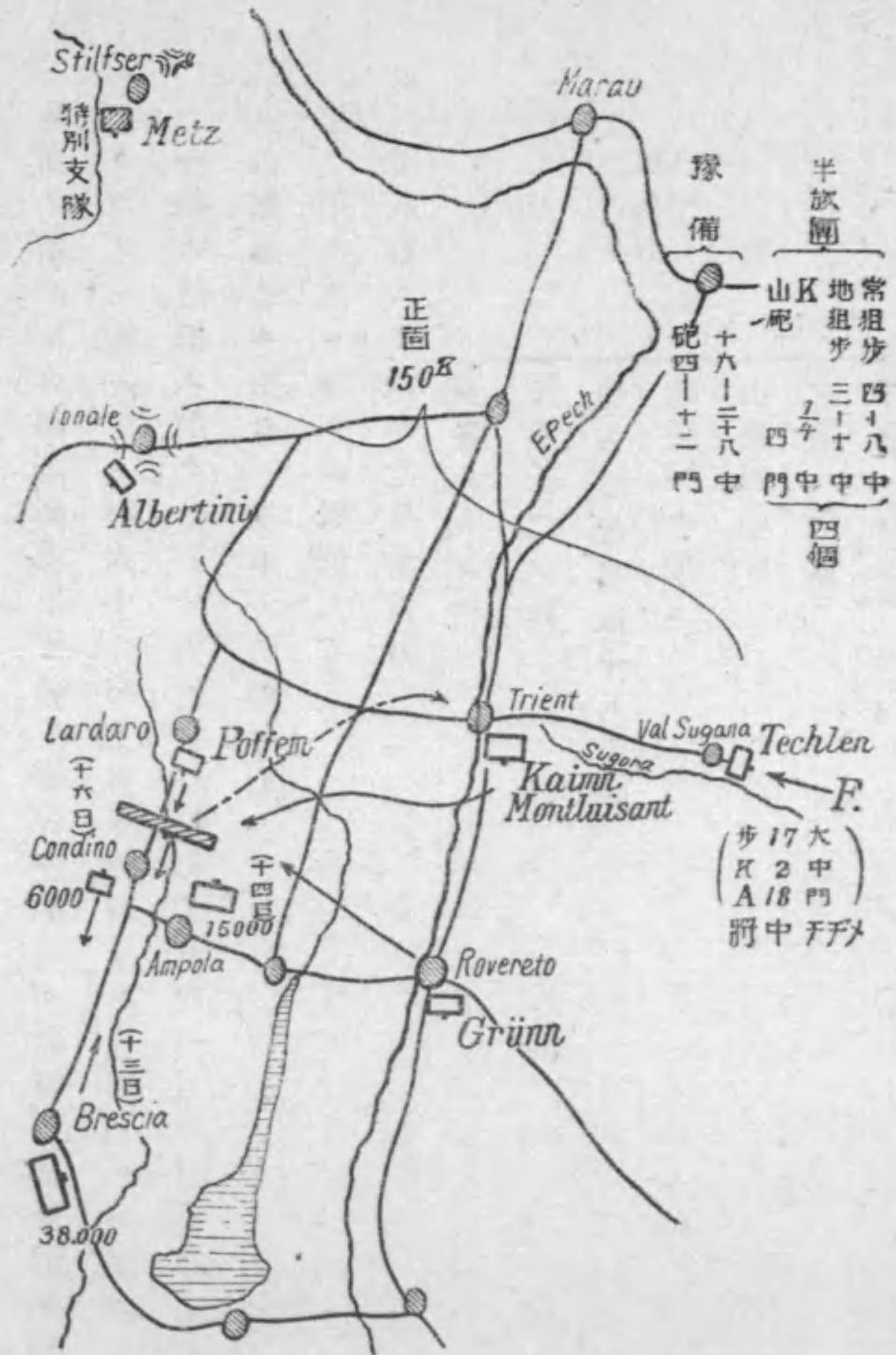
一〇、〇〇〇



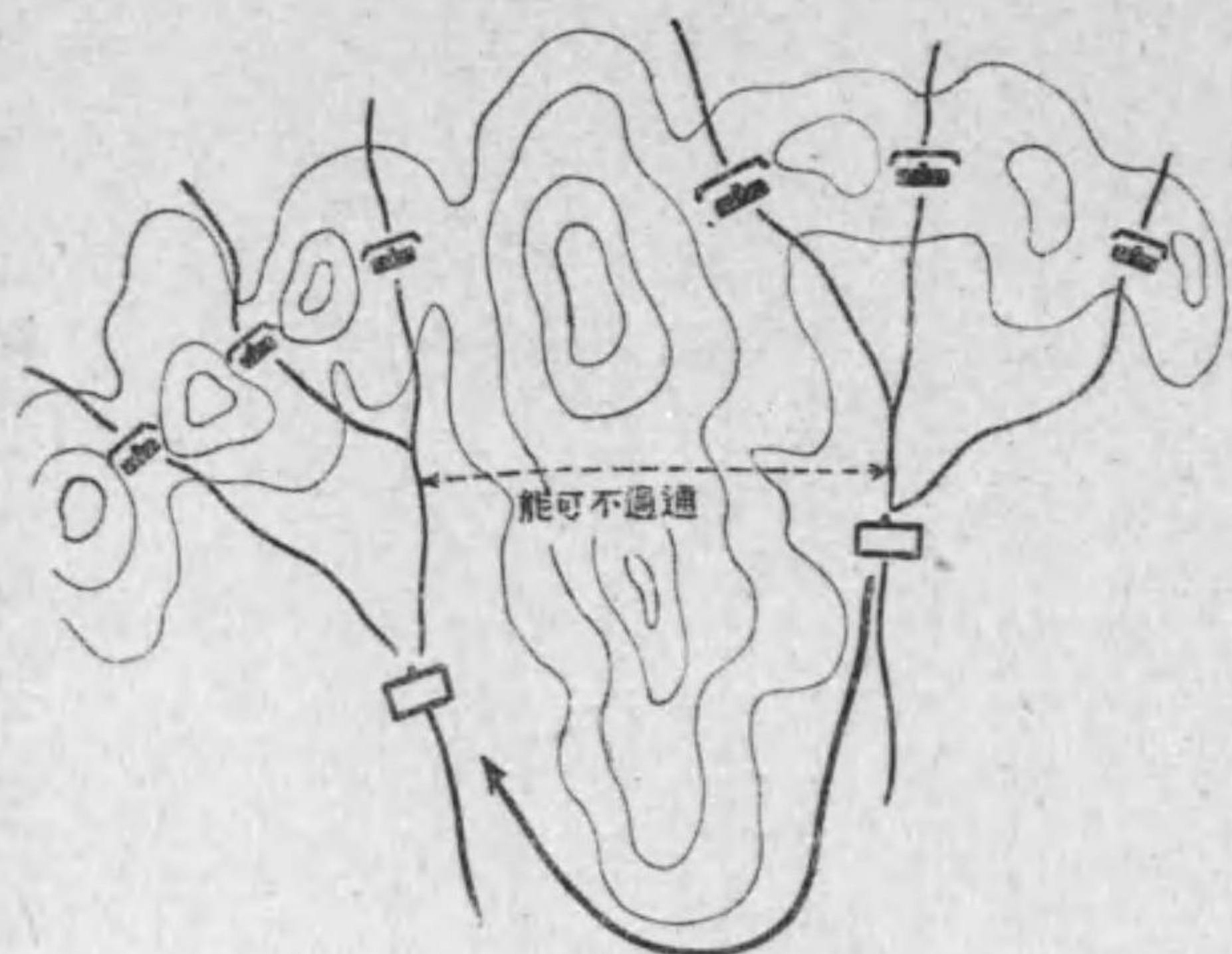


(乙) 戦例 千八百七十八年一月八日露軍バルカン通過ノ例

ノ如クシテハ一層  
 然ルニシテハ一層  
 敵アリニシテハ一層  
 爲ナリトセハ一層  
 中ナリトセハ一層  
 ナリトセハ一層



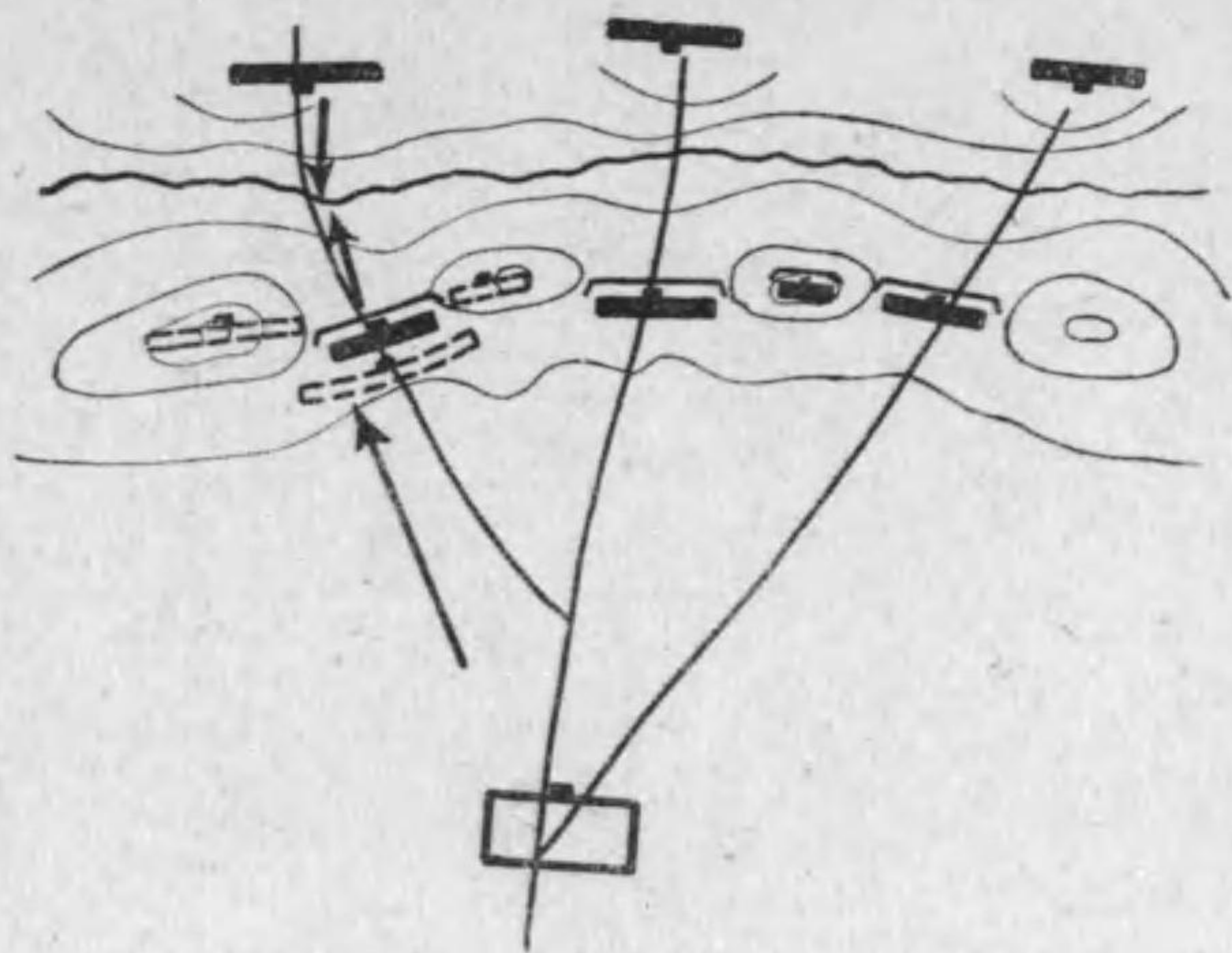




(2) 分散陣

狀況之  
ヲ許セ  
ハ之ヲ  
行フコ  
トアリ

所謂分散陣ハ中央陣ヲ占ムル如ク總豫備ノ自由ナル操縦ヲ許ササル地形ニ於テ已ヲ得ス總豫備隊ヲ數地域ニ區分シ主トシテ該方面ノ需用ニ應セシメ以テ戰勝ヲ得ントスルニアリ而シテ狀況之ヲ許セハ他地域ニ在ル總豫備モ又此地域ニ使用スルニ至ルコトアルハ勿論ナリ今分散陣及中央陣ヲ比較對照スレハ中央陣ハ決戰防禦ニ於ケル總豫備隊ヲ中央後ニ配置セルモノニシテ分散陣ハ兩翼ニ分置シタルモノナリ



中央陣

